

令和2年度三郷町
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

報告書

令和3年3月

三 郷 町

【 目 次 】

第1章 調査の概要	1
1 調査目的	1
2 実施内容	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査方法	1
(3) 調査期間	1
(4) 回収状況	1
(5) 調査結果の図示方法	1
第2章 調査結果	2
1 属性	2
(1) 回答者	2
(2) 性別	2
(3) 年齢	2
(4) 居住地域	3
(5) 要介護認定状況	3
2 家族や生活状況について	4
(1) 世帯の状況	4
(2) 普段の生活での介護・介助の必要性	6
(3) 介護・介助が必要になった主な原因	8
(4) 主な介護者	10
(5) 現在の暮らしの状況	11
(6) 住まいの種類	13
3 からだを動かすことについて	14
(1) 運動の状況	14
(2) 過去1年間の転倒の経験	14
(3) 転倒に対する不安	14
(4) 外出頻度	17
(5) 外出頻度の減少	19
(6) 外出を控えているか	20
(7) 外出を控えている理由	20
(8) 外出する際の移動手段	20
4 食べることについて	23
(1) 身長・体重 (BMI)	23
(2) 口腔の機能	25
(3) 歯の数と入れ歯の利用状況	26
(4) 噛み合わせは良いか	28
(5) 毎日入れ歯の手入れをしているか	28
(6) この6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少があったか	28
(7) 誰かと食事をとる機会	31

5	毎日の生活について	33
	(1) 認知機能	33
	(2) 生活機能全般	35
	(3) 日常生活での読み書き	37
	(4) 日常生活での他人との関わり	39
	(5) 趣味や生きがいの有無	42
6	地域での活動について	44
	(1) 社会参加	44
	(2) 地域住民によるグループ活動への参加意向	44
7	たすけあいについて	49
	(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人	49
	(2) 自分が心配事や愚痴を聞いてあげる人	49
	(3) 病気の際に看病や世話をしてくれる人	50
	(4) 自分が看病や世話をしてあげる人	50
	(5) 家族や友人・知人以外の相談相手	51
	(6) 友人・知人と会う頻度	55
	(7) 1か月間で会った人数	56
	(8) よく会う友人・知人	56
8	健康について	59
	(1) 現在の健康状態	59
	(2) 現在の幸福度	61
	(3) うつ傾向	62
	(4) 飲酒の状況	64
	(5) 喫煙の状況	65
	(6) 現在治療中、または後遺症のある病気	67
9	認知症にかかる相談窓口等の把握について	68
	(1) 家族に認知症の症状がある人	68
	(2) 認知症に関する相談窓口の認知状況	68
10	その他について	71
	(1) デマンドタクシーの利用	71
	(2) 普段の食事の人数	72
	(3) 勤務形態	74
	(4) ここ1ヶ月、平均してよく眠れているか	75
	(5) 1ヶ月の通院回数	76
11	自由記述	77

第1章 調査の概要

1 調査目的

「三郷町高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画」策定の基礎資料とするため、高齢者の介護サービスや生活支援のニーズを把握する目的で実態調査を行いました。

2 実施内容

(1) 調査対象

- 一般高齢者（認定なし）900人（住民基本台帳基に無作為抽出）
- 要支援・要介護認定者80人
- 総合事業対象者20人

(2) 調査方法

郵送配布、郵送回収により実施

(3) 調査期間

令和2年6月19日～7月10日

※7月17日までに返送された調査票を有効回収票としました。

(4) 回収状況

対象者	配布数	回収数	回収率
一般高齢者	900	667	74.1%
要支援・要介護認定者	80	56	70.0%
総合事業対象者	20	17	85.0%
全体	1,000	741	74.1%

(5) 調査結果の図示方法

- ・設問ごとの集計母数はグラフ中に「N=***」、項目ごとの回答数は「n=***」と図記している。
- ・集計結果の百分率（%）は、小数点第2位を四捨五入した値を図記している。このため、単数回答設問の選択肢ごとの構成比の見かけ上の合計が100.0%にならない場合がある。また、2つ以上の選択肢を集約した項目の割合が、選択肢ごとの割合の合計と一致しない場合がある。
- ・複数回答設問では、当該設問に回答すべき回答者数を母数として選択肢ごとにそれぞれ構成比を求めている。そのため、構成比の合計は通常100.0%にはならない。
- ・クロス集計のグラフ・数図では、集計区分ごとの集計母数を「N=***」と図記している。

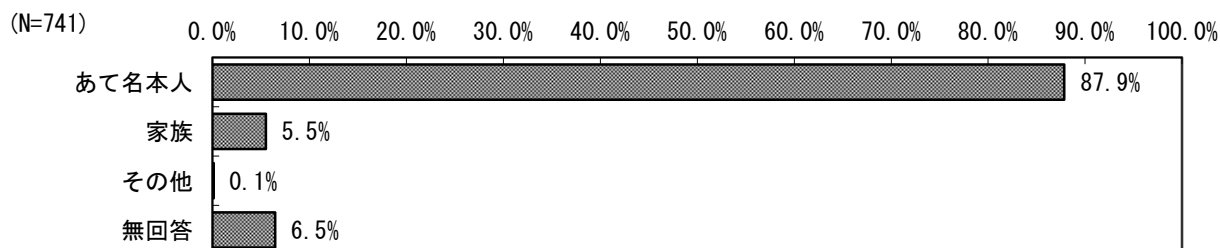
第2章 調査結果

1 属性

(1) 回答者

回答者は、「あて名本人」(87.9%)が多く、次いで「家族」(5.5%)、「その他」(0.1%)となっています。

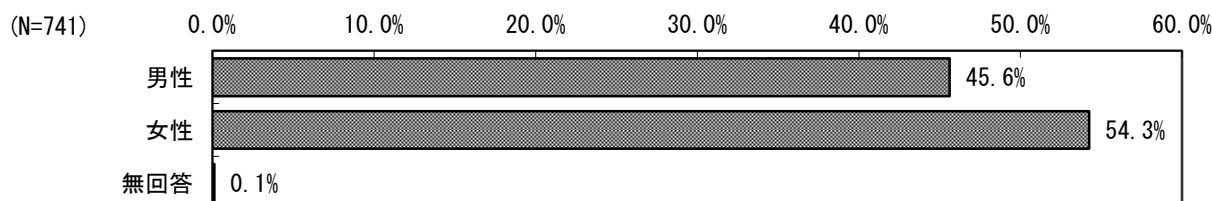
図 回答者



(2) 性別

性別は、「女性」が54.3%、「男性」が45.6%となっています。

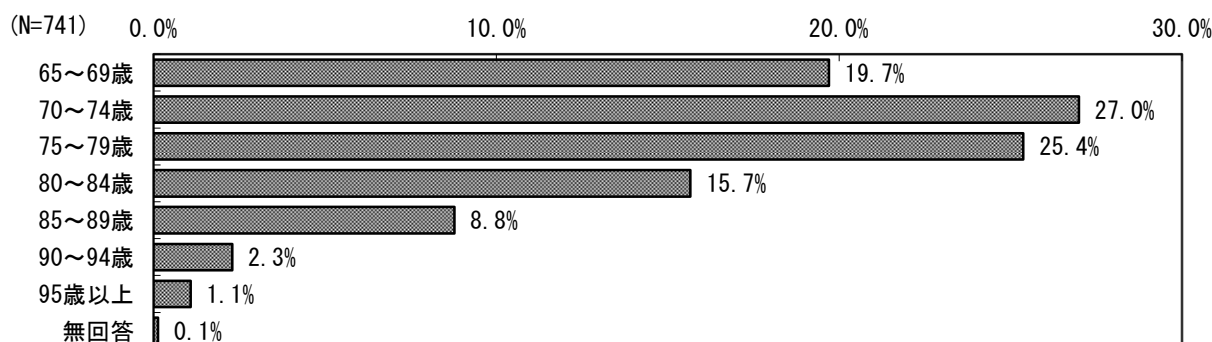
図 性別



(3) 年齢

年齢は、「70～74歳」(27.0%)が最も多く、次いで「75～79歳」(25.4%)、「65～69歳」(19.7%)となっています。75歳以上が5割以上となっています。

図 年齢



※90歳以上は件数が少ないため、年齢別のクロス集計では分析から除きます。また、「90～94歳」と「95歳以上」をまとめて「90歳以上」と表示しています。

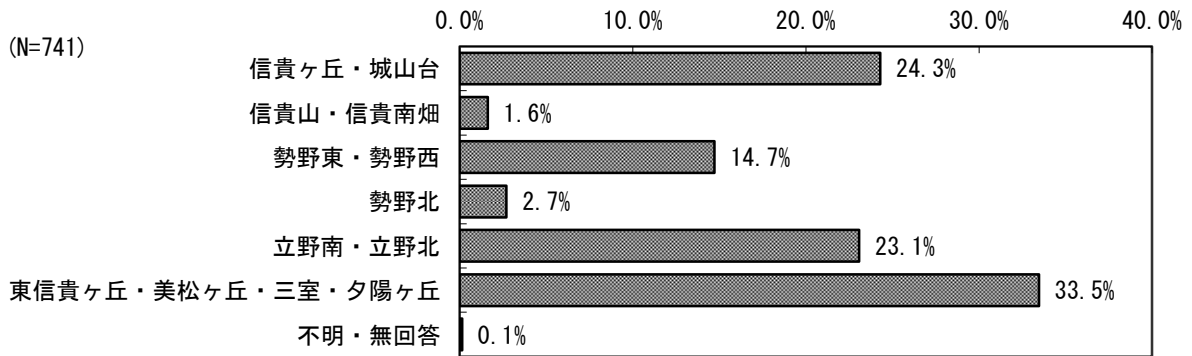
(4) 居住地域

※本調査では、居住地域を以下の通り分類し分析を行っています。

- 信貴ヶ丘・城山台
- 信貴山・信貴南畑
- 勢野東・勢野西
- 勢野北
- 立野南・立野北
- 東信貴ヶ丘・美松ヶ丘・三室・夕陽ヶ丘

居住地域は、「東信貴ヶ丘・美松ヶ丘・三室・夕陽ヶ丘」(33.5%)が最も多く、次いで「信貴ヶ丘・城山台」(24.3%)、「立野南・立野北」(23.1%)となっています。

図 居住地域

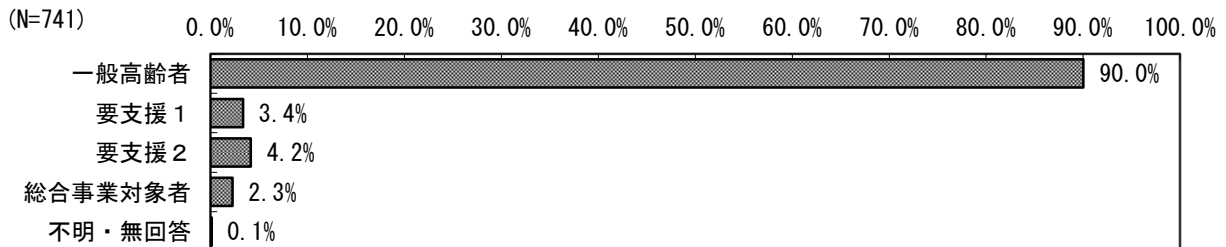


※「信貴山・信貴南畑」、「勢野北」は件数が少ないため、居住地域別のクロス集計では分析から除きます。

(5) 要介護認定状況

要介護認定状況は、「一般高齢者」(認定なし)(90.0%)が最も多く、次いで「要支援2」(4.2%)、「要支援1」(3.4%)となっています。

図 要介護状態区分



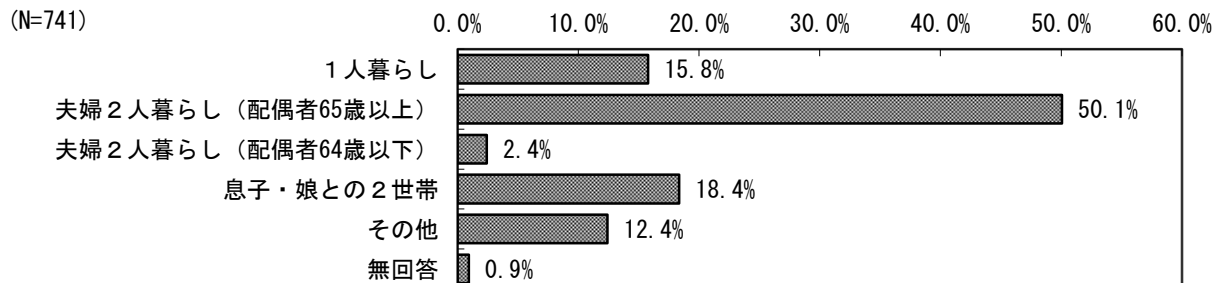
※「要支援1」、「要支援2」は件数が少ないため、認定状況別のクロス集計結果では「要支援1・2」として分析します。また、「総合事業対象者」は認定状況別のクロス集計の分析から除きます。

2 家族や生活状況について

(1) 世帯の状況

世帯の状況は、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」（50.1%）が最も多く、次いで「息子・娘との2世帯」（18.4%）、「1人暮らし」（15.8%）となっています。

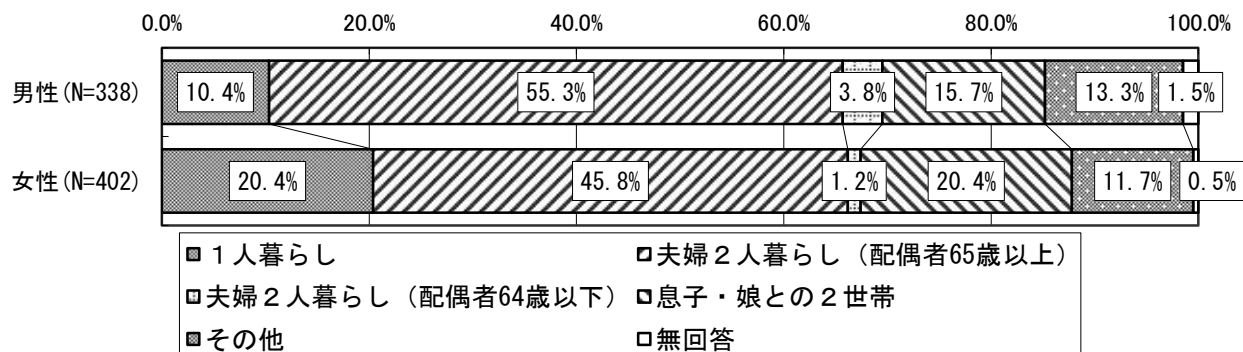
図 世帯の状況



● 性別

性別にみると、「1人暮らし」は女性（20.4%）が男性（10.4%）より10ポイント多く、「息子・娘との2世帯」は女性（20.4%）が男性（15.7%）より4.7ポイント多くなっています。女性は1人暮らしの場合を含め、配偶者以外と生活している方が5割以上となっています。

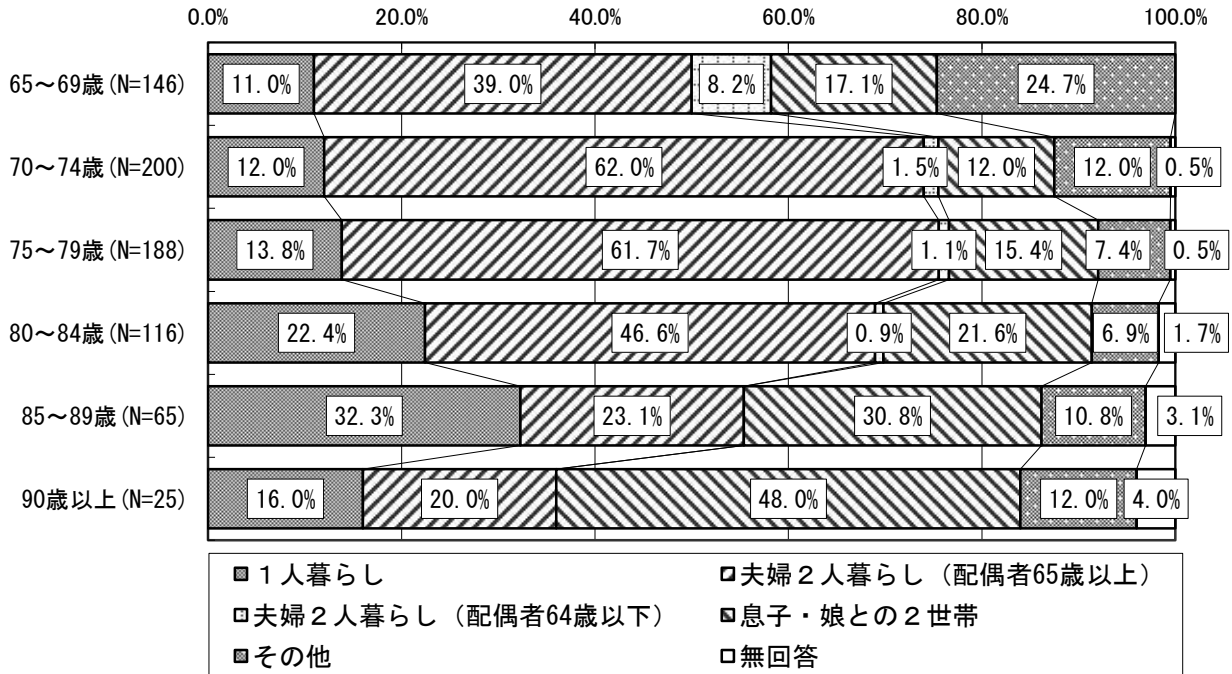
図 性別 世帯の状況



● 年齢別

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「1人暮らし」が多くなり、85～89歳では32.3%となっています。また、「息子・娘との2世帯」は年齢が上がるにつれて多くなり、85歳以上では「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」を上回っています。

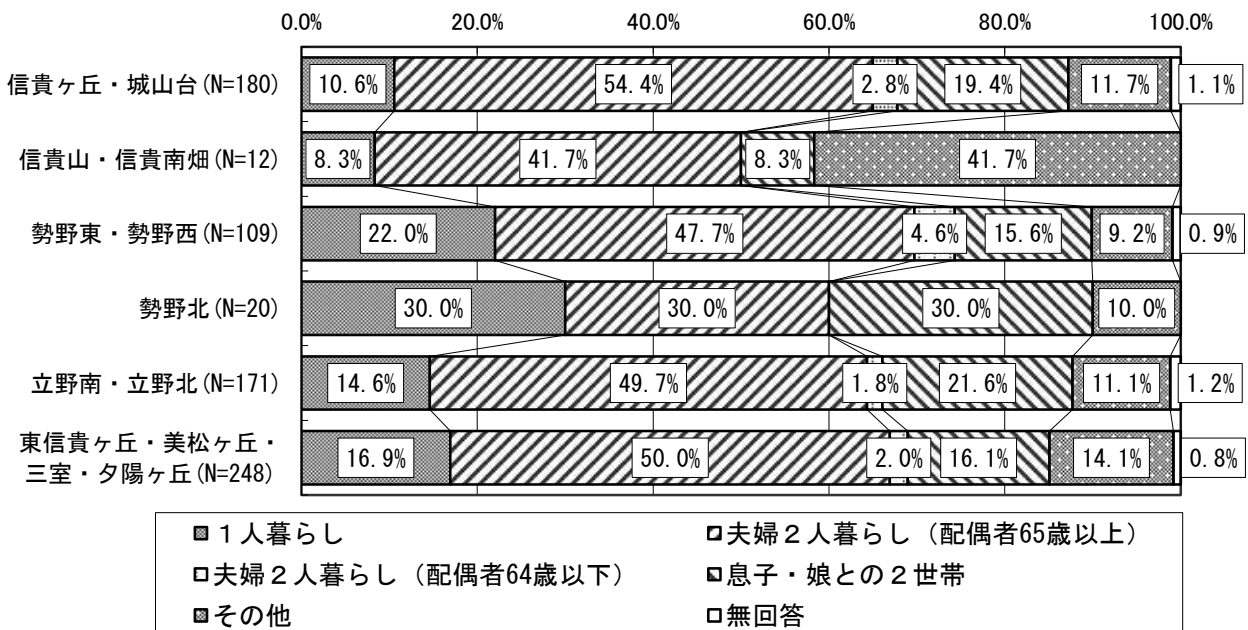
図 年齢別 世帯の状況



● 居住地域別

居住地域別にみると、「1人暮らし」は勢野東・勢野西が22.0%となっています。

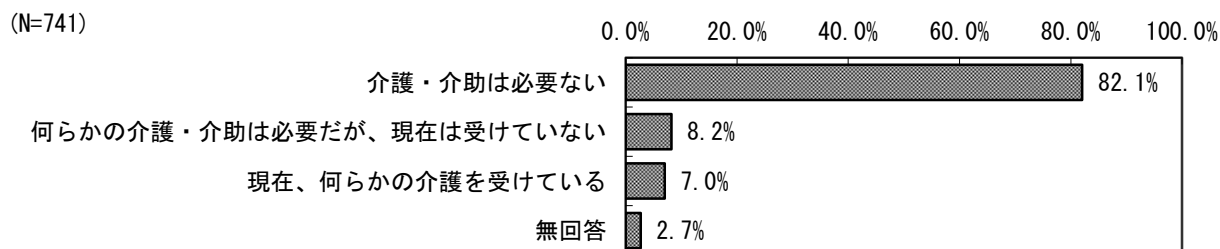
図 居住地域別 世帯の状況



(2) 普段の生活での介護・介助の必要性

普段の生活での介護・介助の必要性についてみると、「介護・介助は必要ない」(82.1%)が多く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」(8.2%)、「現在、何らかの介護を受けている」(7.0%)となっています。

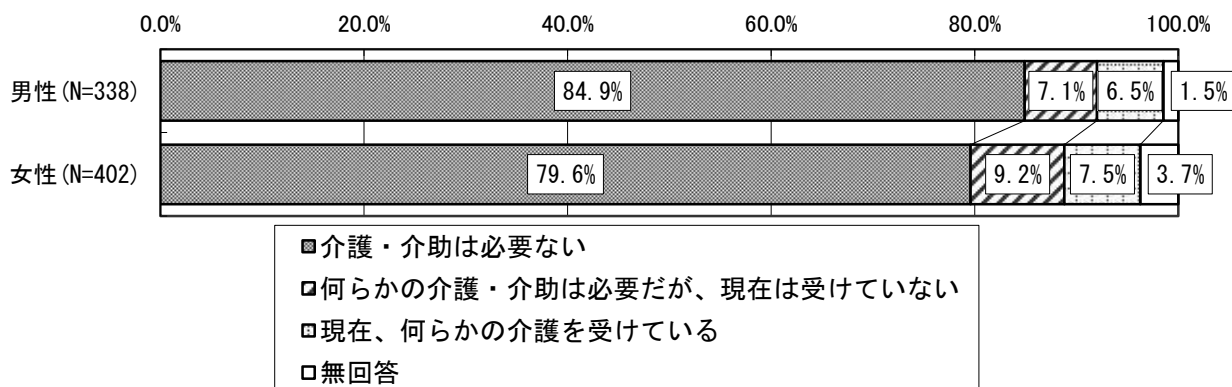
図 普段の生活での介護・介助の必要性



● 性別

性別にみると、何らかの介護・介助が必要な方（「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在、何らかの介護を受けている」の合計）は男性が13.6%、女性が16.7%となっており、女性が男性より3.1ポイント多くなっています。

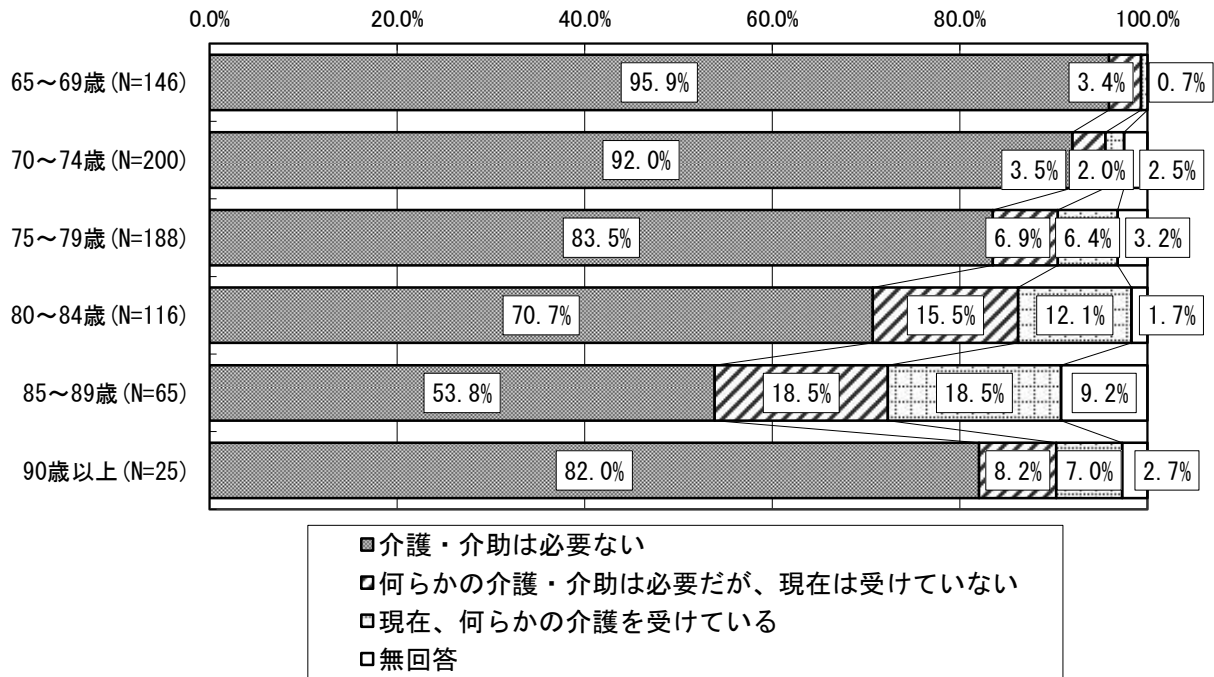
図 性別 普段の生活での介護・介助の必要性



● 年齢別

年齢別にみると、何らかの介護・介助が必要な方は年齢が上がるにつれて多くなっています。

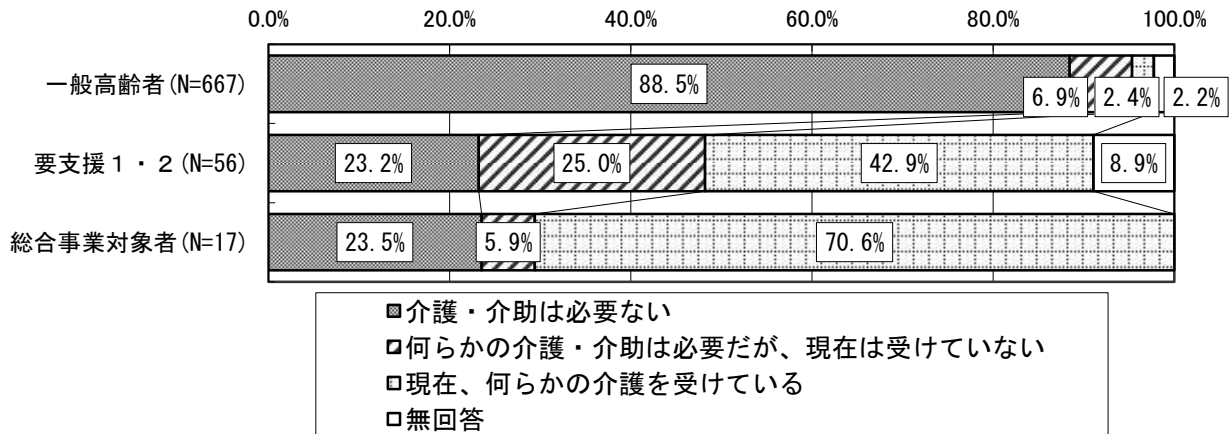
図 年齢別 普段の生活での介護・介助の必要性



● 認定状況別

認定状況別にみると、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は要支援1・2が25.0%となっています。

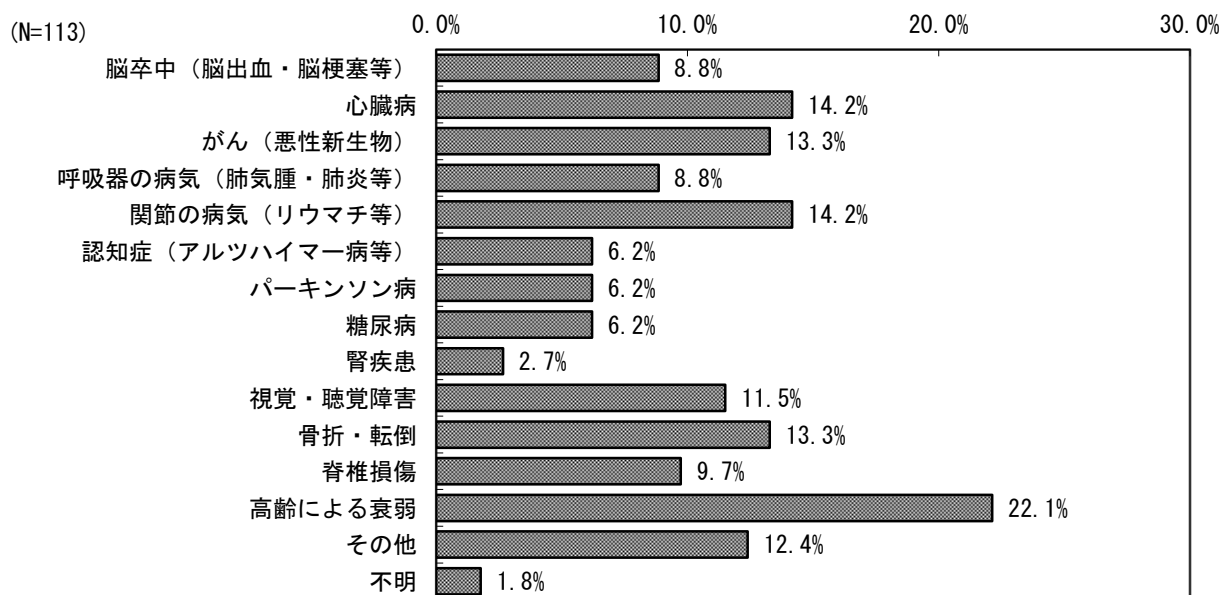
図 認定状況別 普段の生活での介護・介助の必要性



(3) 介護・介助が必要になった主な原因

介護・介助が必要になった主な原因についてみると、「高齢による衰弱」(22.1%)が最も多く、次いで「心臓病」(14.2%)、「関節の病気(リウマチ等)」(14.2%)となっています。

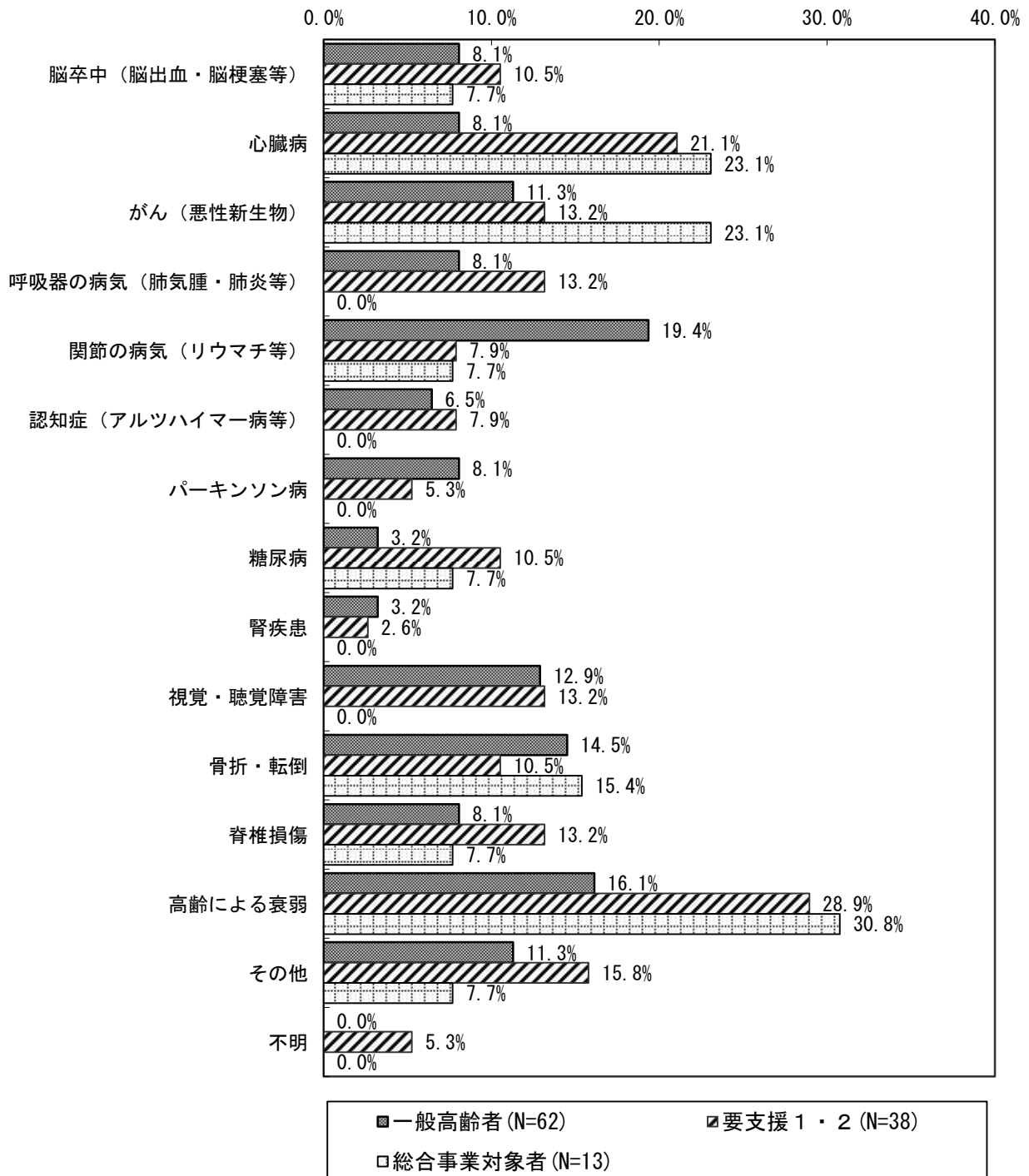
図 介護・介助が必要になった主な原因(複数回答)



● 認定状況別

認定状況別にみると、要支援1・2では「高齢による衰弱」(28.9%)が最も多く、次いで「心臓病」(21.1%)、「がん(悪性新生物)」「視覚・聴覚障害」「脊椎損傷」(それぞれ13.2%)となっています。

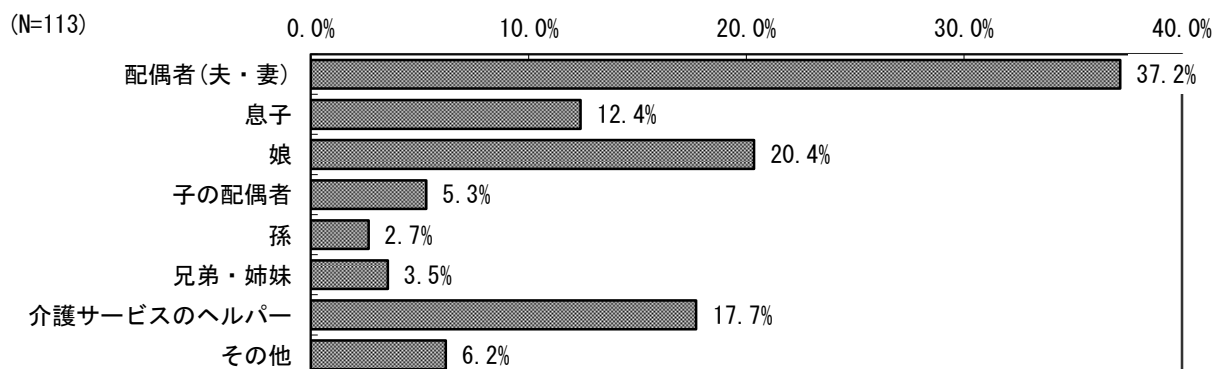
図 認定状況別 介護・介助が必要になった主な原因(複数回答)



(4) 主な介護者

主な介護者についてみると、「配偶者(夫・妻)」(37.2%)が最も多く、次いで「娘」(20.4%)、「介護サービスのヘルパー」(17.7%)となっています。

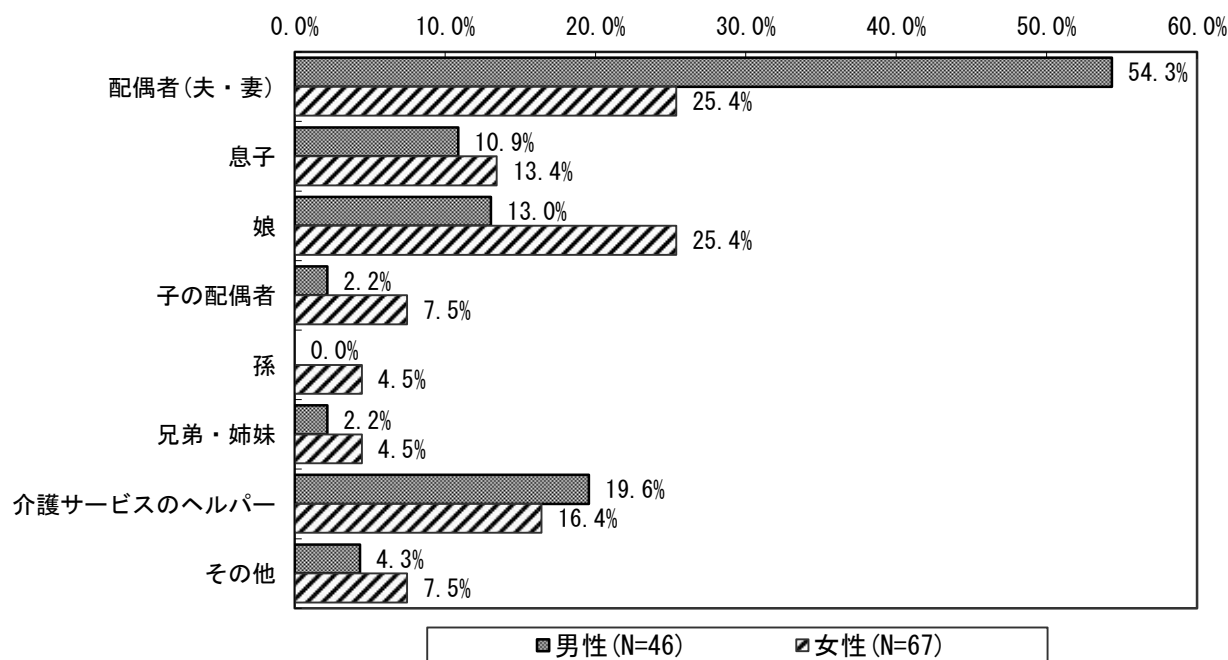
図 主な介護者(複数回答)



● 性別

性別にみると、男性は「配偶者(夫・妻)」(54.3%)が最も多くなっています。一方、女性は「配偶者(夫・妻)」と「娘」がともに25.4%となっています。

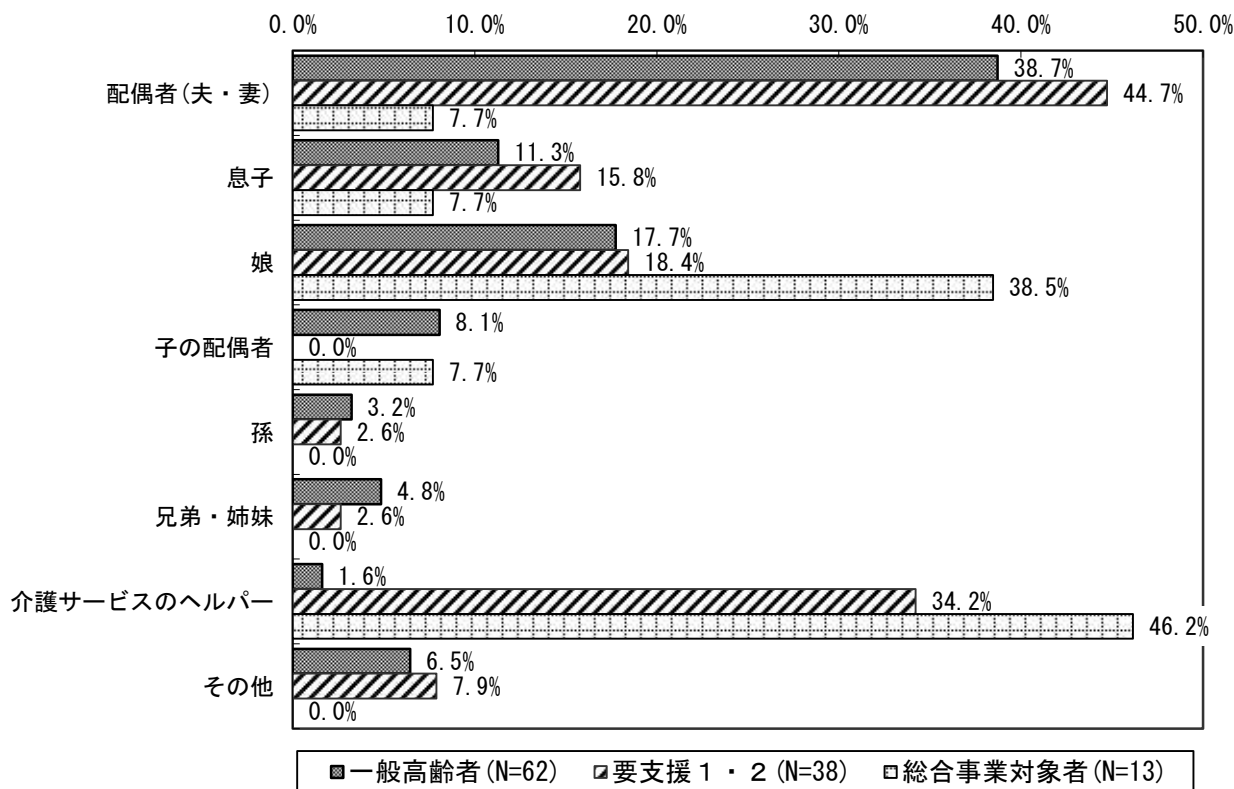
図 性別 主な介護者(複数回答)



● 認定状況別

認定状況別にみると、要支援1・2では「配偶者（夫・妻）」（44.7%）が最も多く、次いで「介護サービスのヘルパー」（34.2%）、「娘」（18.4%）となっています。

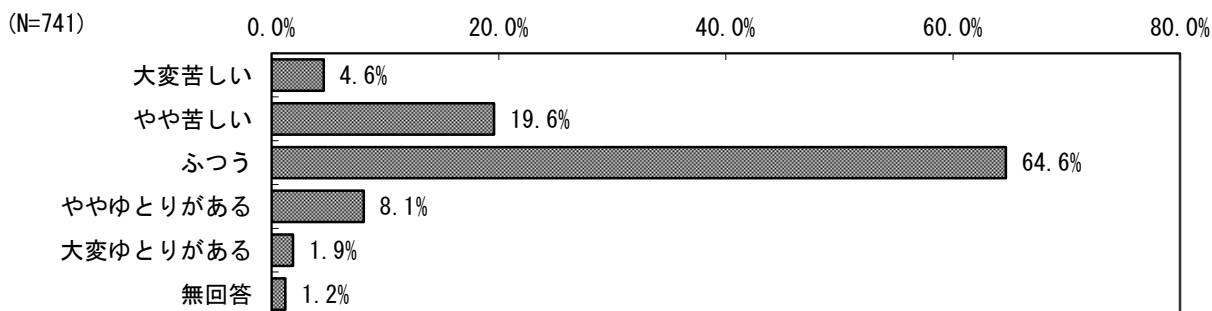
図 認定状況別 主な介護者（複数回答）



(5) 現在の暮らしの状況

現在の暮らしの状況についてみると、「ふつう」（64.6%）が最も多く、次いで「やや苦しい」（19.6%）、「ややゆとりがある」（8.1%）となっています。また、現在の暮らしの状況が苦しい方（「大変苦しい」と「やや苦しい」の合計）は24.2%となっています。

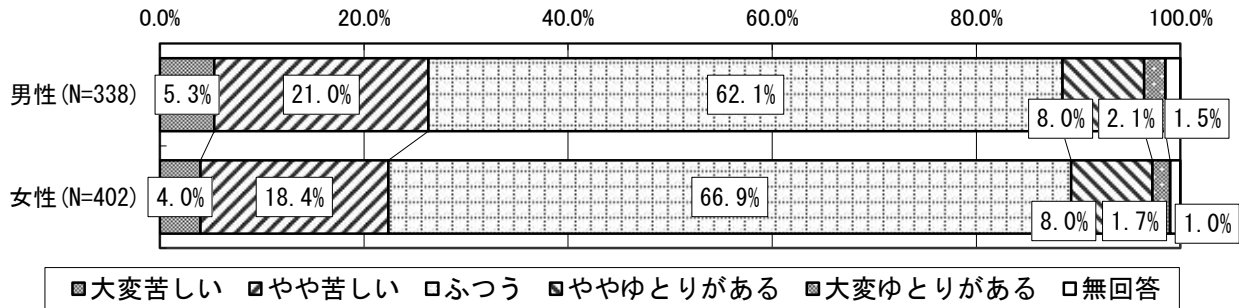
図 現在の暮らしの状況



● 性別

性別にみると、現在の暮らしの状況が苦しい方は男性が 26.3%、女性が 22.4%となっており、男性が女性より 3.9 ポイント多くなっています。

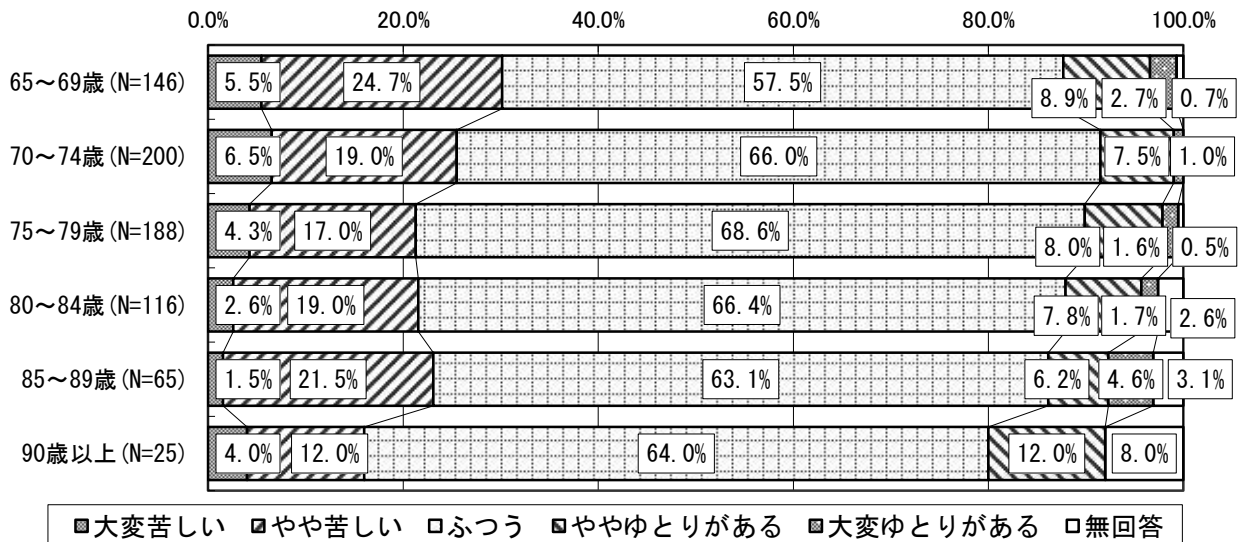
図 性別 現在の暮らしの状況



● 年齢別

年齢別にみると、現在の暮らしの状況が苦しい方は 65～69 歳が 30.2%、70 歳以上では概ね 2割となっています。

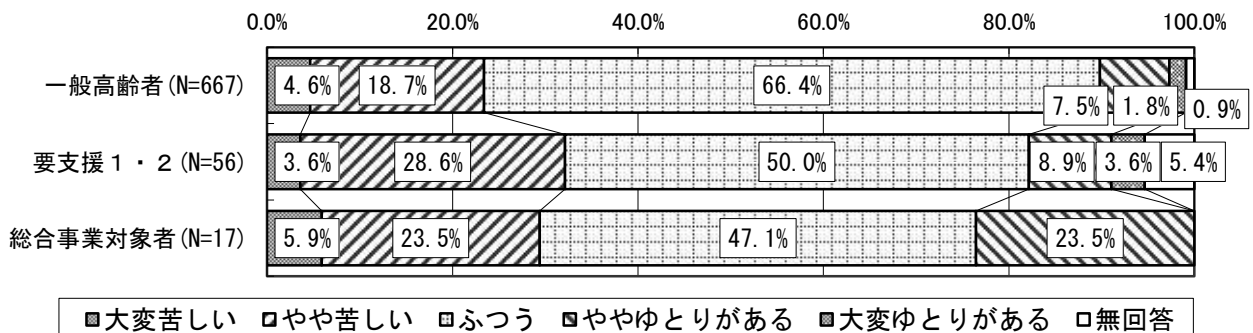
図 年齢別 現在の暮らしの状況



● 認定状況別

認定状況別にみると、現在の暮らしの状況が苦しい方は要支援 1・2 では 32.2%となっています。

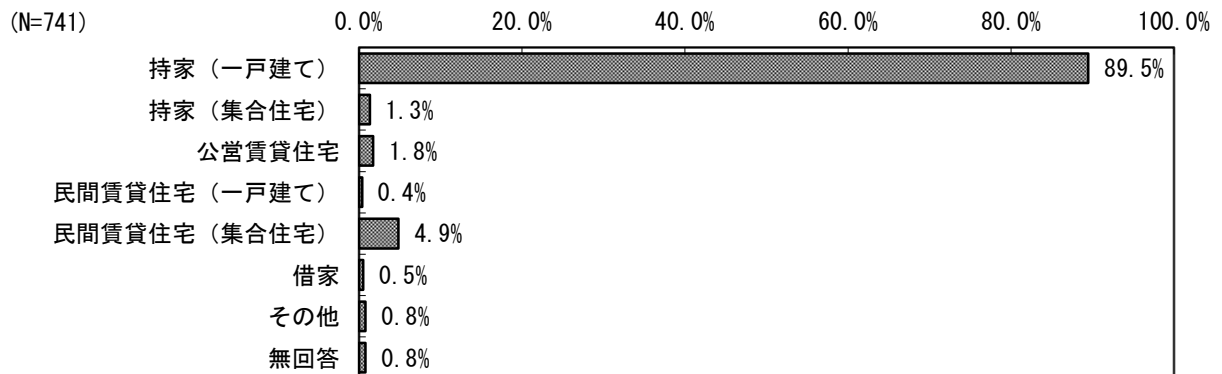
図 認定状況別 現在の暮らしの状況



(6) 住まいの種類

住まいの種類についてみると、「持家（一戸建て）」（89.5%）が最も多く、次いで「民間賃貸住宅（集合住宅）」（4.9%）、「公営賃貸住宅」（1.8%）となっています。

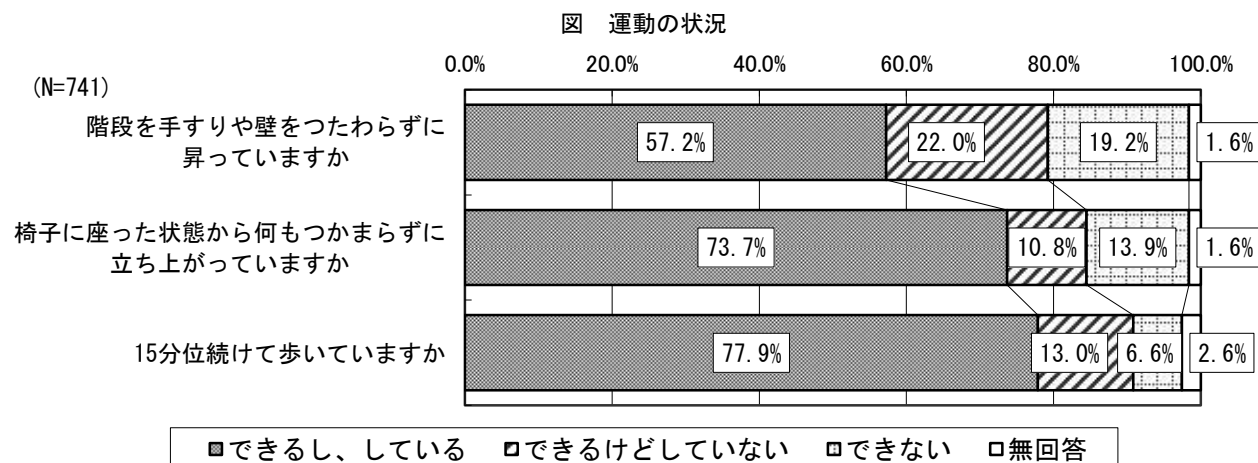
図 住まいの種類



3 からだを動かすことについて

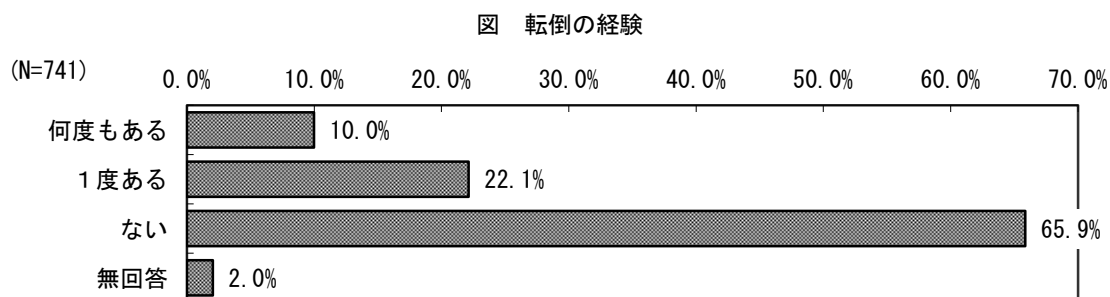
(1) 運動の状況

運動の状況を見ると、いずれの項目も「できるし、している」が5割以上となっており、「椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか」と「15分位続けて歩いていますか」では7割以上となっています。一方、「できない」は「階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか」が19.2%と最も多くなっています。



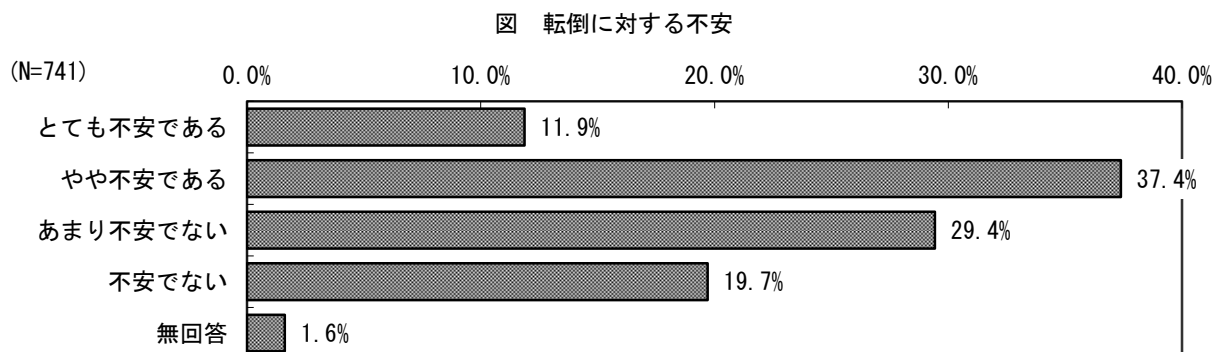
(2) 過去1年間の転倒の経験

過去1年間の転倒の経験をみると、「ない」(65.9%)が最も多く、次いで「1度ある」(22.1%)、「何度もある」(10.0%)となっています。過去1年間に転倒の経験がある方(「何度もある」と「1度ある」の合計)は32.1%となっています。



(3) 転倒に対する不安

転倒に対する不安についてみると、「やや不安である」(37.4%)が最も多く、次いで「あまり不安でない」(29.4%)、「不安でない」(19.7%)となっています。転倒に対する不安がある方(「とても不安である」と「やや不安である」の合計)は49.3%となっています。

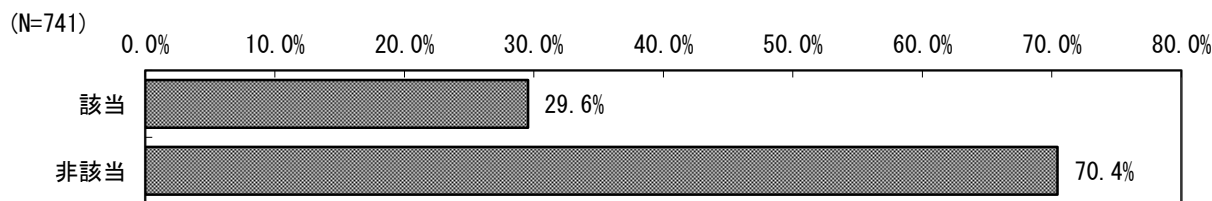


< 運動器の機能低下状況 >

- ・「運動の状況」で「できない」
 - ・「転倒の状況」で「何度もある」または「1度ある」
 - ・「転倒に対する不安」で「とても不安である」または「やや不安である」
- 以上の選択肢をそれぞれ1点とし、合計得点が3点以上の方を「運動器機能の低下している高齢者」と判断します。

運動器機能の低下している高齢者は 29.6% となっています。

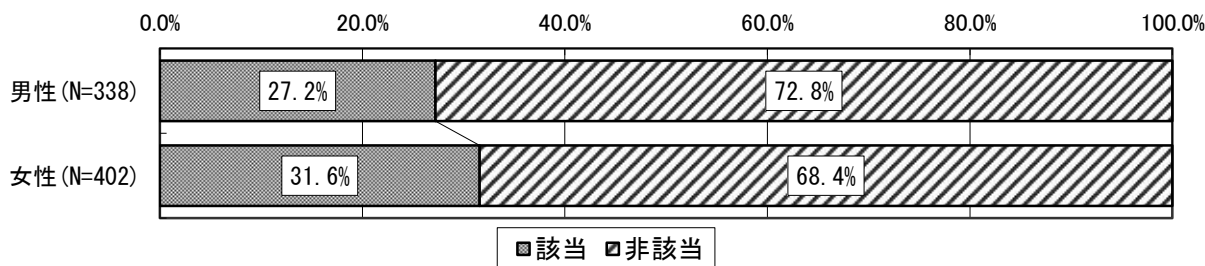
図 運動器の機能低下



● 性別

性別にみると、運動器機能の低下している高齢者は女性（31.6%）が男性（27.2%）より 4.4 ポイント多くなっています。

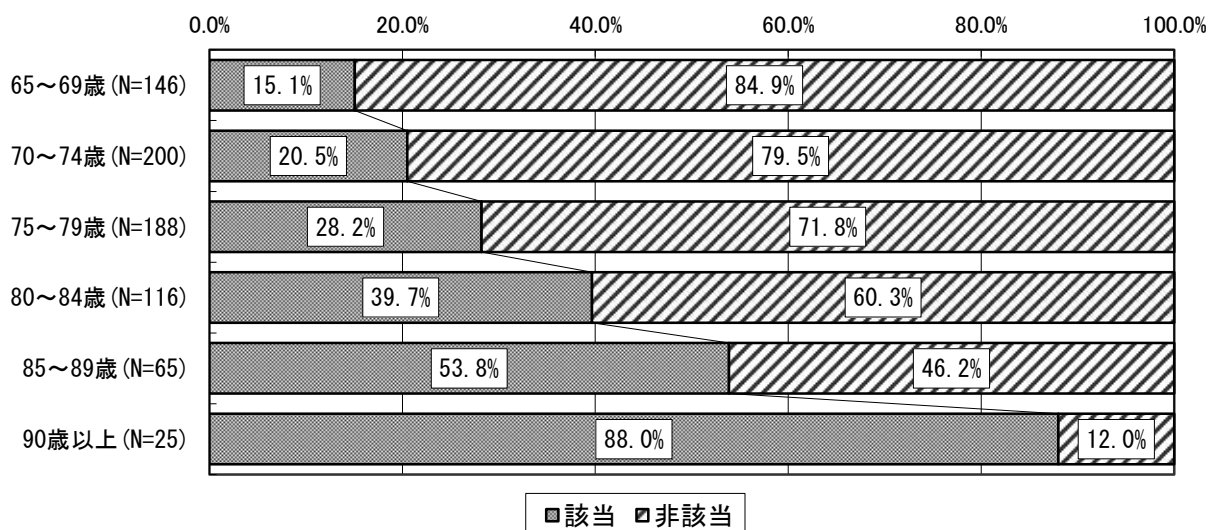
図 性別 運動器の機能低下



● 年齢別

年齢別にみると、運動器機能の低下している高齢者は年齢が上がるにつれて多くなっており、85～89歳では 53.8% となっています。

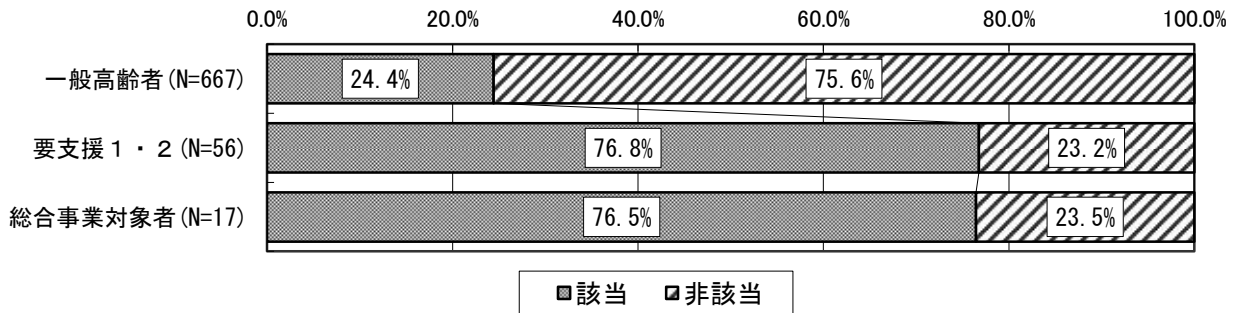
図 年齢別 運動器の機能低下



● 認定状況別

認定状況別にみると、運動器機能の低下している高齢者は要支援1・2では76.8%となっています。

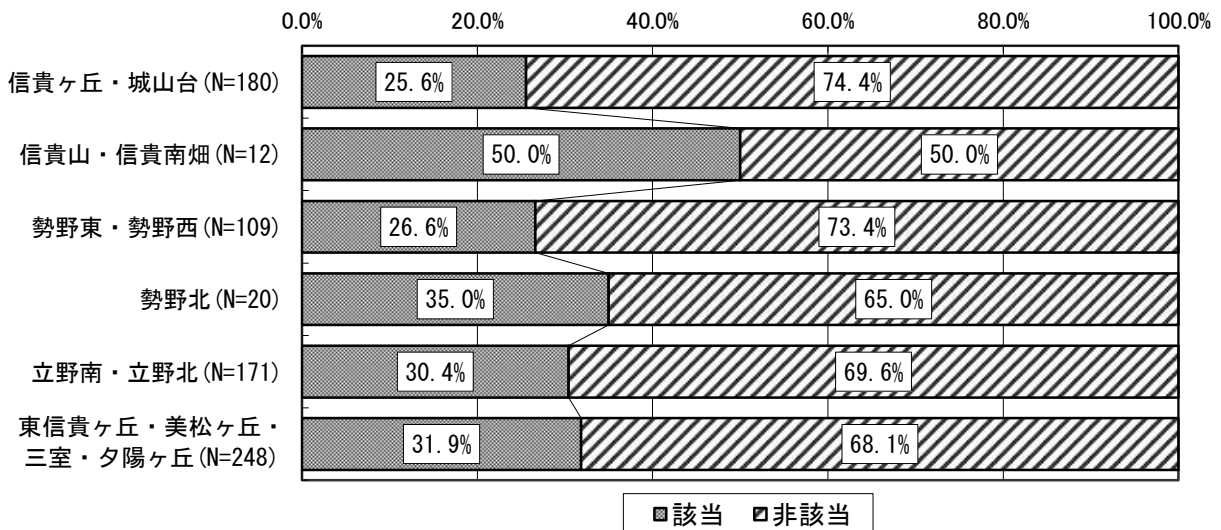
図 認定状況別 運動器の機能低下



● 居住地域別

居住地域別にみると、運動器機能の低下している高齢者は立野南・立野北が30.4%、東信貴ヶ丘・美松ヶ丘・三室・夕陽ヶ丘が31.9%となっています。

図 地域別 運動器の機能低下



(4) 外出頻度

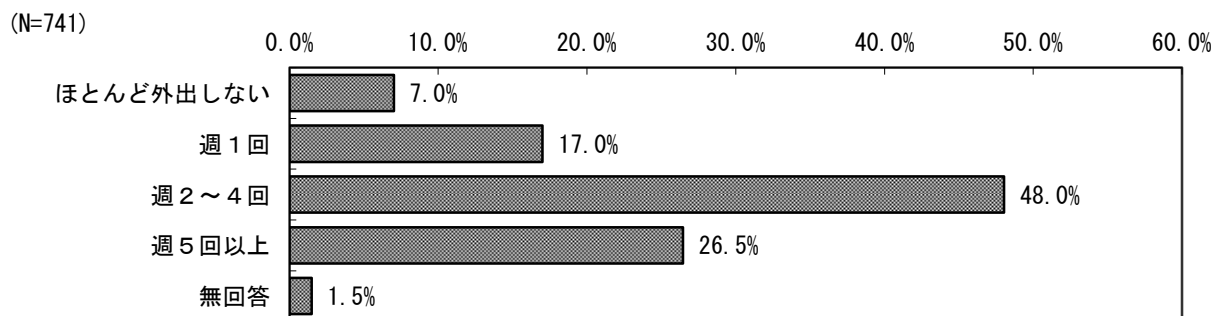
〈閉じこもり傾向〉

・外出頻度が「ほとんど外出しない」または「週1回」に該当する場合は「閉じこもり傾向のある高齢者」と判定します。さらに、外出頻度の減少で「とても減っている」または「減っている」にも該当する場合は「特に要注意」となります。

外出頻度についてみると、「週2～4回」(48.0%)が最も多く、次いで「週5回以上」(26.5%)、「週1回」(17.0%)となっています。

また、閉じこもり傾向にある高齢者は24.0%となっています。

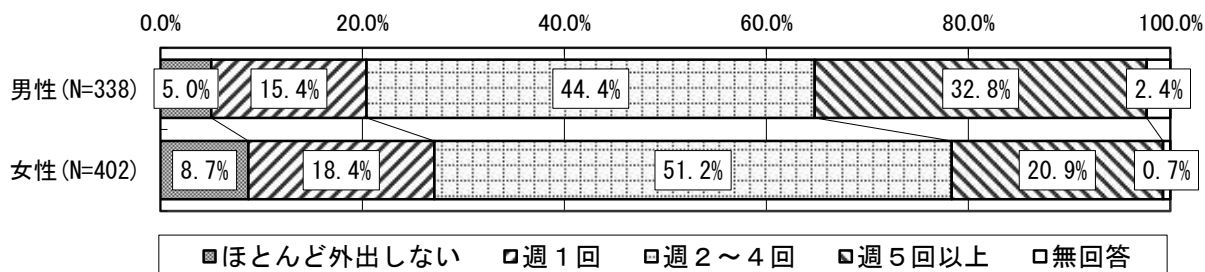
図 外出頻度



● 性別

性別にみると、閉じこもり傾向にある高齢者は女性(27.1%)が男性(20.4%)より6.7ポイント多くなっています。

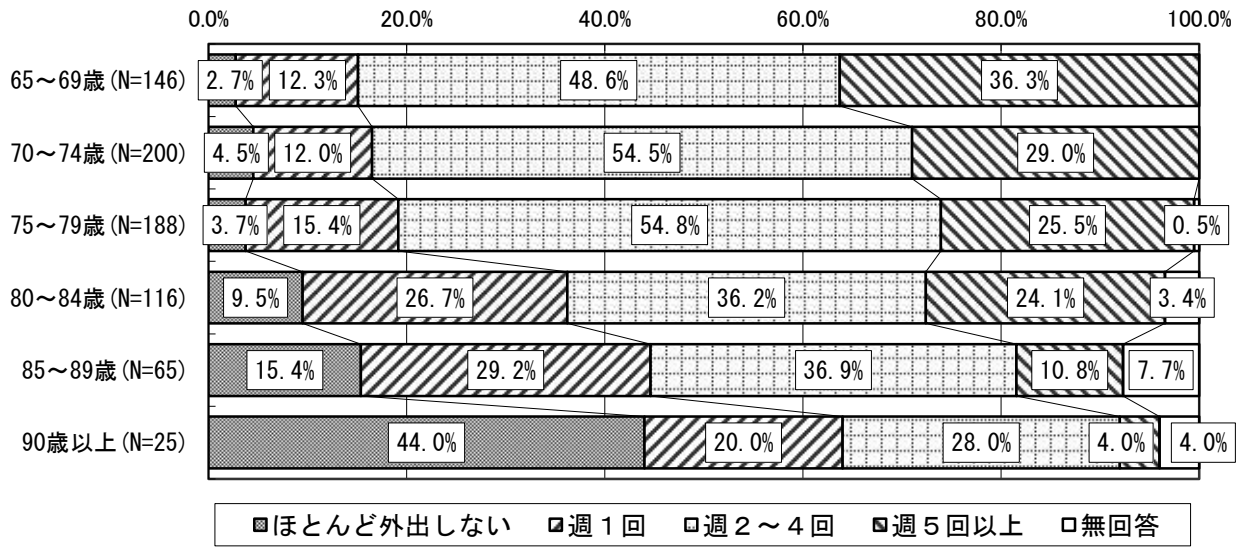
図 性別 外出頻度



● 年齢別

年齢別にみると、閉じこもり傾向にある高齢者は年齢が上がるにつれて多くなっています。

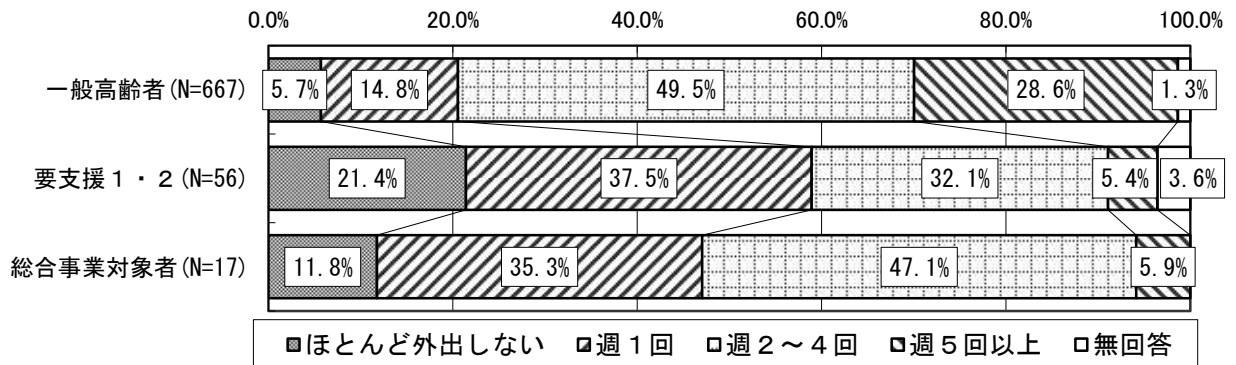
図 年齢別 外出頻度



● 認定状況別

認定状況別にみると、閉じこもり傾向にある高齢者は要支援1・2では58.9%となっています。

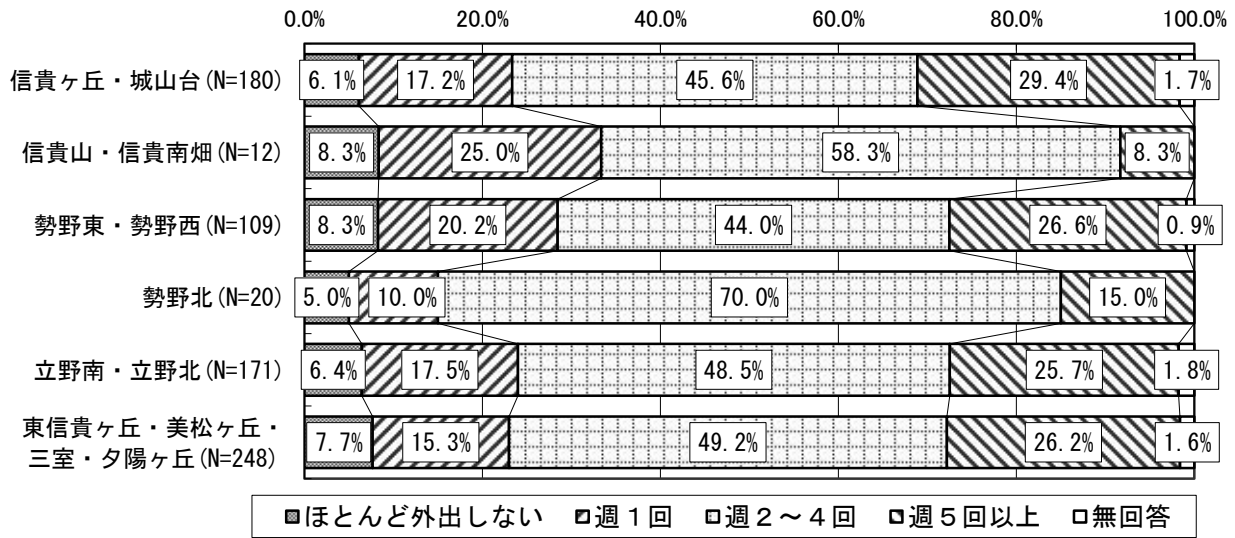
図 認定状況別 外出頻度



● 居住地域別

居住地域別にみると、閉じこもり傾向にある高齢者は勢野東・勢野西では28.4%となっています。

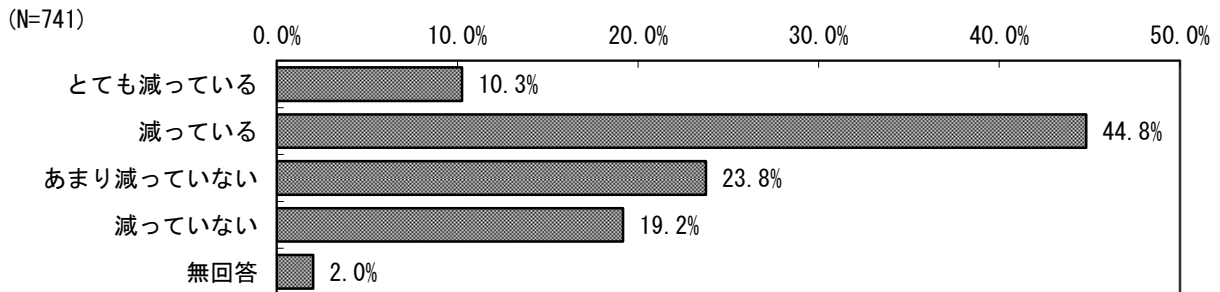
図 居住地域別 外出頻度



(5) 外出頻度の減少

外出頻度の減少についてみると、「減っている」(44.8%)が最も多く、次いで「あまり減っていない」(23.8%)、「減っていない」(19.2%)となっています。外出頻度が減っている方(「とても減っている」と「減っている」の合計)は55.1%となっています。

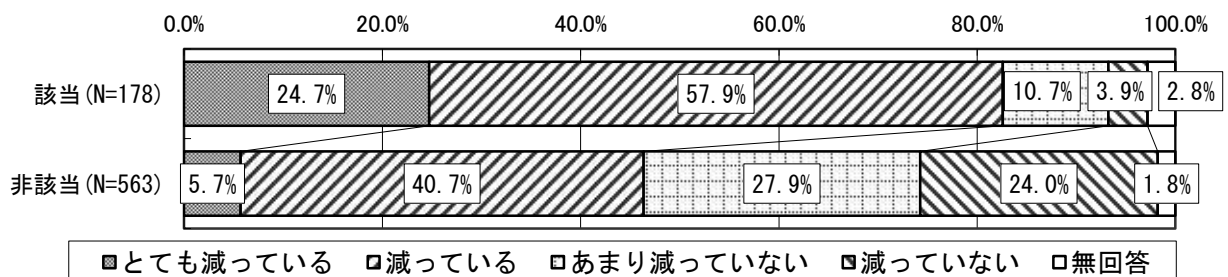
図 外出頻度の減少



● 閉じこもり傾向×外出頻度の減少

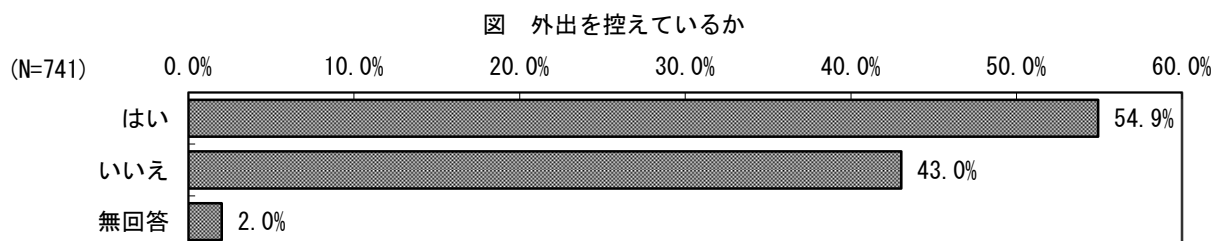
閉じこもり傾向と外出頻度の減少状況をクロス集計すると、閉じこもり傾向にある方で外出頻度が減少している方は82.6%となっています。

図 閉じこもり傾向×外出頻度の減少



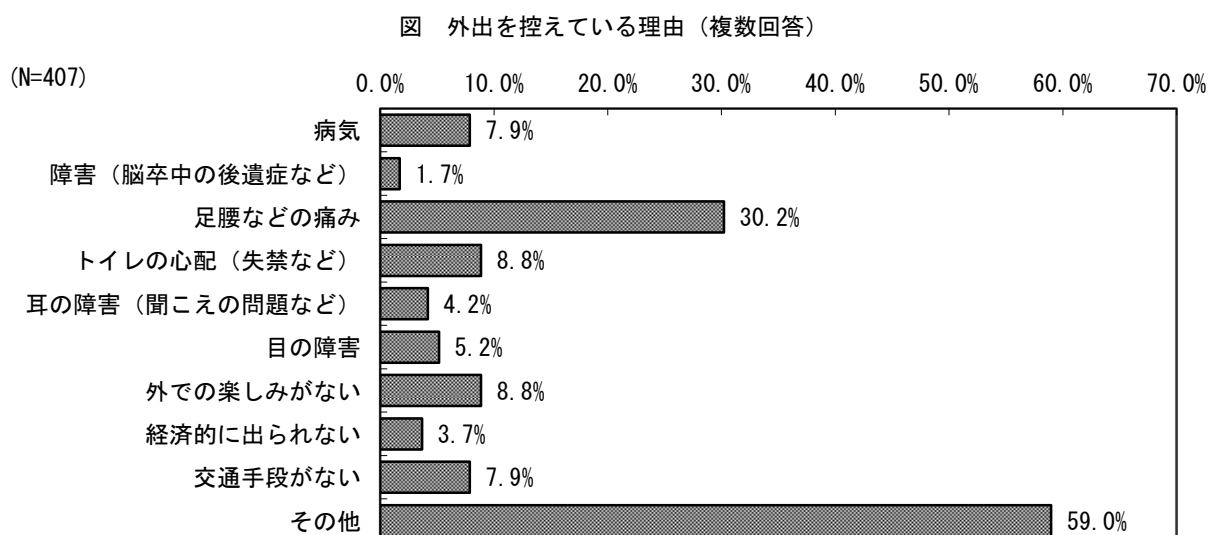
(6) 外出を控えているか

外出を控えているかをみると、「はい」が54.9%、「いいえ」が43.0%となっています。



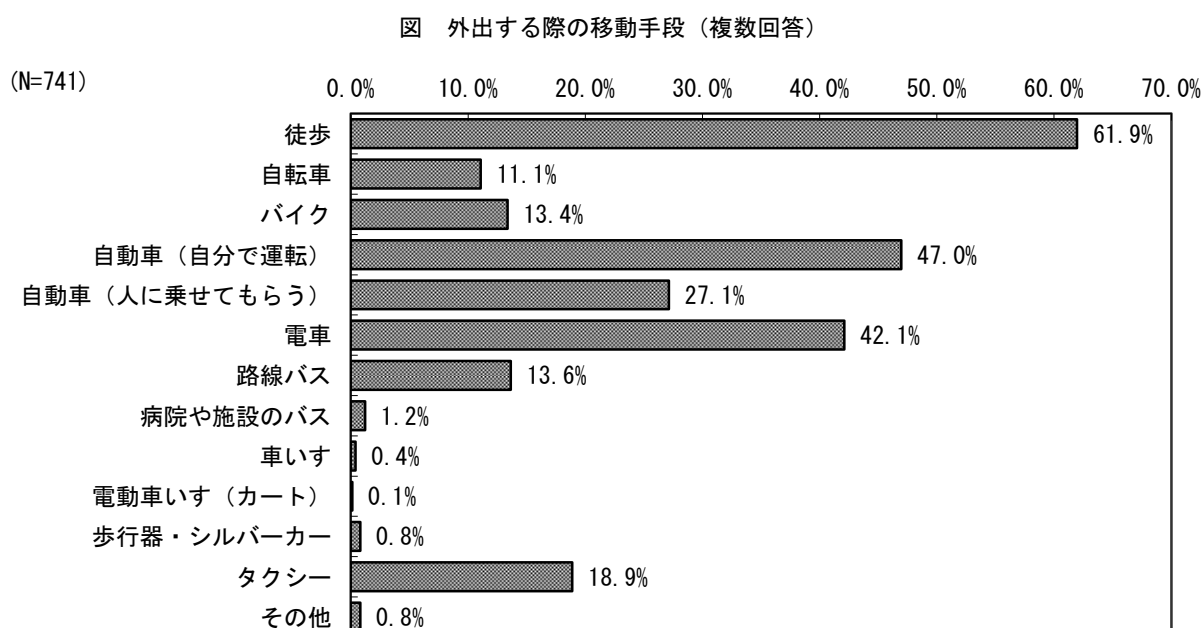
(7) 外出を控えている理由

外出を控えている理由についてみると、「その他」(59.0%)を除くと、「足腰などの痛み」(30.2%)が最も多く、次いで「トイレの心配(失禁など)」(8.8%)、「外での楽しみがない」(8.8%)、「病気」(7.9%)となっています。



(8) 外出する際の移動手段

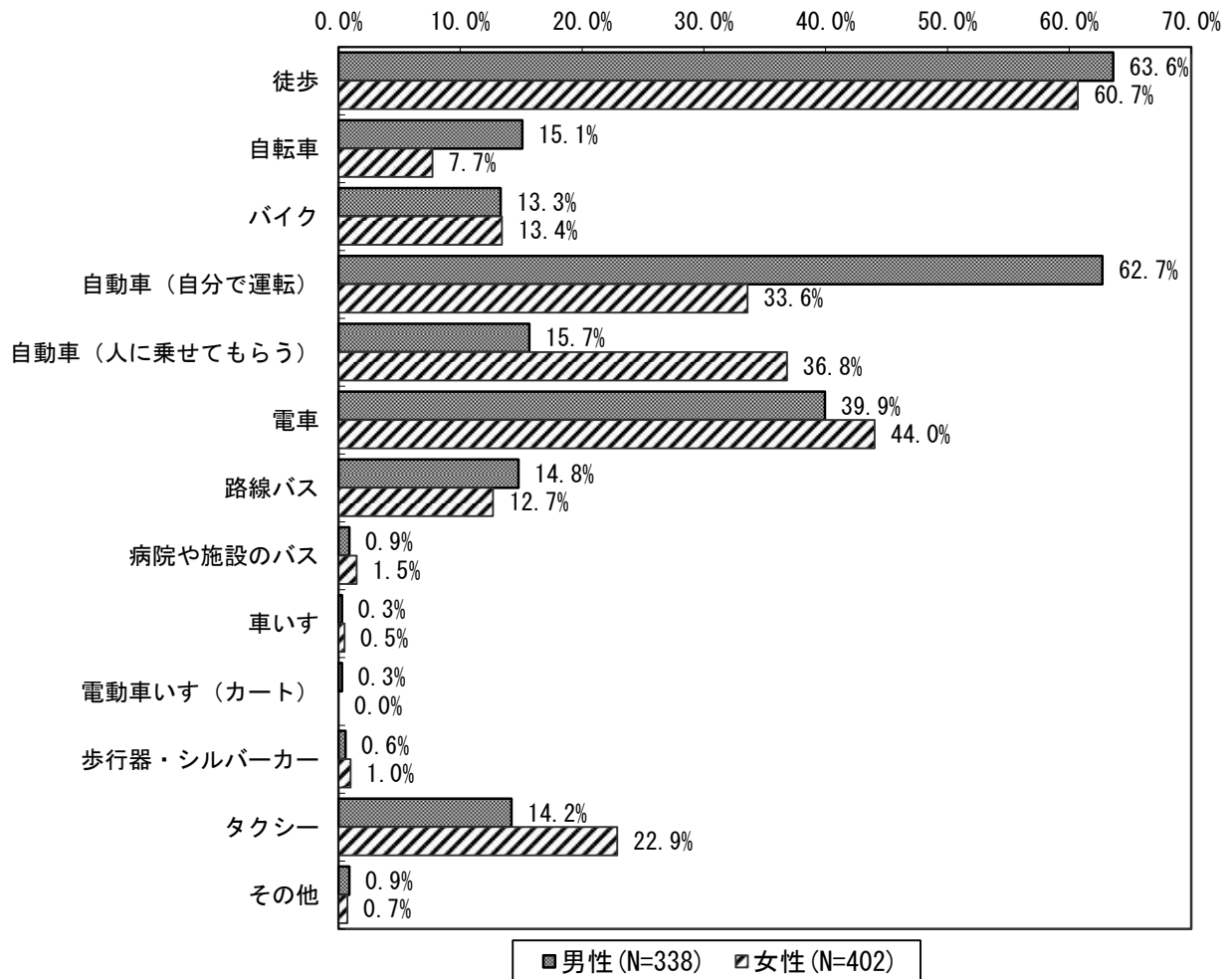
外出する際の移動手段についてみると、「徒歩」(61.9%)が最も多く、次いで「自動車(自分で運転)」(47.0%)、「電車」(42.1%)となっています。



● 性別

性別にみると男女ともに「徒歩」が最も多く、男性が 63.6%、女性が 60.7%となっています。次いで男性は「自動車（自分で運転）」（62.7%）、女性は「電車」（44.0%）となっています。

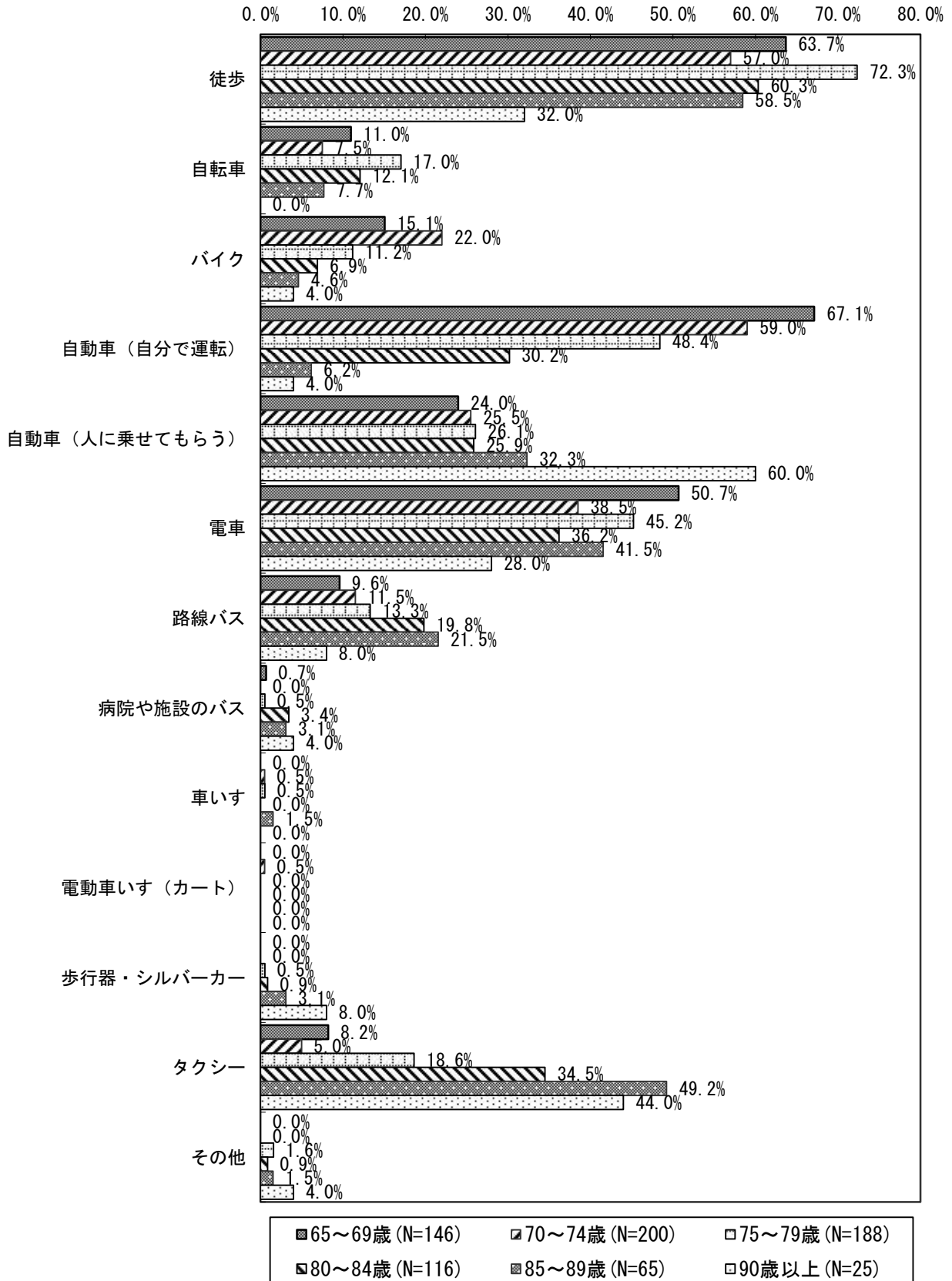
図 性別 外出する際の移動手段（複数回答）



● 年齢別

年齢別にみると、「自動車（自分で運転）」は年齢が上がるにつれて少なくなり、「自動車（人に乗せてもらう）」や「路線バス」が増加する傾向がみられます。

図 年齢別 外出する際の移動手段（複数回答）

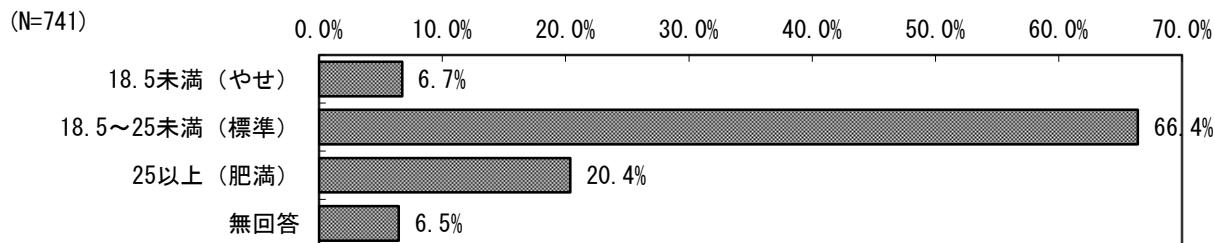


4 食べることについて

(1) 身長・体重 (BMI)

身長と体重からBMIを算出すると、「18.5～25未満 (標準)」(66.4%)が最も多く、次いで「25以上 (肥満)」(20.4%)、「18.5未満 (やせ)」(6.7%)となっています。

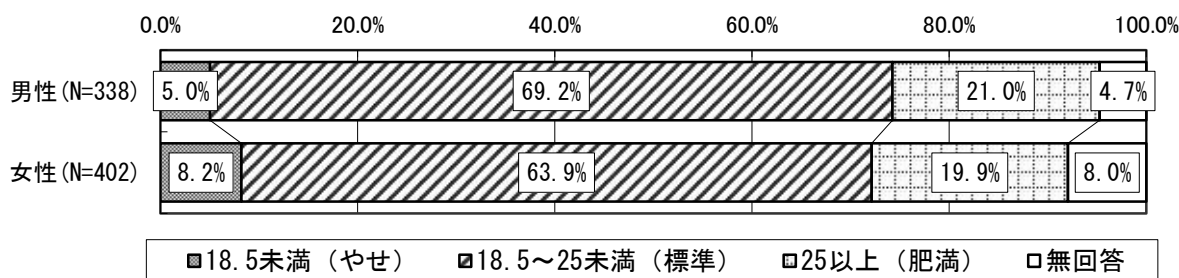
図 身長・体重 (BMI)



● 性別

性別にみると、「18.5未満 (やせ)」は女性 (8.2%) が男性 (5.0%) より 3.2 ポイント多くなっています。「25以上 (肥満)」は男性が 21.0%、女性が 19.9%となっており大きな差はみられません。

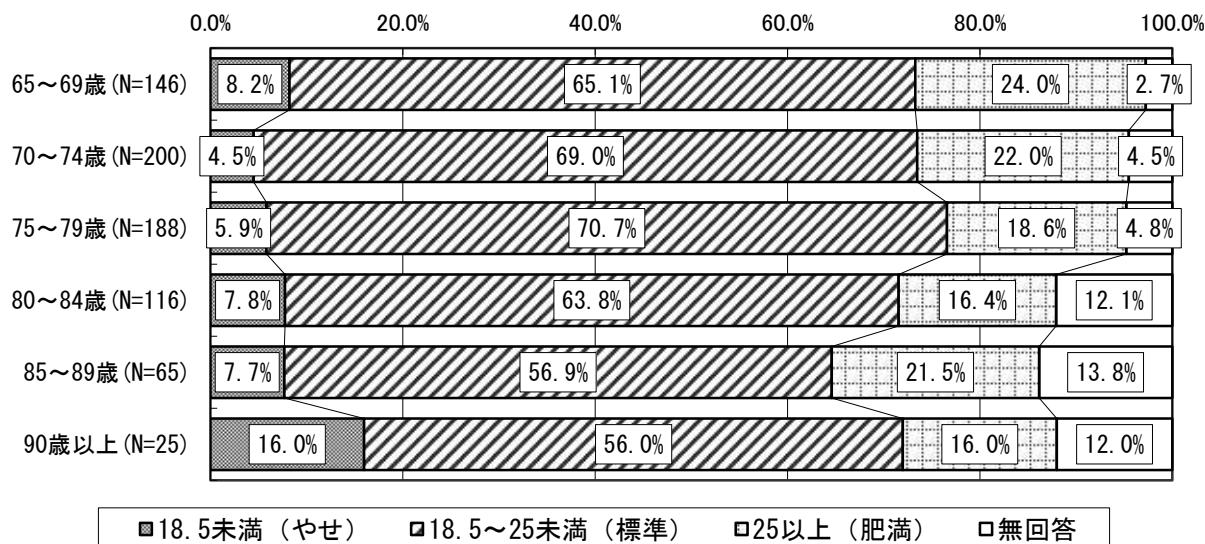
図 性別 身長・体重 (BMI)



● 年齢別

年齢別にみると、90歳未満では「18.5未満 (やせ)」、「25以上 (肥満)」ともに65～69歳の割合が高く、「18.5未満 (やせ)」が 8.2%、「25以上 (肥満)」が 24.0%となっています。

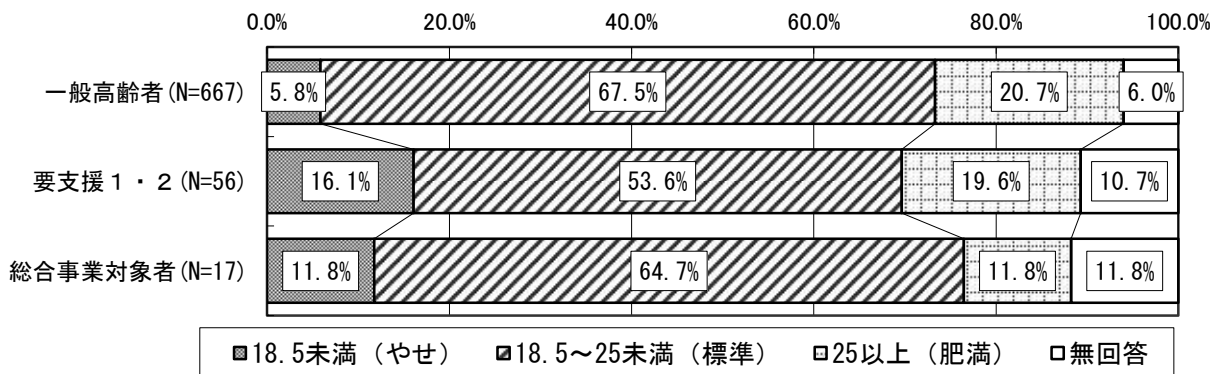
図 年齢別 身長・体重 (BMI)



● 認定状況別

認定状況別にみると、「18.5未満（やせ）」は要支援1・2が16.1%となっています。

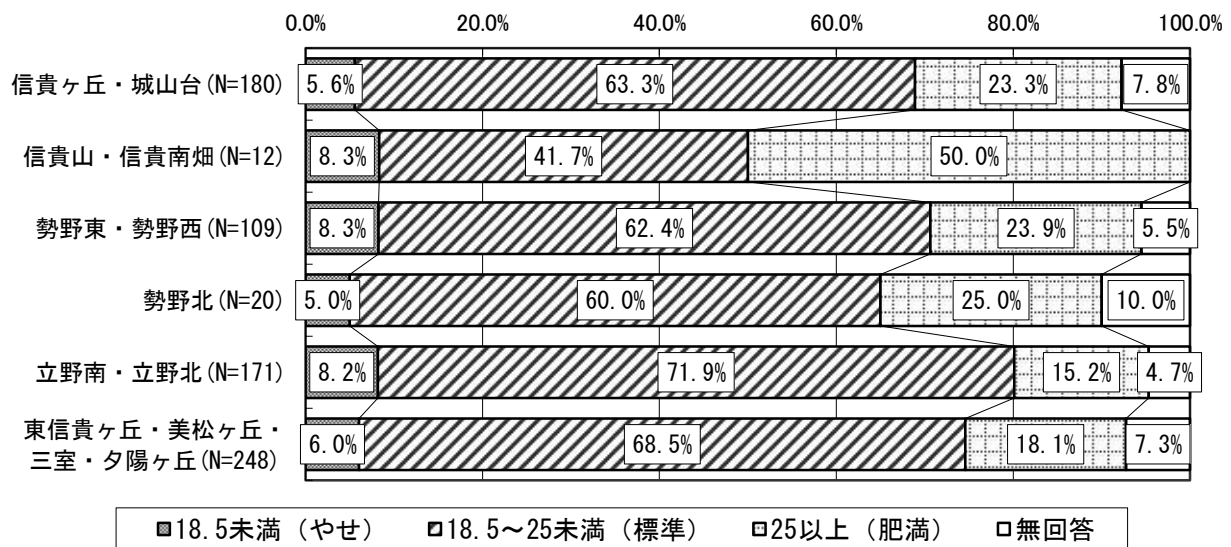
図 認定状況別 身長・体重（BMI）



● 居住地域別

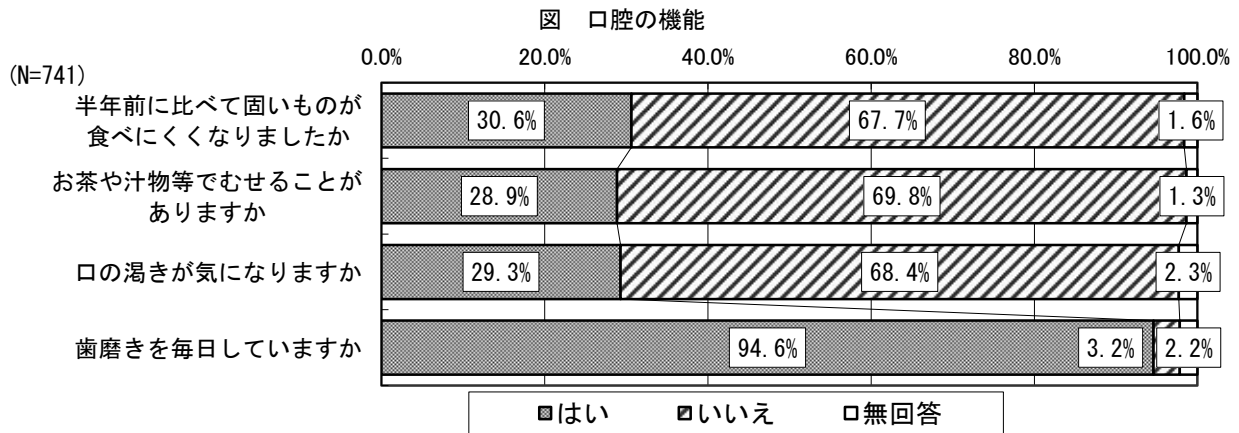
居住地域別にみると、「25以上（肥満）」は立野南・立野北（15.2%）と東信貴ヶ丘・美松ヶ丘・三室・夕陽ヶ丘（18.1%）に比べて信貴ヶ丘・城山台（23.3%）と勢野東・勢野西（23.9%）では多く、2割以上となっています。

図 居住地域別 身長・体重（BMI）



(2) 口腔の機能

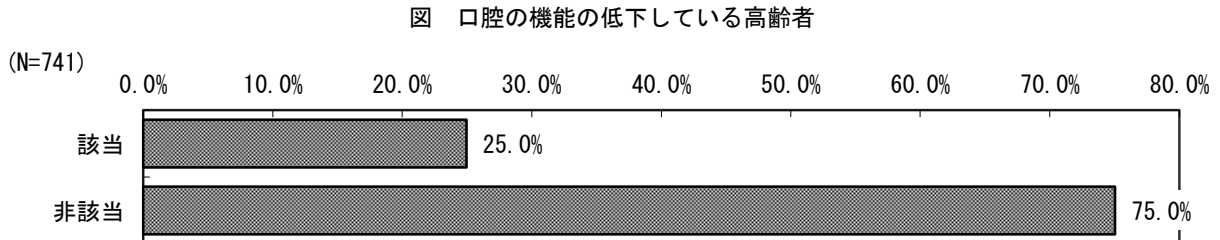
口腔の機能についてみると「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」、「お茶や汁物等でむせることがありますか」、「口の渇きが気になりますか」はいずれも「いいえ」が6割以上となっています。また、「歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか」は「はい」が94.6%となっています



〈口腔機能の低下〉

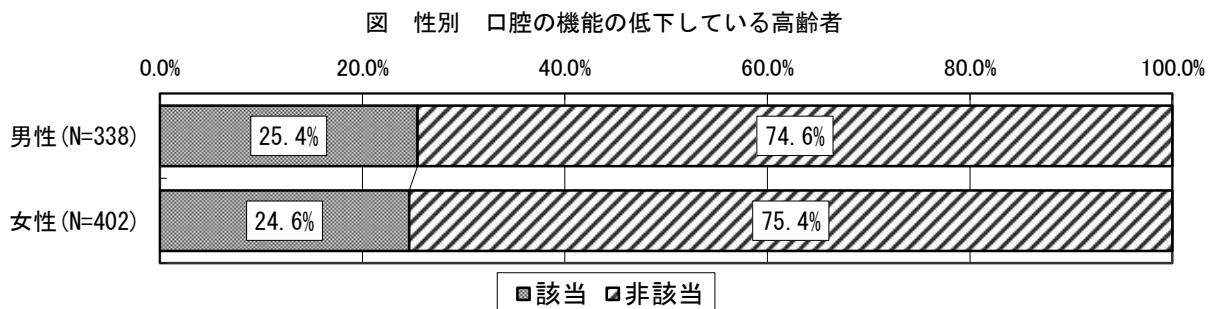
・口腔の機能のうち、「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」「お茶や汁物等でむせることがありますか」「口の渇きが気になりますか」の3設問のうち2設問で「はい」に該当する場合は「口腔機能の低下している高齢者」と判定します。

口腔機能の低下している高齢者は25.0%となっています。



● 性別

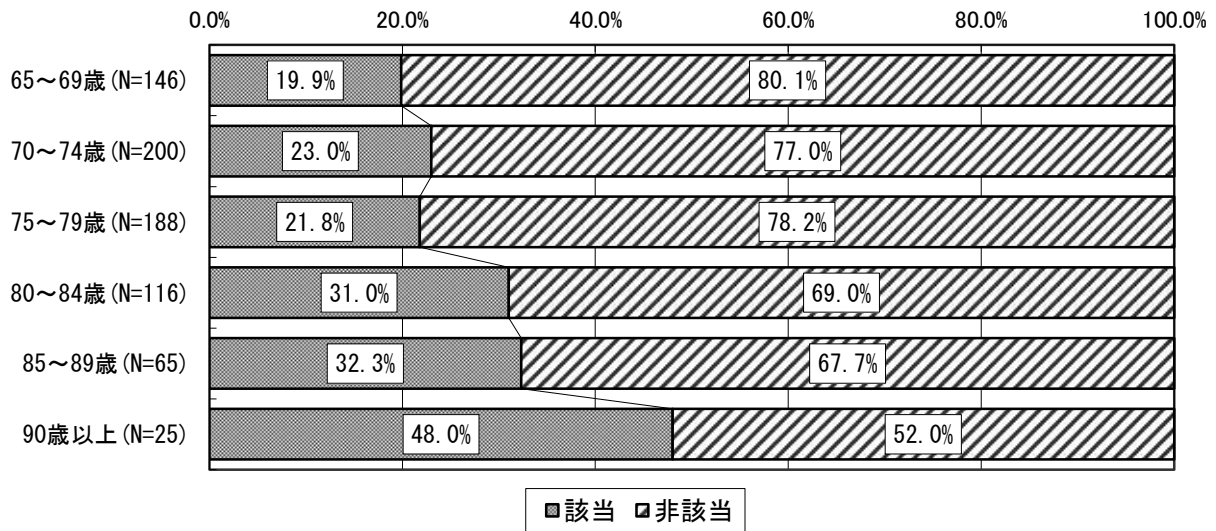
性別にみると、口腔機能の低下している高齢者は男性が25.4%、女性が24.6%となっており、大きな差はみられません。



● 年齢別

年齢別にみると、口腔機能の低下している高齢者は年齢が上がるにつれて多くなっています。

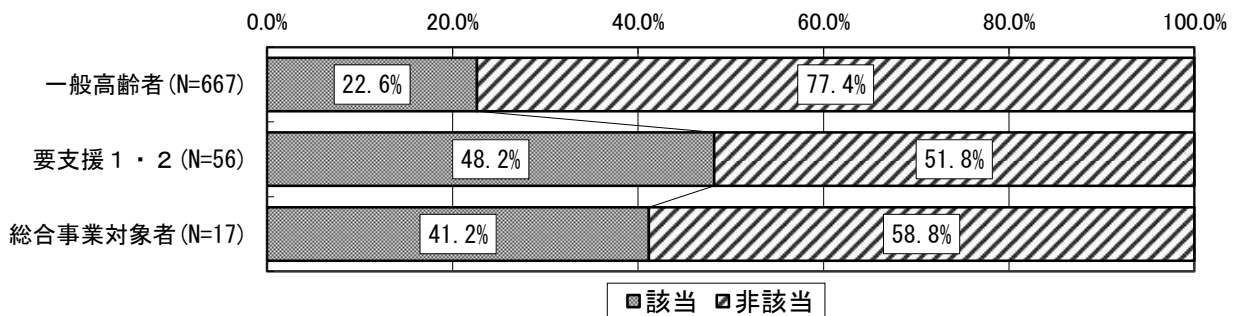
図 年齢別 口腔の機能の低下している高齢者



● 認定状況別

認定状況別にみると、口腔機能の低下している高齢者は要支援1・2が48.2%となっています。

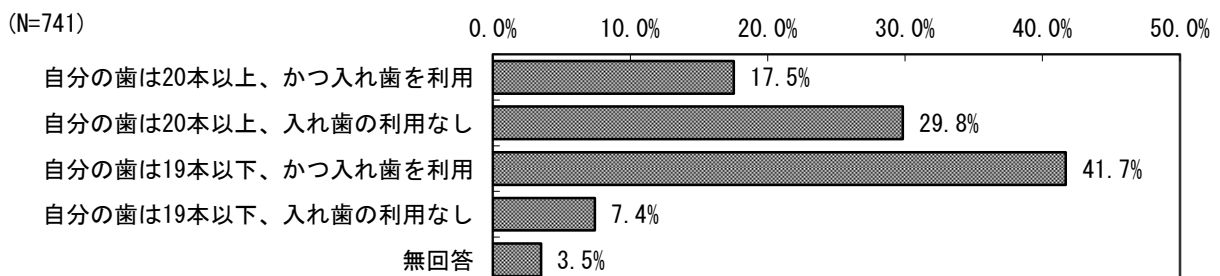
図 認定状況別 口腔の機能の低下している高齢者



(3) 歯の数と入れ歯の利用状況

歯の数と入れ歯の利用状況についてみると、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(41.7%)が最も多く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」(29.8%)、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(17.5%)となっています。入れ歯を利用している方(「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の合計)は59.2%となっています。

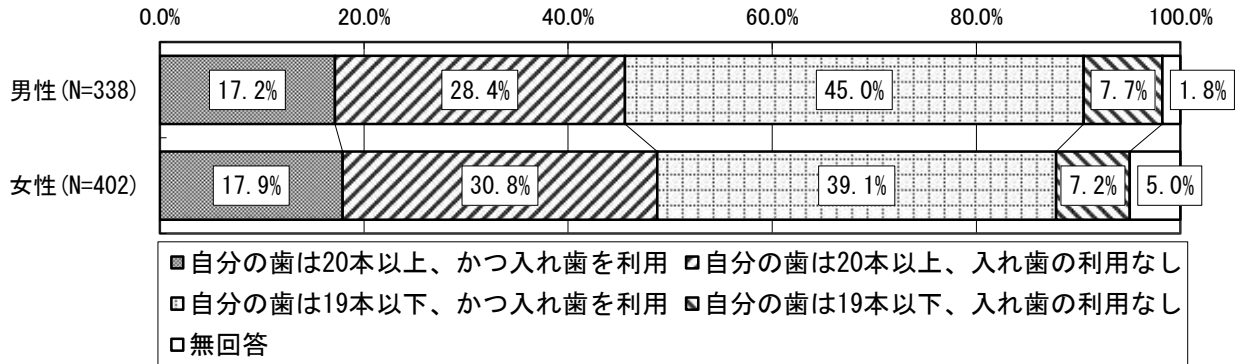
図 歯の数と入れ歯の利用状況



● 性別

性別にみると、入れ歯を利用している方は男性が 62.2%、女性が 57.0%となっており、男性が女性より 5.2 ポイント多くなっています。

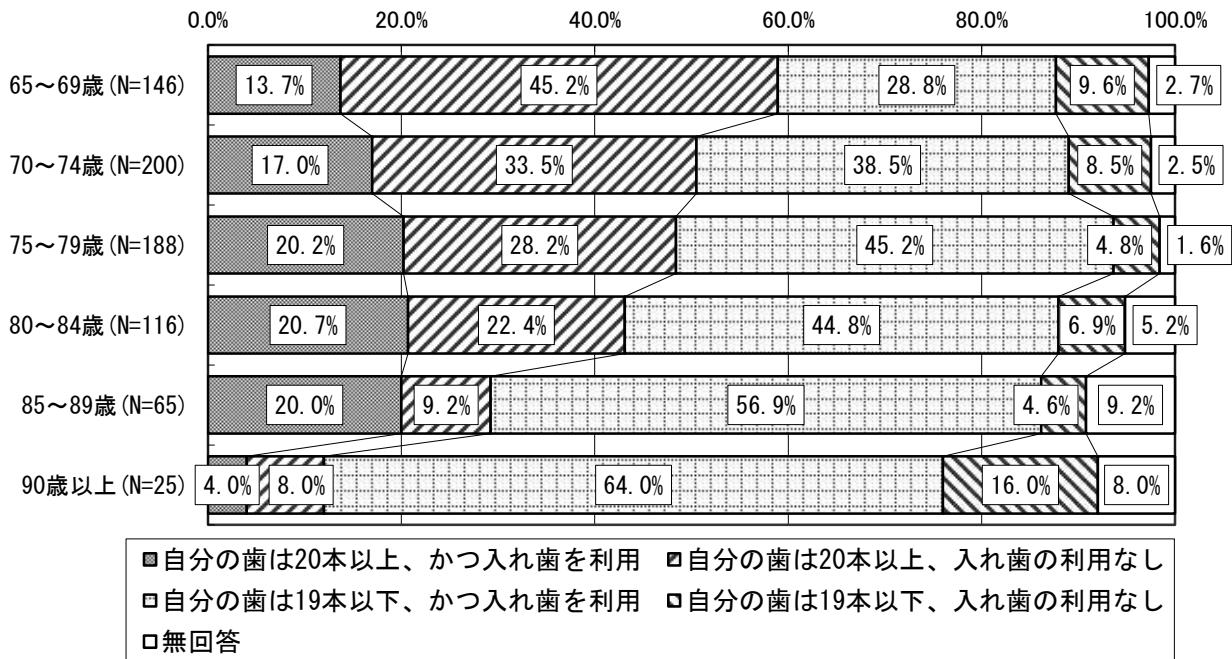
図 性別 歯の数と入れ歯の利用状況



● 年齢別

年齢別にみると、入れ歯を利用している方は年齢が上がるにつれて多くなり、70 歳以上では5割以上となっています。

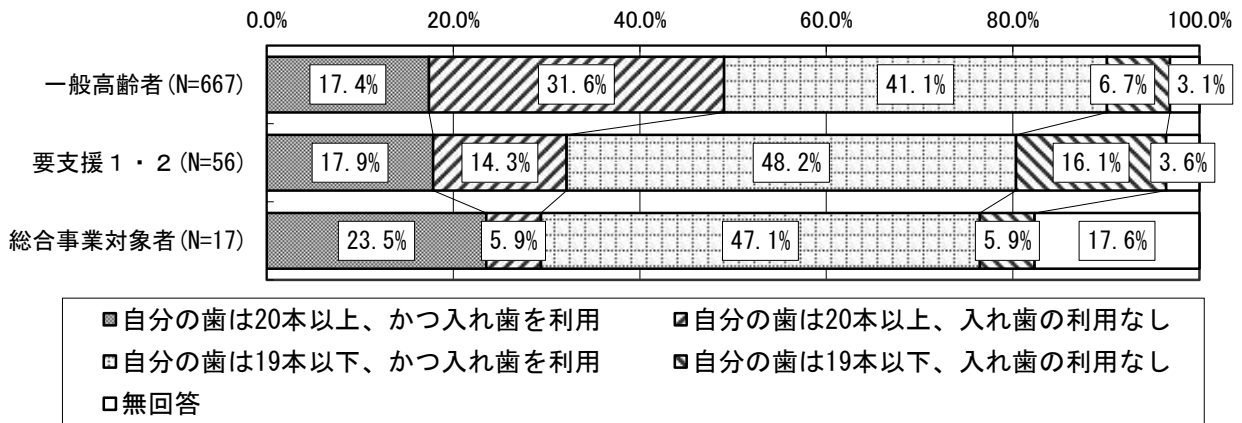
図 年齢別 歯の数と入れ歯の利用状況



● 認定状況別

認定状況別にみると、入れ歯を利用している方はそれぞれ5割以上となっており、要支援1・2が66.1%となっています。

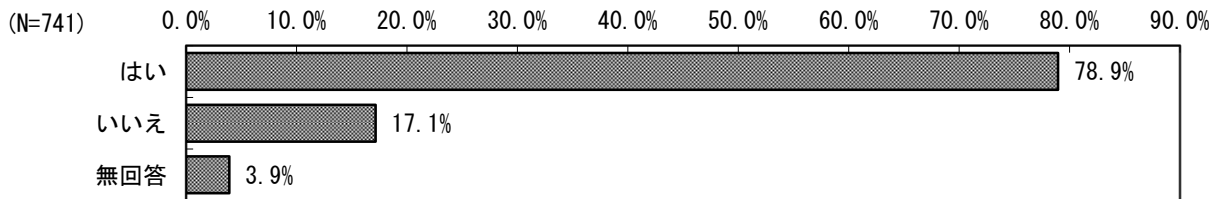
図 認定状況別 歯の数と入れ歯の利用状況



(4) 噛み合わせは良いか

噛み合わせは良いかをみると、「はい」が78.9%、「いいえ」が17.1%となっています。

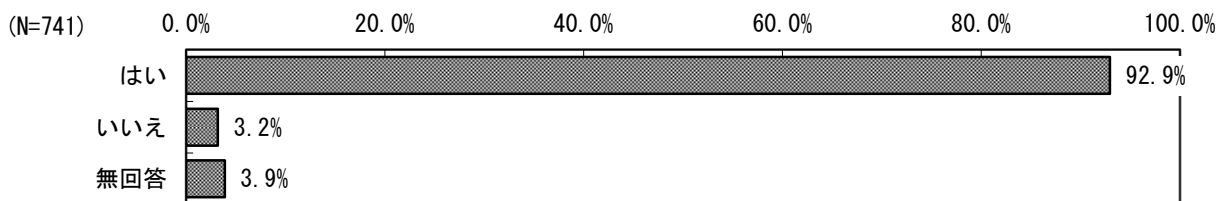
図 噛み合わせは良いか



(5) 毎日入れ歯の手入れをしているか

毎日入れ歯の手入れをしているかをみると、「はい」が92.9%、「いいえ」が3.2%となっています。

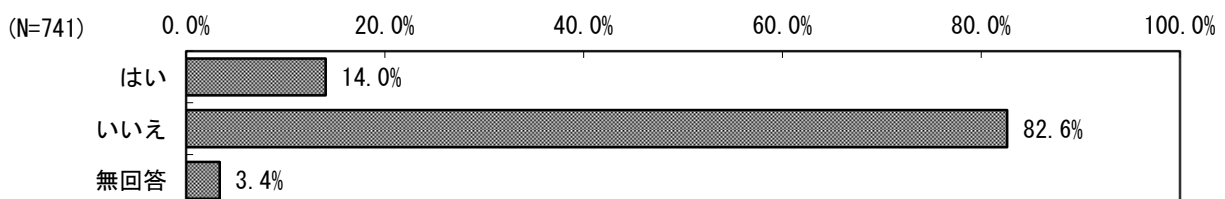
図 毎日入れ歯の手入れをしているか



(6) この6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少があったか

この6か月間の2～3kg以上の体重減少についてみると、「いいえ」が82.6%、「はい」が14.0%となっています。

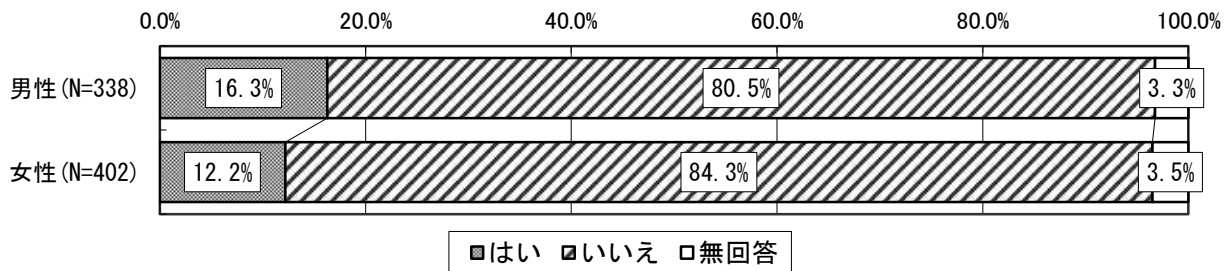
図 この6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか



● 性別

性別にみると、この6か月間で2～3kg以上の体重減少がある方は男性（16.3%）が女性（12.2%）より4.1ポイント多くなっています。

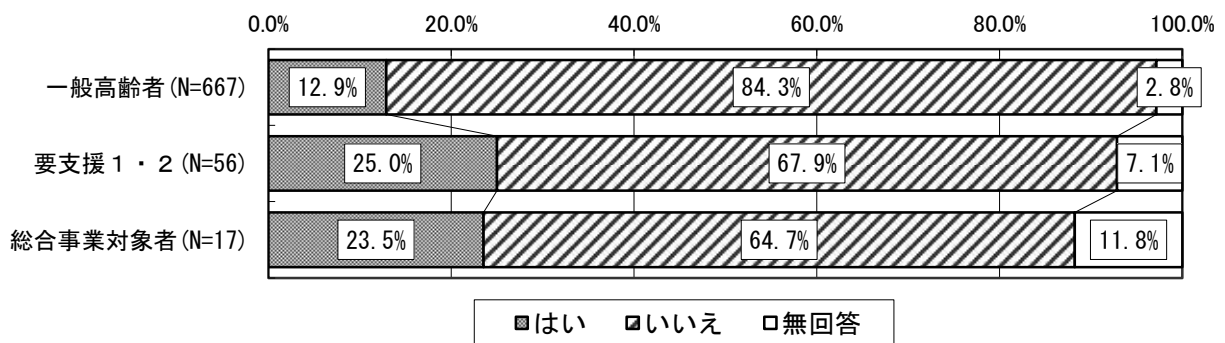
図 性別 この6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか



● 認定状況別

年齢別にみると、この6か月間で2～3kg以上の体重減少がある方は要支援1・2が25.0%となっています。

図 認定状況別 この6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか

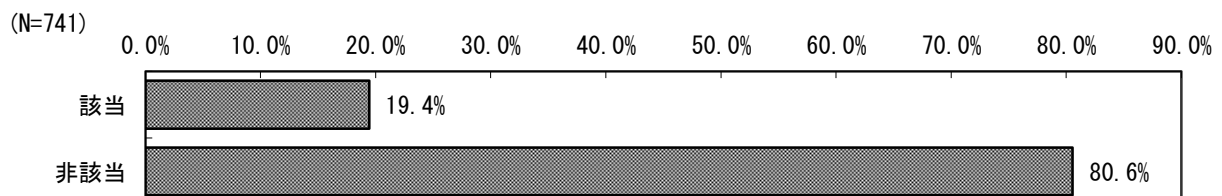


〈低栄養状態にある高齢者〉

身長・体重で「18.5未満（やせ）」であり、かつ、過去6ヶ月間での体重減少のどちらにも該当する場合は、「低栄養状態にある高齢者」と判定します。

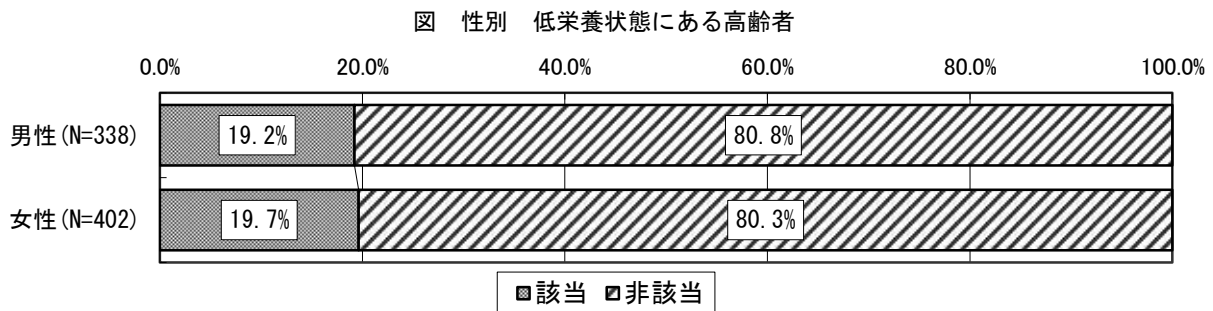
低栄養状態にある高齢者は19.4%となっています。

図 低栄養状態にある高齢者



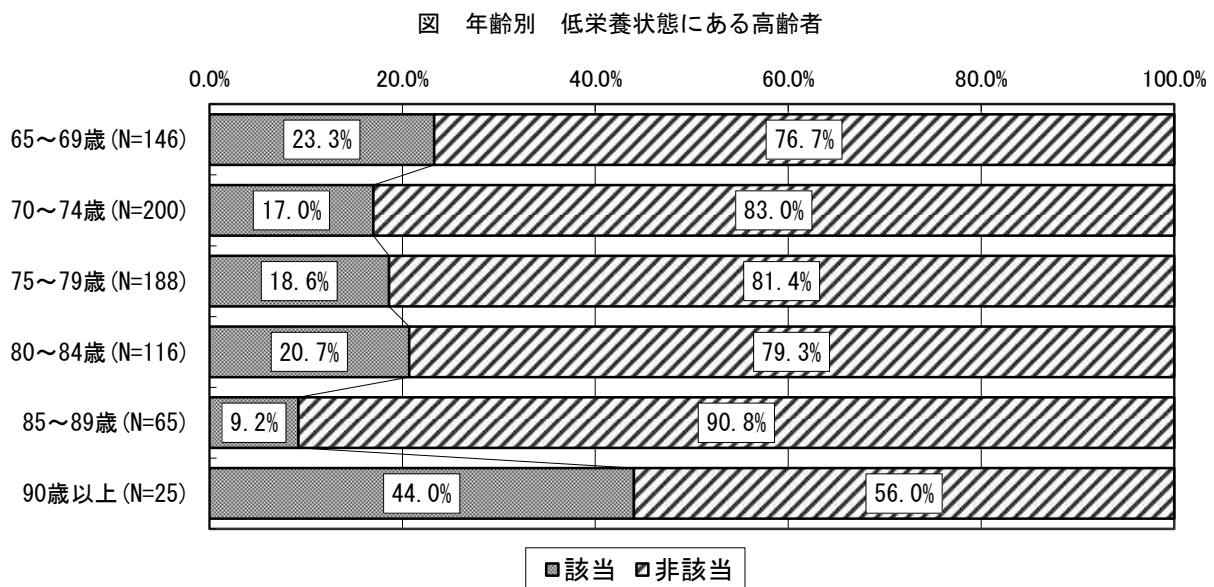
● 性別

性別にみると、低栄養状態にある高齢者は男性が 19.2%、女性が 19.7%となっており、大きな差はみられません。



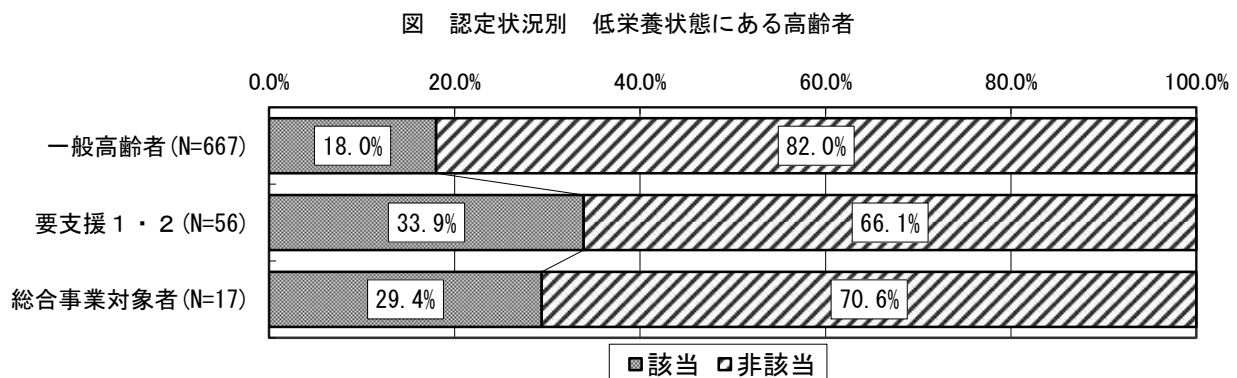
● 年齢別

年齢別にみると、低栄養状態にある高齢者は 65～69 歳が 23.3%、80～84 歳が 20.7%となっています。



● 認定状況別

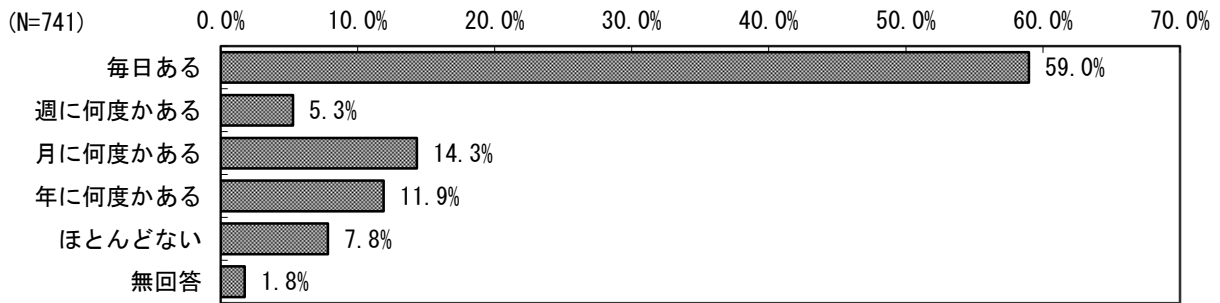
認定状況別にみると、低栄養状態にある高齢者は要支援 1・2 が 33.9%となっています。



(7) 誰かと食事をとる機会

誰かと食事をとる機会についてみると、「毎日ある」(59.0%)が最も多く、次いで「月に何度かある」(14.3%)、「年に何度かある」(11.9%)となっています。一方、「ほとんどない」は7.8%となっています。

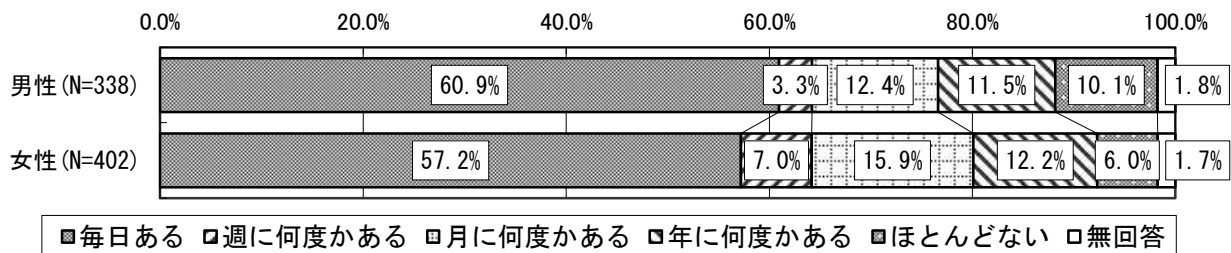
図 誰かと食事をとる機会



● 性別

性別にみると、誰かと食事をとる機会が「ほとんどない」は男性(10.1%)が女性(6.0%)より4.1ポイント多くなっています。

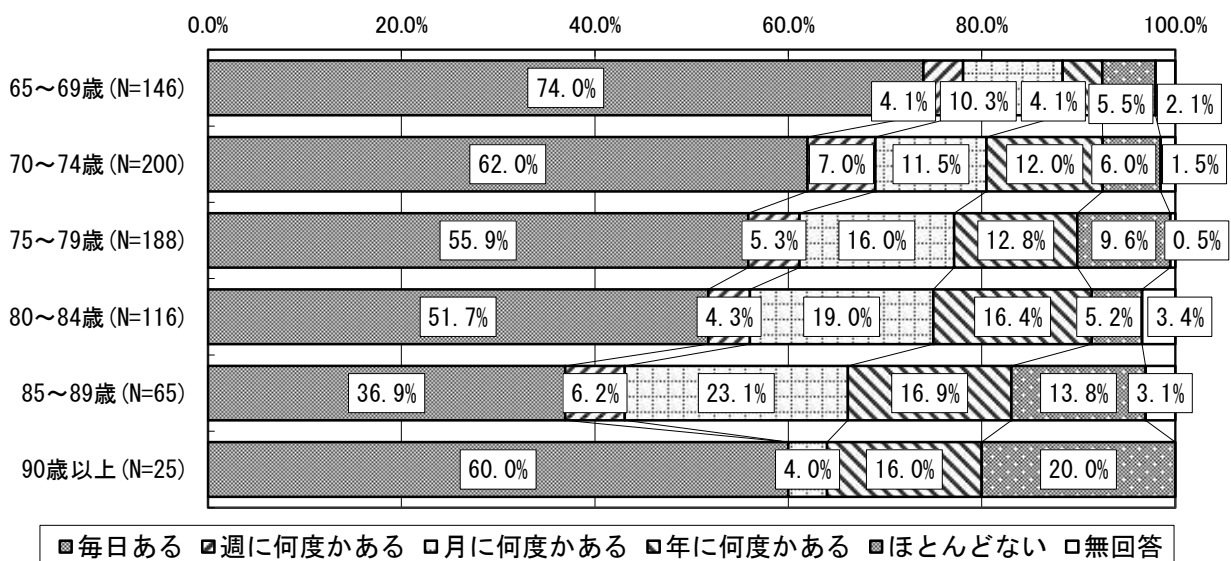
図 性別 誰かと食事をとる機会



● 年齢別

年齢別にみると、誰かと食事をとる機会が「ほとんどない」は85歳未満では1割未満と少ないですが、85~89歳では13.8%となっています。

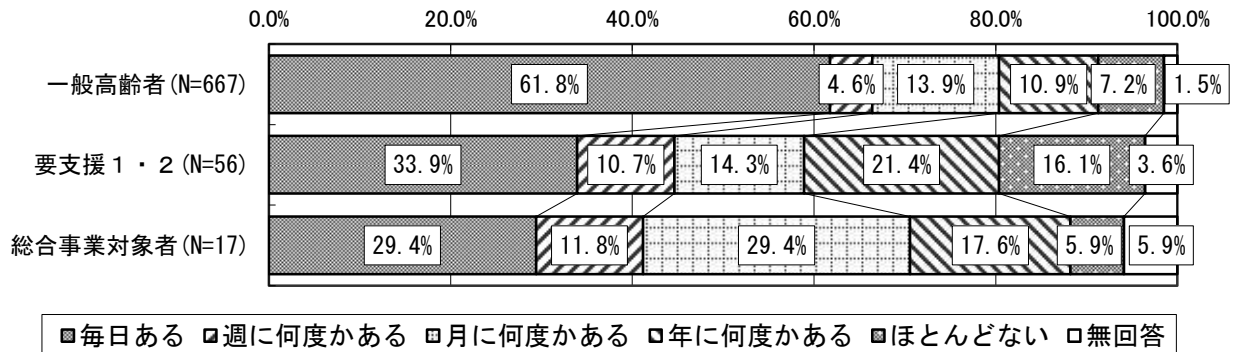
図 年齢別 誰かと食事をとる機会



● 認定状況別

認定状況別にみると、誰かと食事をとにもする機会が「ほとんどない」は要支援1・2が16.1%となっています。

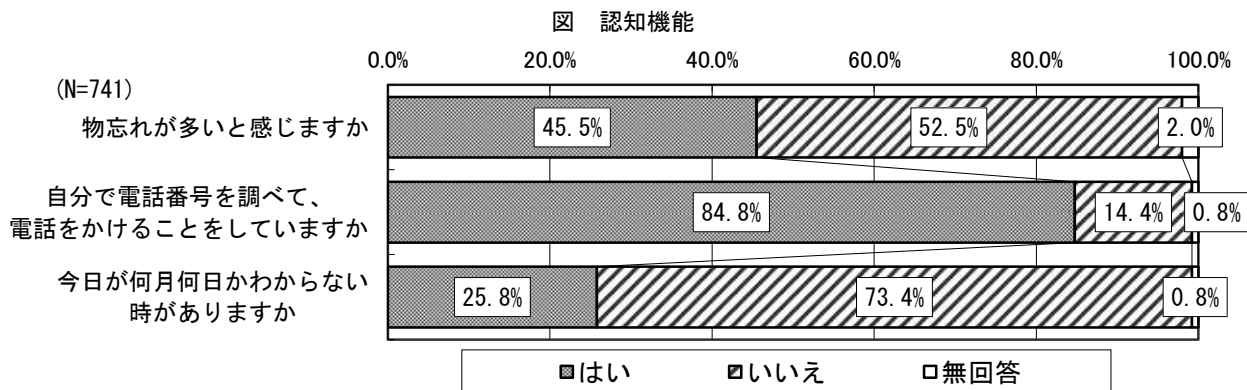
図 認定状況別 誰かと食事をとにもする機会



5 毎日の生活について

(1) 認知機能

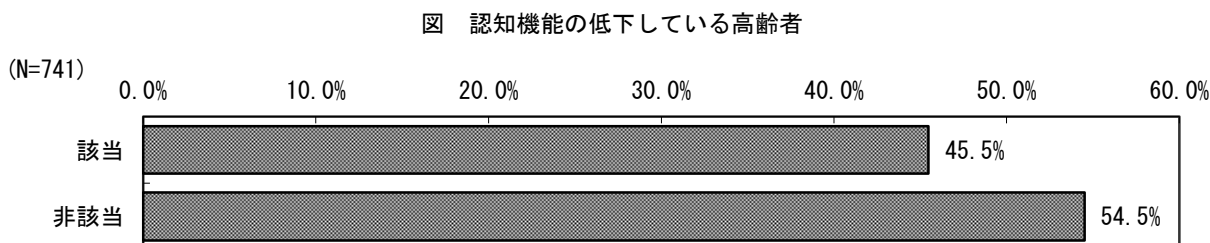
認知機能についてみると、「物忘れが多いと感じますか」と「今日が何月何日かわからない時がありますか」はどちらも「いいえ」が「はい」を上回っていますが、「物忘れが多いと感じますか」は「はい」が45.5%と5割近くを占めています。「自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか」は「はい」が84.8%と5割近くを占めています。「自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか」は「はい」が84.8%となっています。



〈認知機能の低下〉

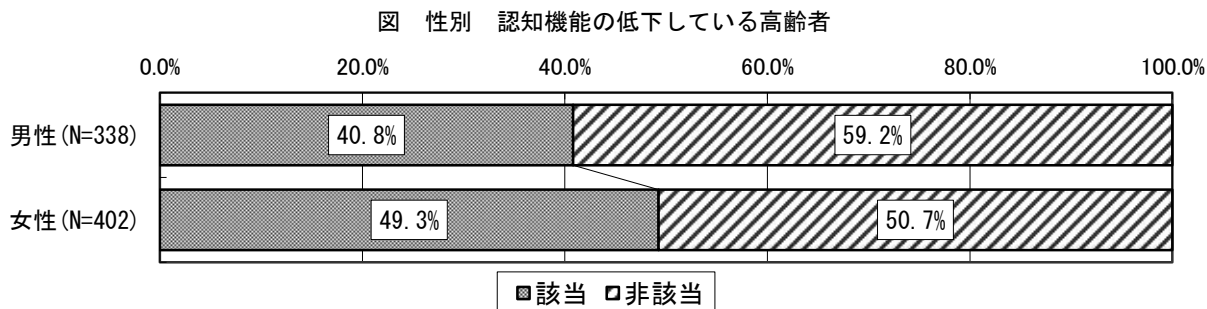
・「物忘れが多いと感じますか」に「はい」と回答した方を「認知機能の低下している高齢者」と判定します。

認知機能の低下している高齢者は45.5%となっています。



● 性別

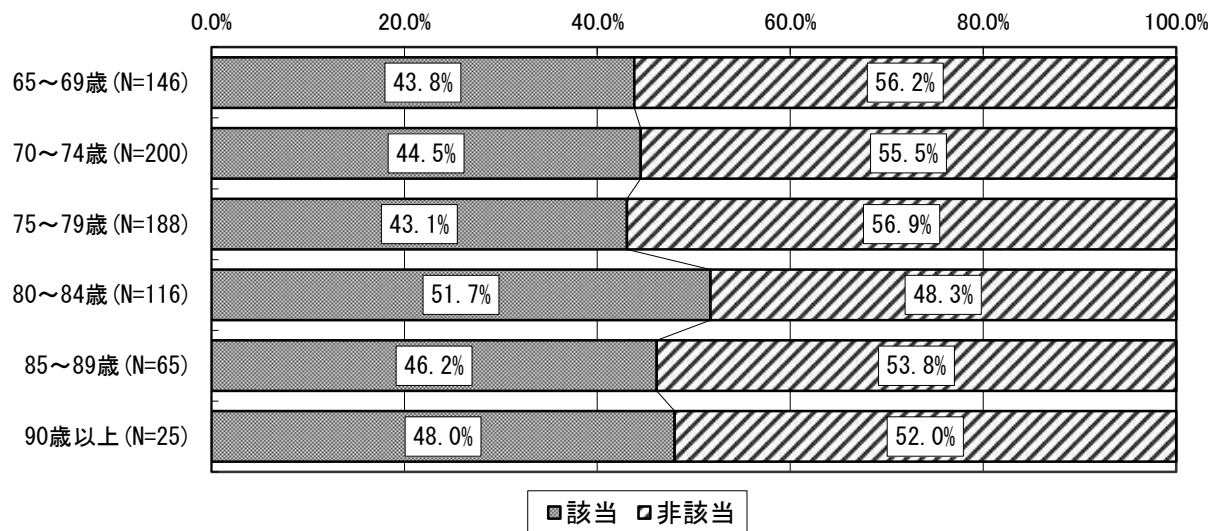
性別にみると、認知機能の低下している高齢者は女性（49.3%）が男性（40.8%）より8.5ポイント多くなっています。



- 年齢別

年齢別にみると、認知機能の低下している高齢者は 80 歳以上で多くなっており、80～84 歳では 51.7%となっています。

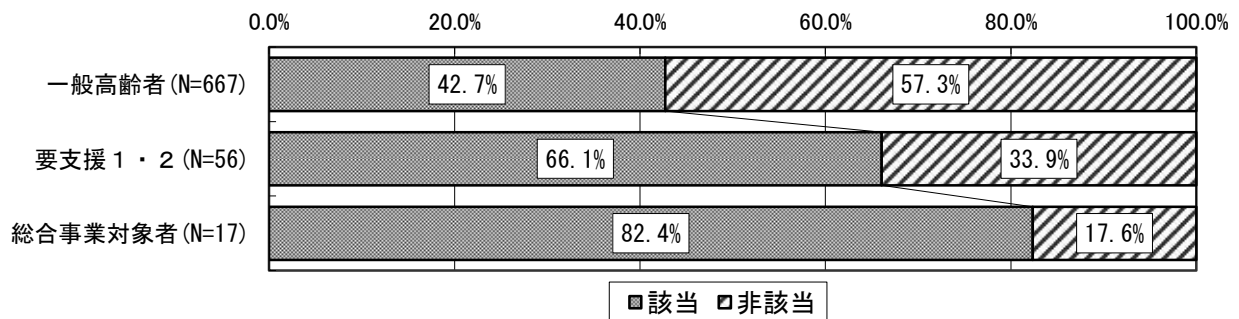
図 年齢別 認知機能の低下している高齢者



- 認定状況別

認定状況別にみると、認知機能の低下している高齢者は要支援 1・2 が 66.1%となっています。

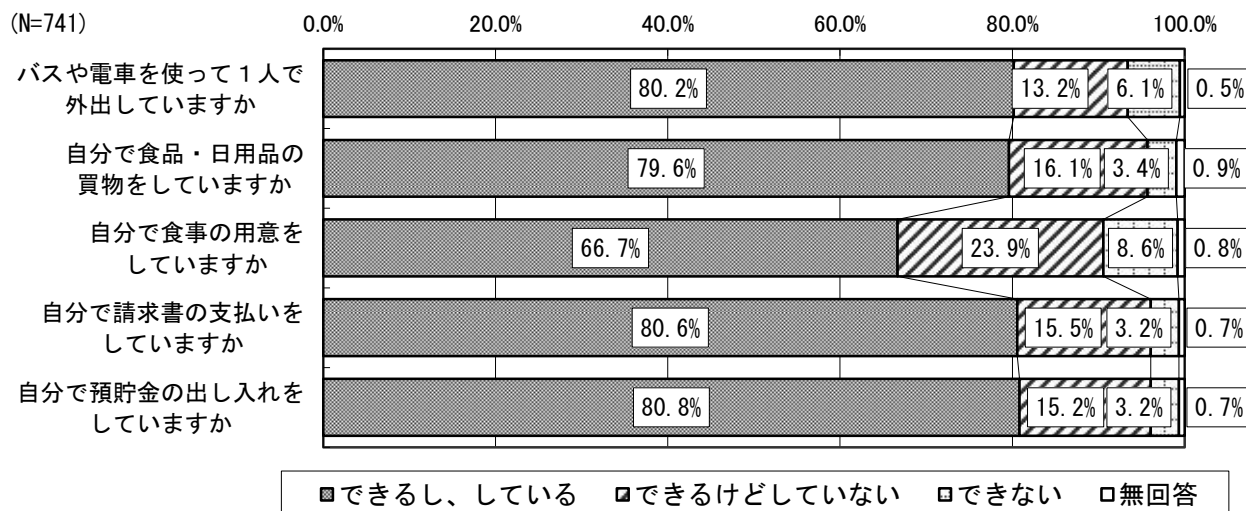
図 認定状況別 認知機能の低下している高齢者



(2) 生活機能全般

生活機能全般についてみると、いずれの項目も「できるし、している」が6割以上となっており、「バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）」、「自分で請求書の支払いをしていますか」、「自分で預貯金の出し入れをしていますか」では8割以上となっています。一方、「できない」はいずれの項目も1割未満となっています。

図 生活機能全般



〈生活機能全般〉

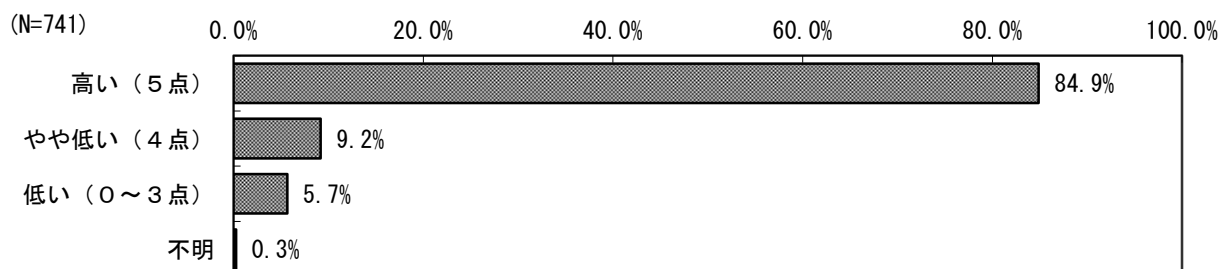
・「生活機能全般」で「できるし、している」または「できるけどしていない」

以上の選択肢をそれぞれ1点とした合計得点をIADL指標[※]とします。5点が最高点で、3点以下は健康リスク有りとされます。

※IADLとは手段的日常生活動作のことあり、買い物、調整、洗濯、電話、薬の管理、財産管理、乗り物等の日常生活上の複雑な動作をいいます。

IADL（手段的日常生活動作）指標のうち、健康リスクがある（0～3点）高齢者は5.7%となっています。

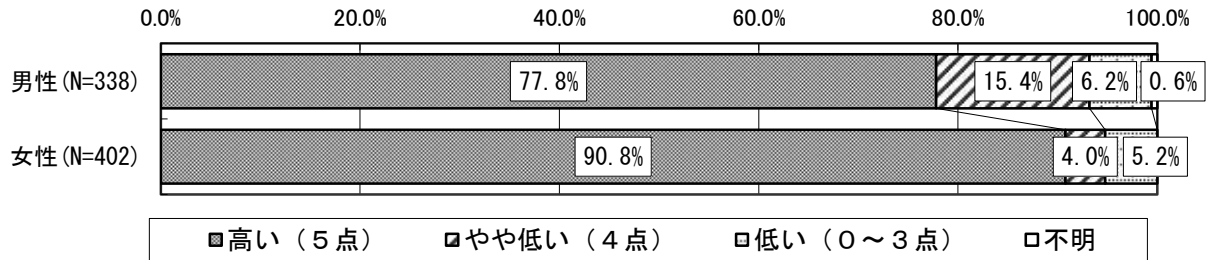
図 IADL（手段的日常生活動作）指標



● 性別

性別にみると、健康リスクがある（0～3点）高齢者は男性が6.2%、女性が5.2%となっており、大きな差はみられません。

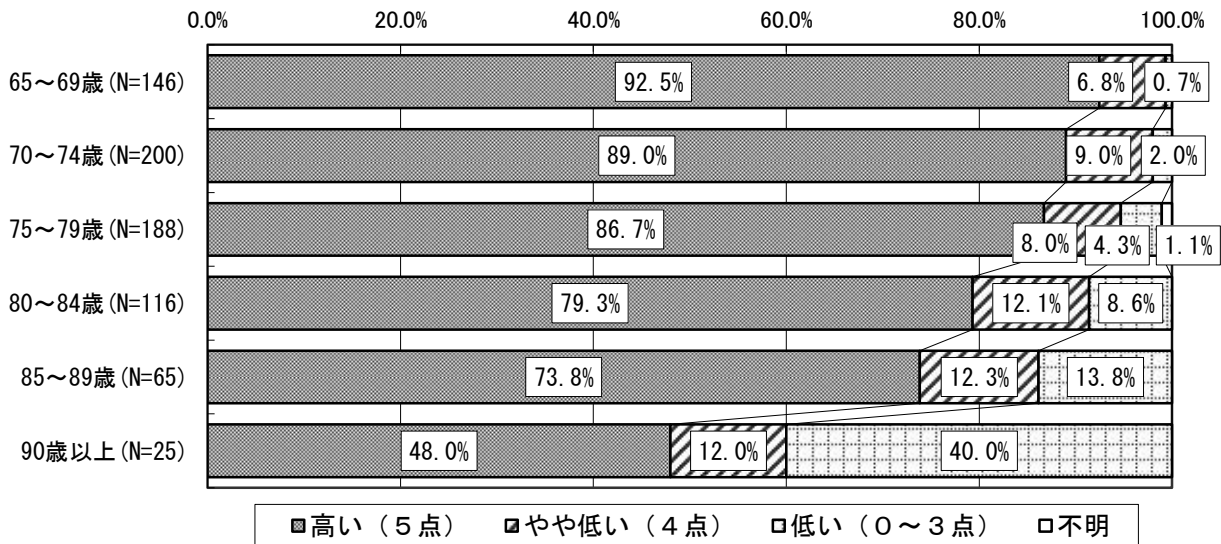
図 性別 IADL（手段的日常生活動作）指標



● 年齢別

年齢別にみると、健康リスクがある（0～3点）高齢者は年齢が上がるにつれて多くなり、85～89歳では13.8%となっています。

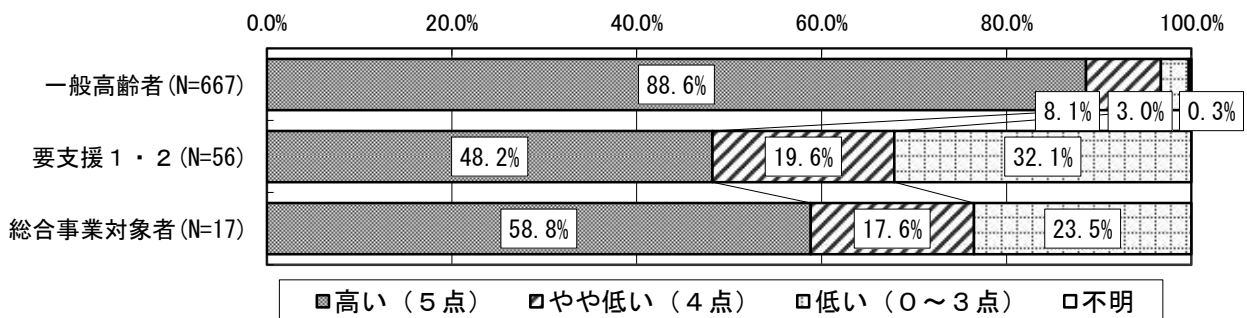
図 年齢別 IADL（手段的日常生活動作）指標



● 認定状況別

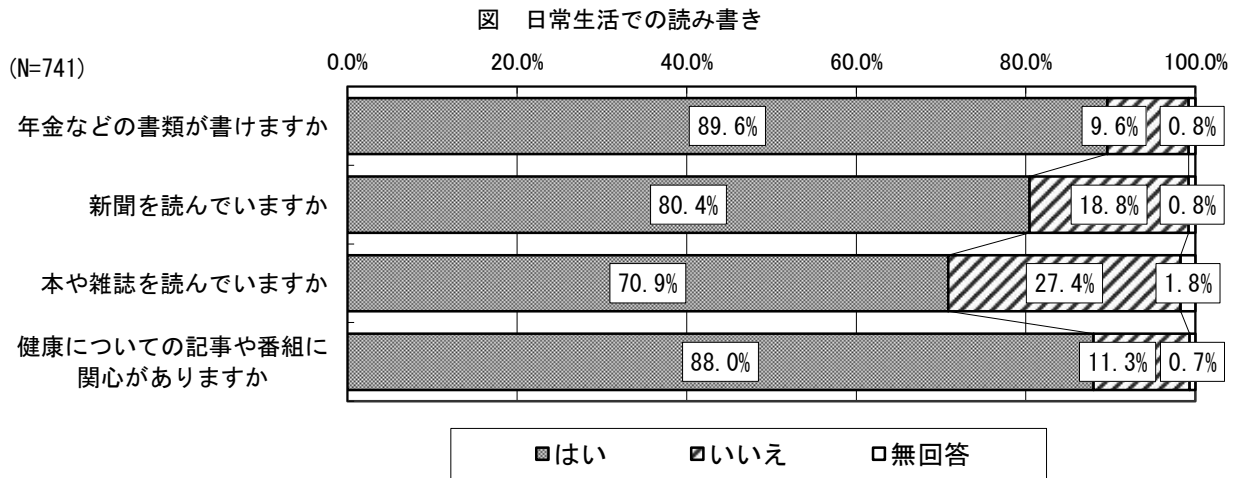
認定状況別にみると、健康リスクがある（0～3点）高齢者は要支援1・2が32.1%となっています。

図 認定状況別 IADL（手段的日常生活動作）指標



(3) 日常生活での読み書き

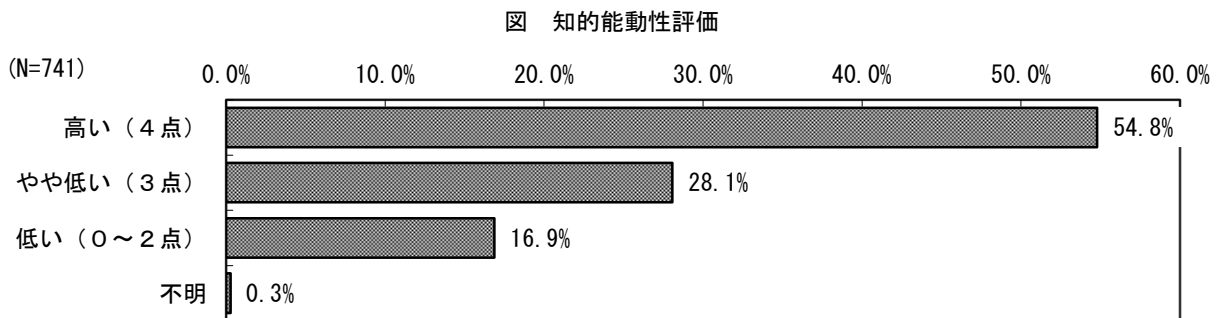
日常生活での読み書きについてみると、いずれの項目も「はい」が7割以上となっており、「年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか」と「健康についての記事や番組に関心がありますか」では9割近くを占めています。一方、「いいえ」は「本や雑誌を読んでいますか」が27.4%となっています。



< 知的能動性評価 >

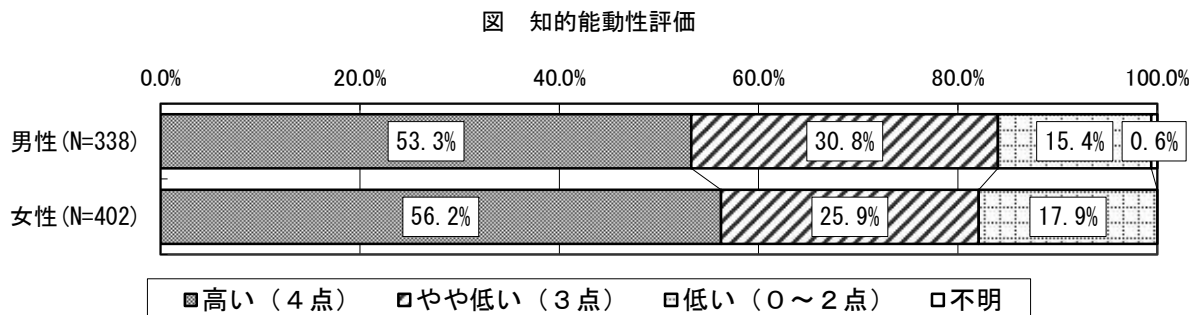
・日常生活での読み書きについての各設問に「はい」と回答した場合を1点として知的能動性[※]の指標とし、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」としています。
 ※知的能動性とは、余暇や創作など生活を楽しむ知的活動が可能な能力をいいます。

知的能動性評価のうち、「やや低い（3点）」は28.1%、「低い（0～2点）」は16.9%となっています。



● 性別

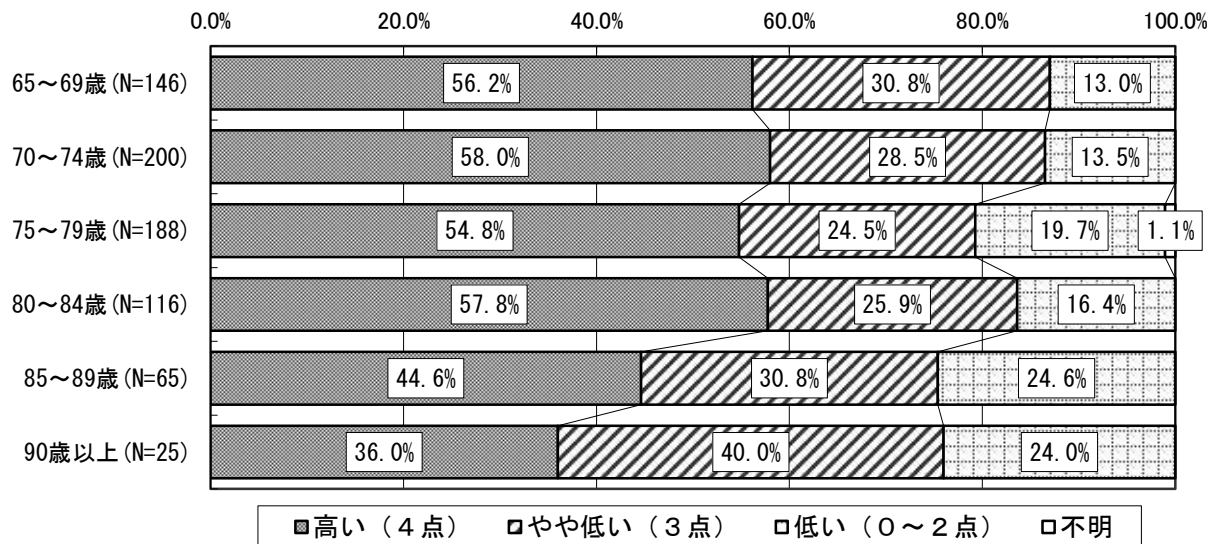
性別にみると、「低い（0～2点）」は女性（17.9%）が男性（15.4%）より2.5ポイント多くなっています。



● 年齢別

年齢別にみると、「低い（0～2点）」は年齢が上がるにつれて多くなり、85～89歳では24.6%となっています。

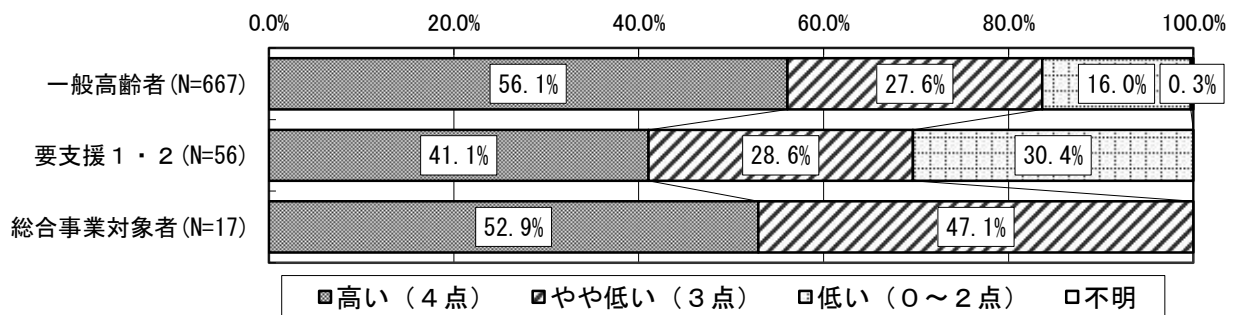
図 年齢別 知的能動性評価



● 認定状況別

認定状況別にみると、「低い（0～2点）」は要支援1・2が30.4%となっています。

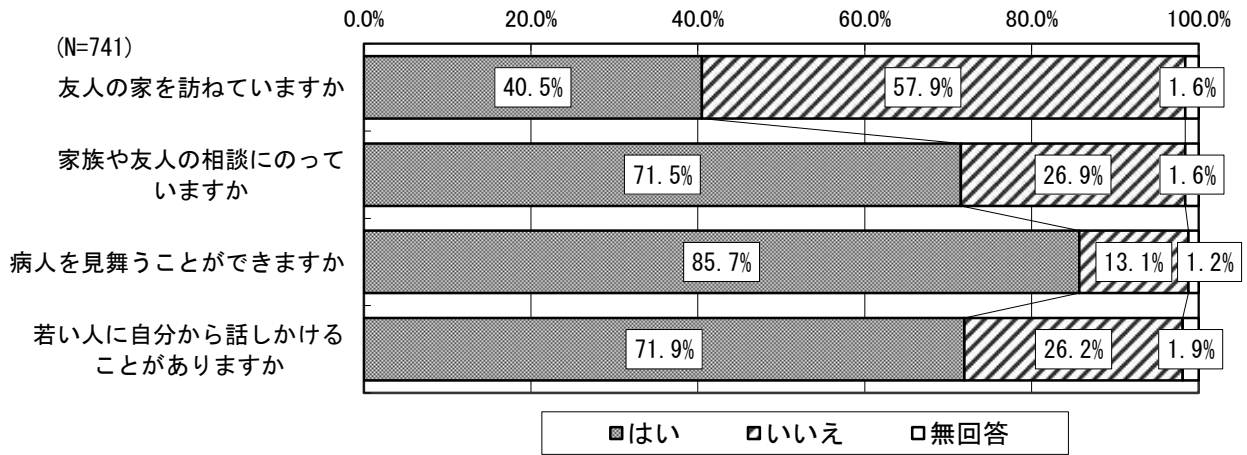
図 認定状況別 知的能動性評価



(4) 日常生活での他人との関わり

日常生活での他人との関わりについてみると、「はい」は「家族や友人の相談にのっていますか」、「病人を見舞うことができますか」、「若い人に自分から話しかけることがありますか」は7割以上となっており、「病人を見舞うことができますか」では85.7%となっています。一方、「いいえ」は「友人の家を訪ねていますか」が57.9%となっています。

図 日常生活での他人との関わり

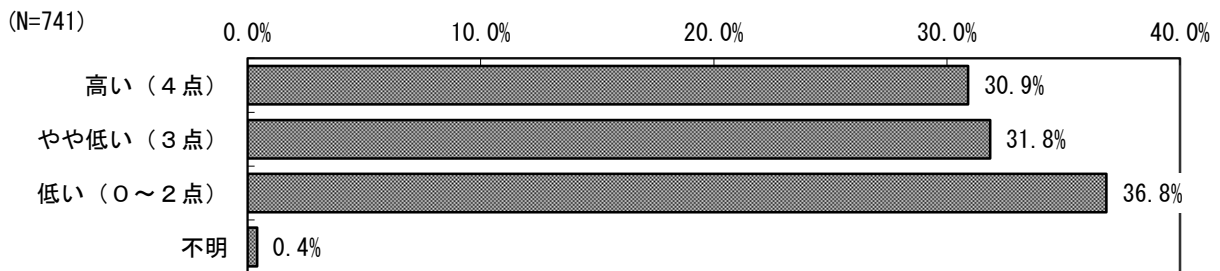


<社会的役割評価>

・日常生活での他人との関わりの各項目で「はい」の選択肢をそれぞれ1点として、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」としています。
 ※地域で社会的な役割を果たす社会活動が可能な能力をいいます。

社会的役割評価が「やや低い(3点)」は31.8%、「低い(0~2点)」は36.8%となっています。

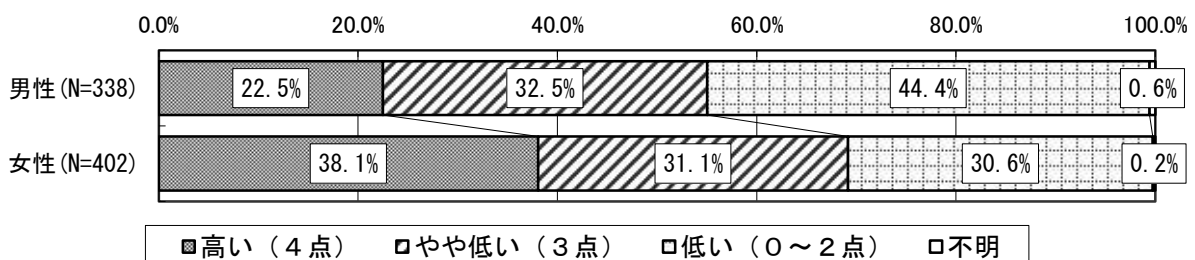
図 社会的役割評価



● 性別

性別にみると、「低い(0~2点)」は男性(44.4%)が女性(30.6%)より13.8ポイント多くなっています。

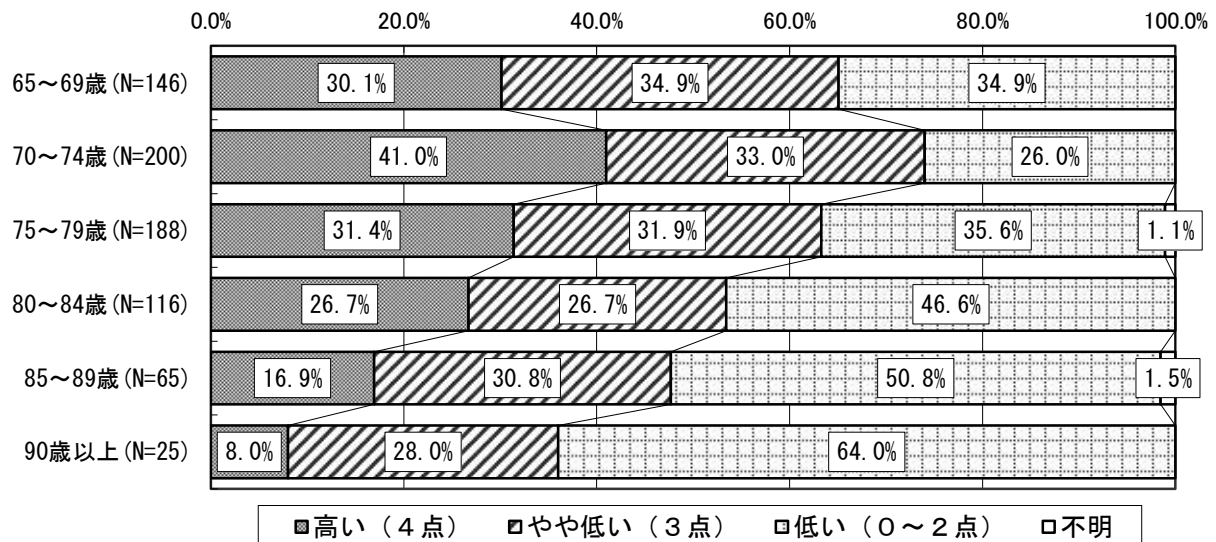
図 性別 社会的役割評価



● 年齢別

年齢別にみると、「低い（0～2点）」は80歳以上で多くなっており、85～89歳では50.8%となっています。

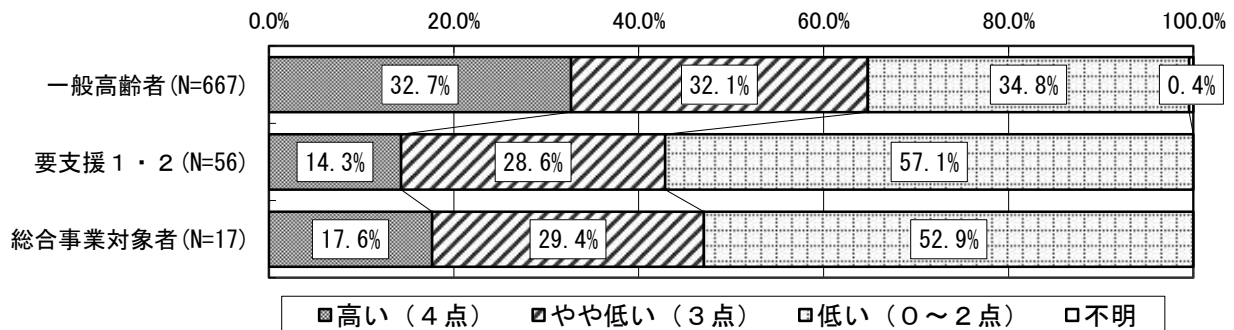
図 年齢別 社会的役割評価



● 認定状況別

年齢別にみると、「低い（0～2点）」は要支援1・2が57.1%となっています。

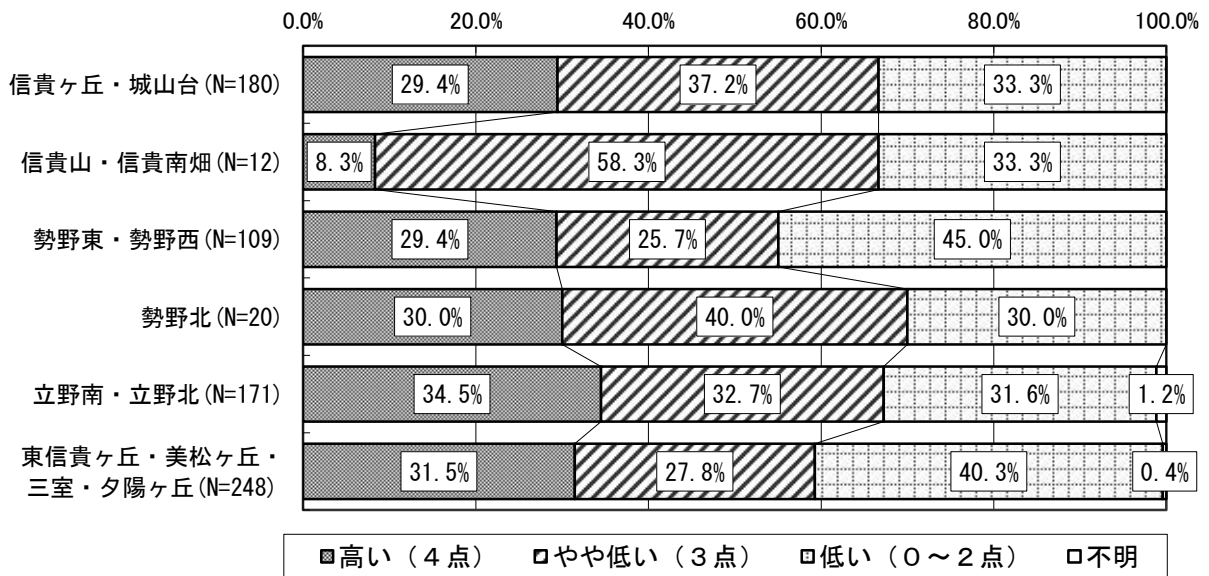
図 認定状況別 社会的役割評価



● 居住地域別

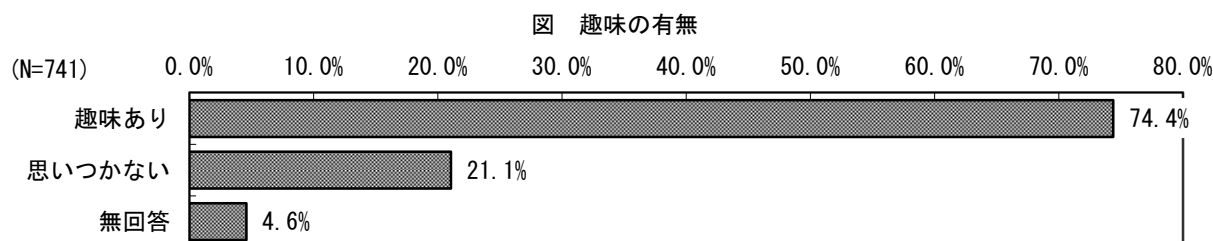
居住地域別にみると、「低い（0～2点）」は勢野東・勢野西が 45.0%、東信貴ヶ丘・美松ヶ丘・三室・夕陽ヶ丘が 40.3%となっています。

図 居住地域別 社会的役割評価



(5) 趣味や生きがいの有無

趣味の有無についてみると、「趣味あり」は74.4%となっています。



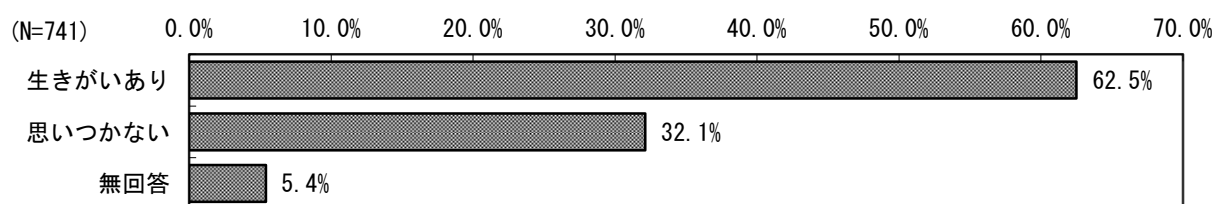
「趣味あり」と回答した方について、その具体的内容を記述してもらい、以下の通り分類しました。

表 趣味の具体的内容

内容	件数	内容	件数
運動、スポーツ	166	友人・知人との交流・会話	7
園芸	119	日曜大工、DIY	6
読書	82	車・バイク	5
手芸・編み物	65	ボランティア、地域活動	4
旅行	57	仕事	4
カラオケ、歌唱	57	家事	2
鑑賞（美術、音楽、演劇、映画など）	56	信仰	2
美術製作（絵画、水墨画、絵手紙、陶芸、造形等）	51	収集	2
囲碁・将棋・ゲーム	34	その他	9
釣りなど野外活動	32	合計	933
演奏	23	記述があった件数	491
作文、日記などの執筆	22		
スマホ・パソコン・無線	20		
スポーツ観戦やテレビ・ラジオ	20		
投資等	20		
茶華道、書道、習字	16		
料理、食事、お酒	15		
工作・物作り	12		
生涯学習	9		
動物飼育・鑑賞	8		
演じる・踊り	8		

生きがいの有無についてみると、「生きがいあり」は62.5%となっています。

図 生きがいの有無



「生きがいあり」と回答した方について、その具体的内容を記述してもらい、以下の通り分類しました。

表 生きがいの具体的内容

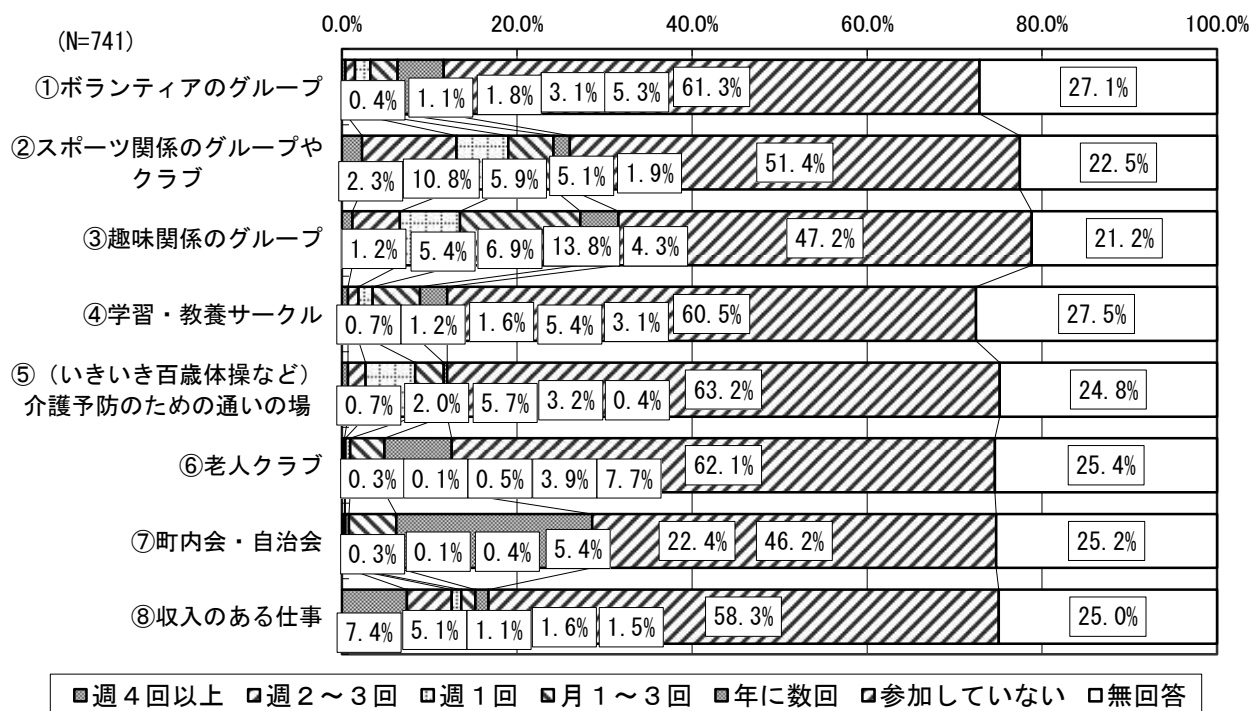
内容	件数	内容	件数
孫やひ孫の成長	115	囲碁・将棋・ゲーム	3
夫婦や家族	60	パソコン・スマホ	3
旅行	35	買い物やオシャレ・外出	3
園芸	33	宗教	3
仕事	29	投資等	3
スポーツ・運動	29	リハビリやデイサービス	3
仲間、人との交流	28	日常生活	2
芸術文化活動	26	その他	9
健康・長生き	25	合計	559
生涯学習・読書	20	記述があった件数	370
食事、料理	19		
毎日を楽しく過ごすこと、元気に過ごすこと	18		
ボランティアや地域の活動	17		
趣味（手芸・工作・物作り）	14		
趣味を生かすこと	14		
ペット飼育	11		
釣りなど野外趣味	11		
規律的生活	10		
芸術・芸能鑑賞	6		
自分のことができること	6		
スポーツ観戦やテレビ・ラジオ	4		

6 地域での活動について

(1) 社会参加

地域での活動の参加状況についてみると、「週4回以上」は「収入のある仕事」が7.4%、「週2～3回」は「スポーツ関係のグループやクラブ」、「週1回」と「月1～3回」では「趣味関係のグループ」がそれぞれ6.9%、13.8%、「年に数回」は「町内会・自治会」が22.4%となっています。一方、「参加していない」は「ボランティアのグループ」、「学習・教養サークル」、「(いきいき百歳体操など)介護予防のための通いの場」、「老人クラブ」がそれぞれ6割以上となっています。

図 社会参加

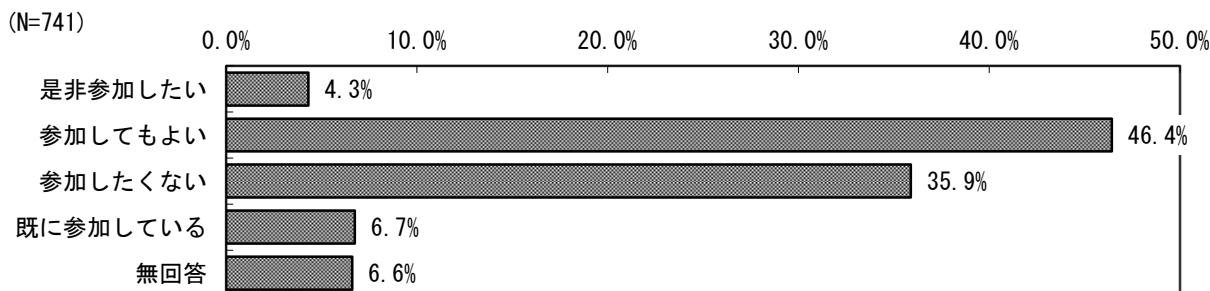


(2) 地域住民によるグループ活動への参加意向

①参加者としての参加意向

地域住民によるグループ活動への参加者としての参加意向についてみると、「参加してもよい」(46.4%)が最も多く、次いで「参加したくない」(35.9%)、「是非参加したい」(4.3%)となっています。参加意向がある方(「是非参加したい」と「参加してもよい」の合計)は50.7%となっています。

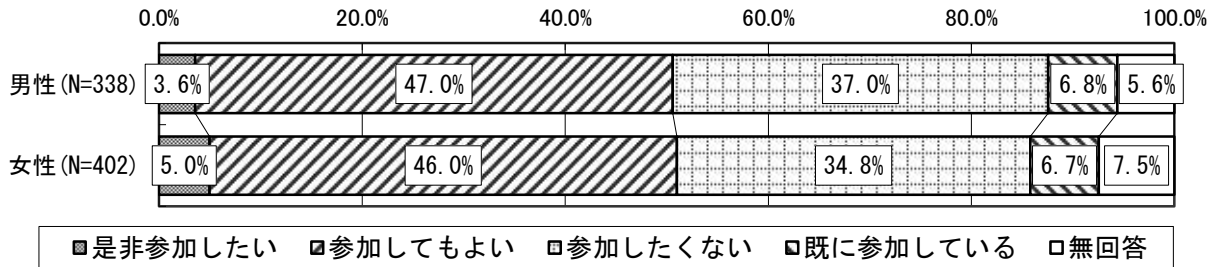
図 地域住民によるグループ活動への参加者としての参加意向



● 性別

性別にみると、地域住民によるグループ活動への参加者としての参加意向がある方は男性が 50.6%、女性が 51.0%となっており、大きな差はみられません。

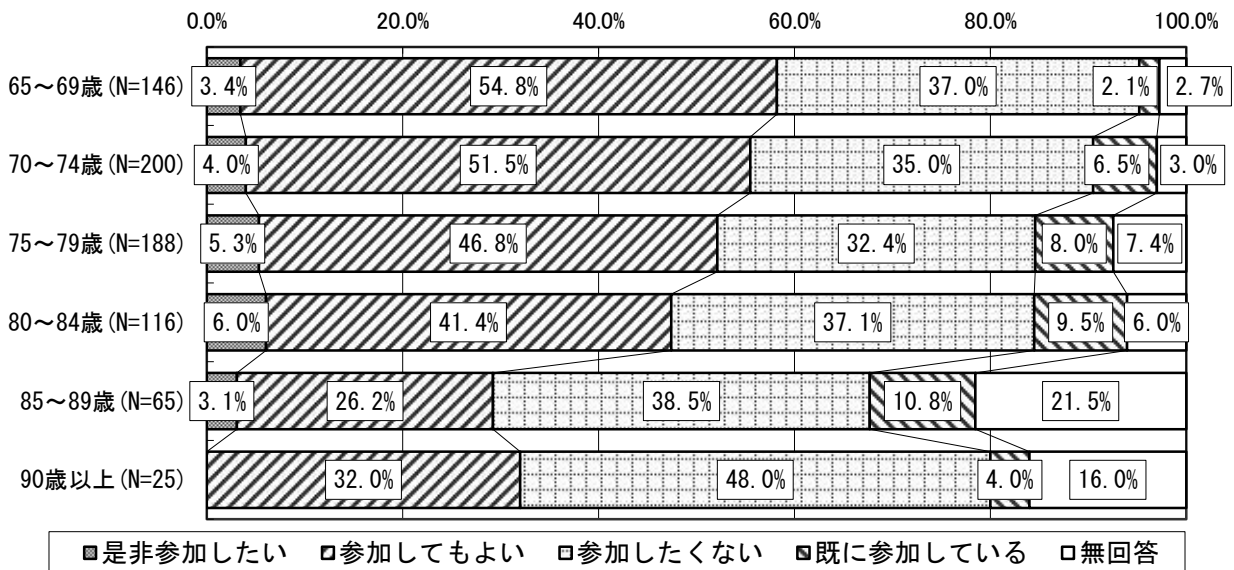
図 性別 地域住民によるグループ活動への参加者としての参加意向



● 年齢別

年齢別にみると、地域住民によるグループ活動への参加者としての参加意向がある方は 80 歳未満で 5 割以上となっており、65～69 歳では 58.2%となっています。

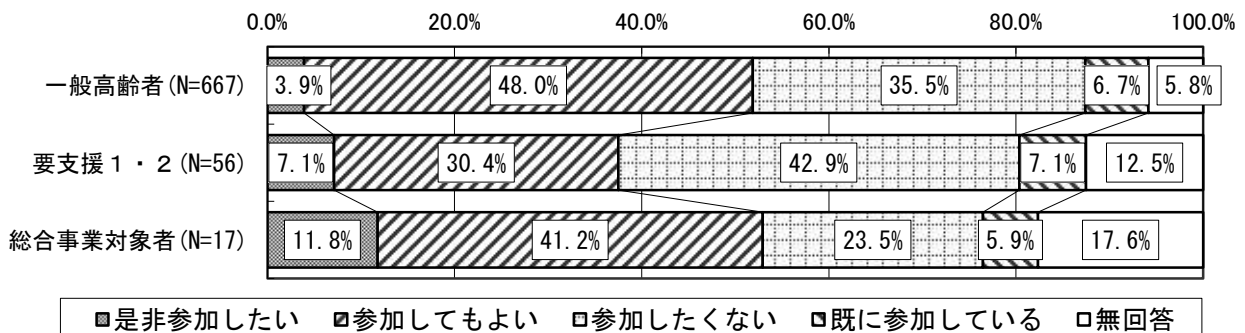
図 年齢別 地域住民によるグループ活動への参加者としての参加意向



● 認定状況別

認定状況別にみると、地域住民によるグループ活動への参加者としての参加意向がある方は一般高齢者が 51.9%となっています。

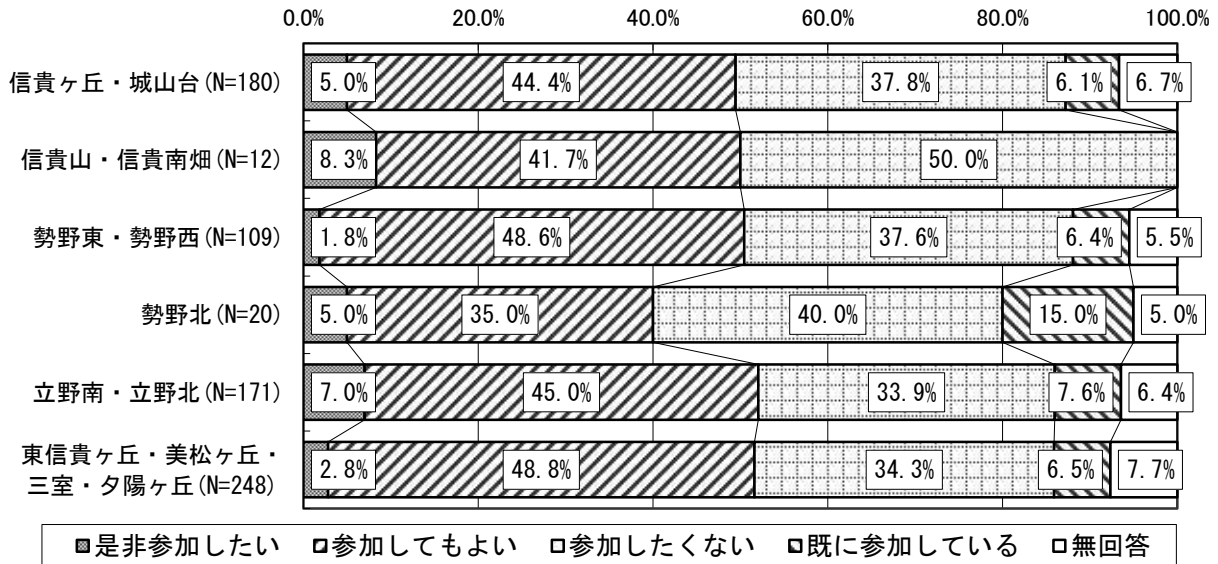
図 認定状況別 地域住民によるグループ活動への参加者としての参加意向



● 居住地域別

居住地域別にみると、地域住民によるグループ活動への参加者としての参加意向がある方は各地域で約5割となっており、立野南・立野北では52.0%となっています。

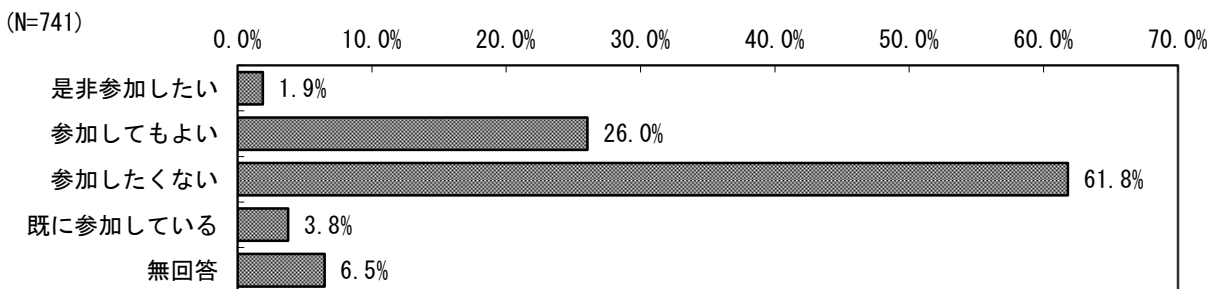
図 居住地域別 地域住民によるグループ活動への参加者としての参加意向



②企画・運営（お世話役）としての参加意向

地域住民によるグループ活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向についてみると、「参加したくない」（61.8%）が最も多く、次いで「参加してもよい」（26.0%）、「既に参加している」（3.8%）となっています。参加意向がある方（「是非参加したい」と「参加してもよい」の合計）は27.9%となっています。

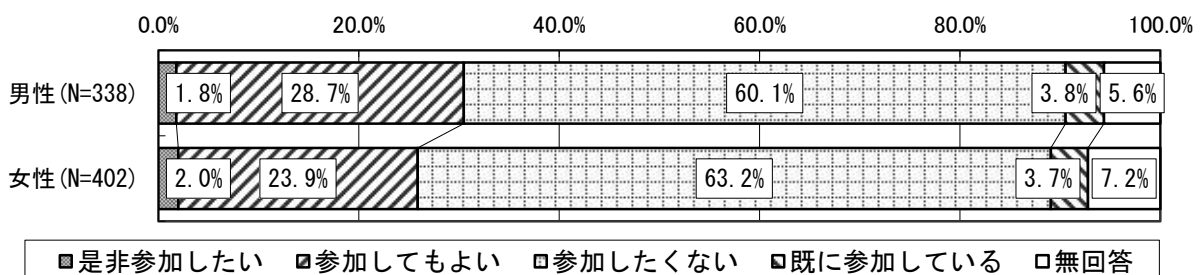
図 地域住民によるグループ活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向



● 性別

性別にみると、地域住民によるグループ活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向がある方は男性が30.5%、女性が25.9%となっており、男性が女性より4.6ポイント多くなっています。

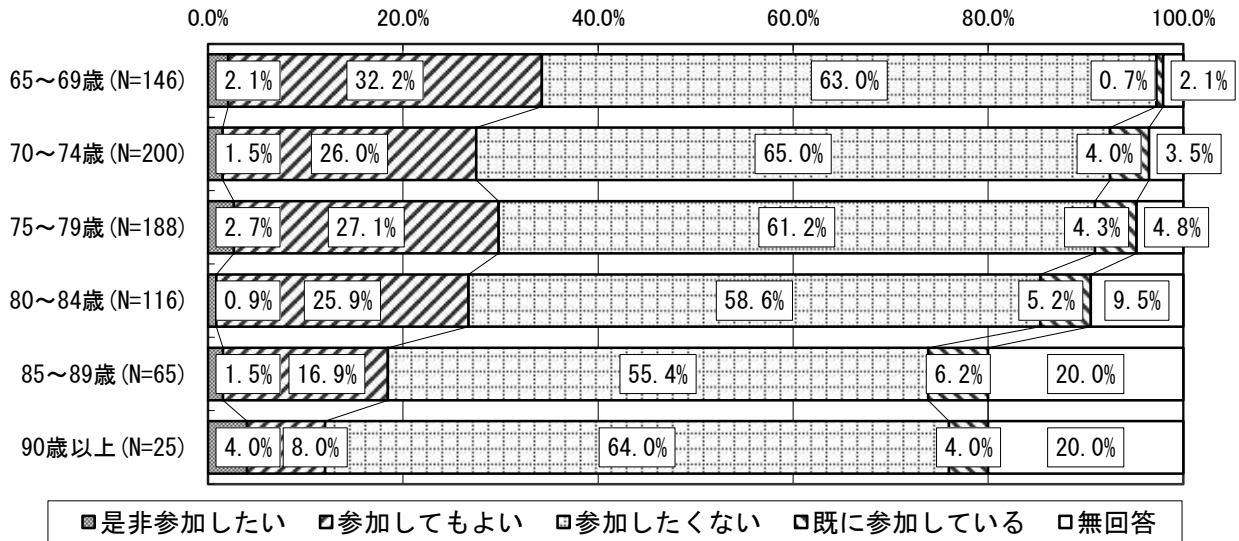
図 性別 地域住民によるグループ活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向



● 年齢別

年齢別にみると、地域住民によるグループ活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向がある方は年齢が低いほど多く、65～69歳では34.3%となっています。

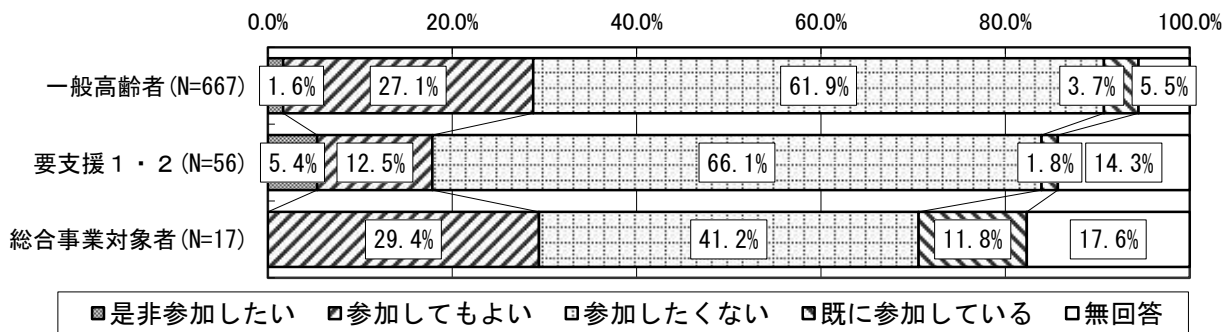
図 年齢別 地域住民によるグループ活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向



● 認定状況別

認定状況別にみると、地域住民によるグループ活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向がある方は一般高齢者が28.7%となっています。

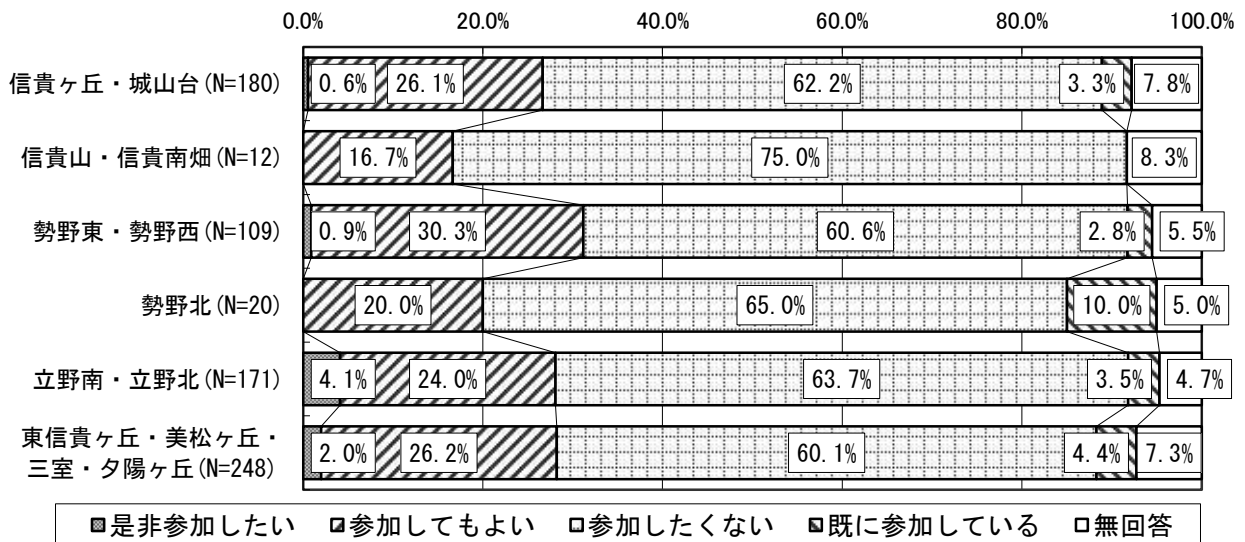
図 認定状況別 地域住民によるグループ活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向



● 居住地域別

居住地域別にみると、地域住民によるグループ活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向がある方は勢野東・勢野西では31.2%となっています。

図 居住地域別 地域住民によるグループ活動への企画・運営（お世話役）としての参加意向

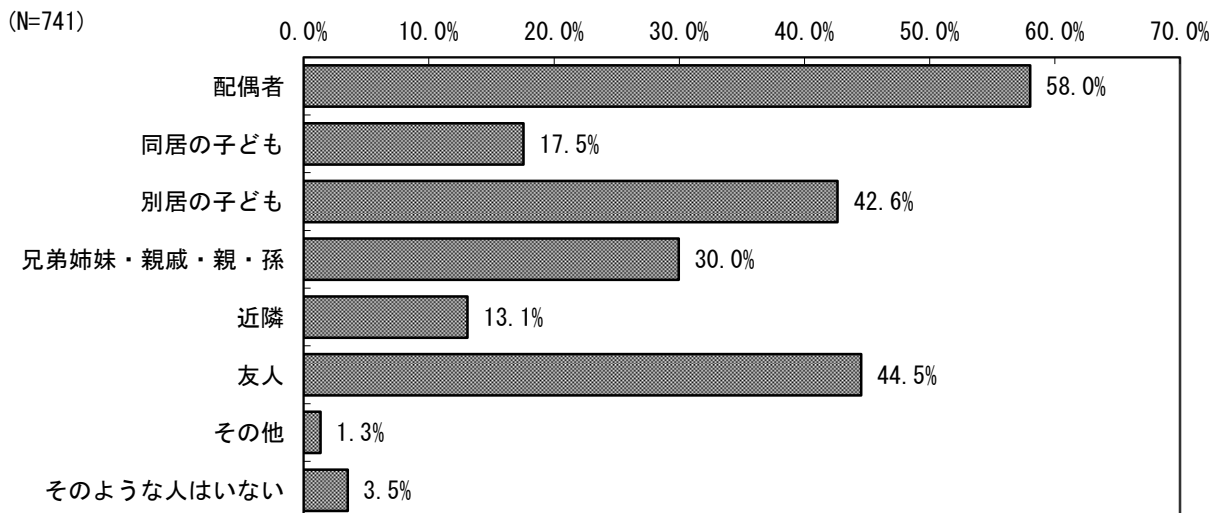


7 たすけあいについて

(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

心配事や愚痴を聞いてくれる人についてみると、「配偶者」(58.0%)が最も多く、次いで「友人」(44.5%)、「別居の子ども」(42.6%)となっています。

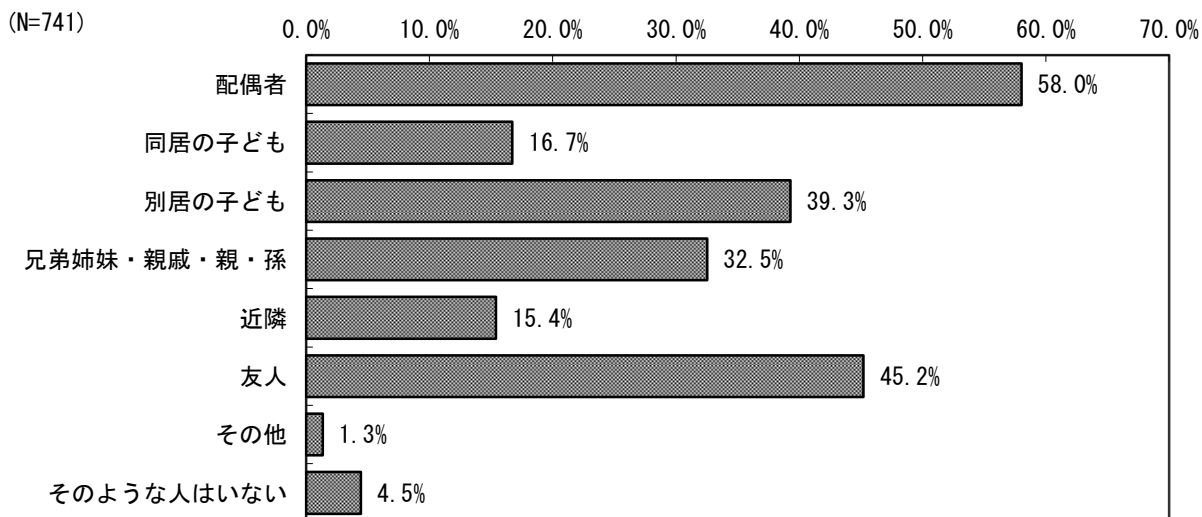
図 心配事や愚痴を聞いてくれる人(複数回答)



(2) 自分が心配事や愚痴を聞いてあげる人

自分が心配事や愚痴を聞いてあげる人についてみると、「配偶者」(58.0%)が最も多く、次いで「友人」(45.2%)、「別居の子ども」(39.3%)となっています。

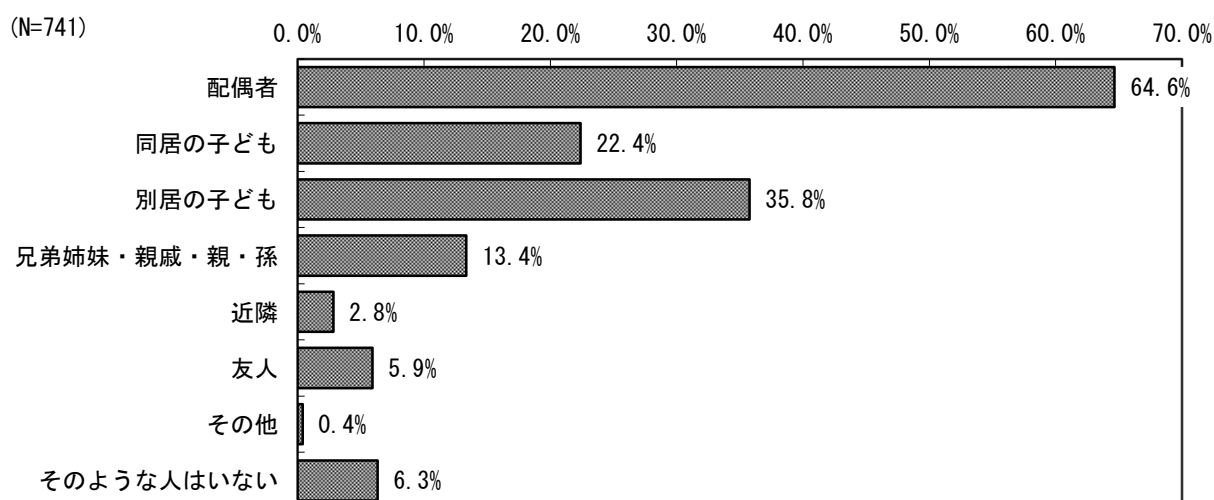
図 自分が心配事や愚痴を聞いてあげる人(複数回答)



(3) 病気の際に看病や世話をしてくれる人

病気の際に看病や世話をしてくれる人についてみると、「配偶者」(64.6%)が最も多く、次いで「別居の子ども」(35.8%)、「同居の子ども」(22.4%)となっています。

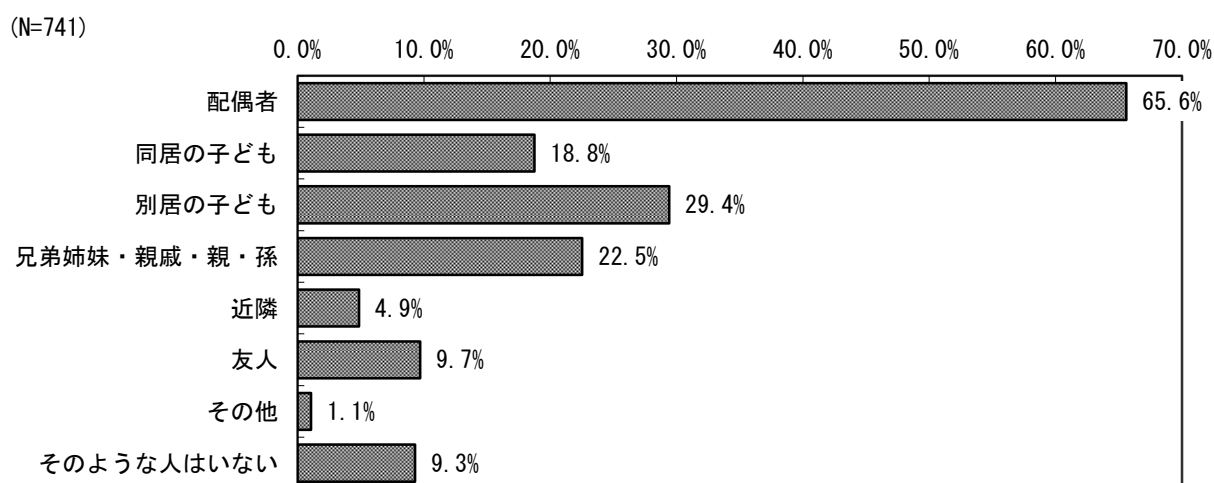
図 病気の際に看病や世話をしてくれる人(複数回答)



(4) 自分が看病や世話をしてあげる人

自分が看病や世話をしてあげる人についてみると、「配偶者」(65.6%)が最も多く、次いで「別居の子ども」(29.4%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(22.5%)となっています。

図 自分が看病や世話をしてあげる人(複数回答)

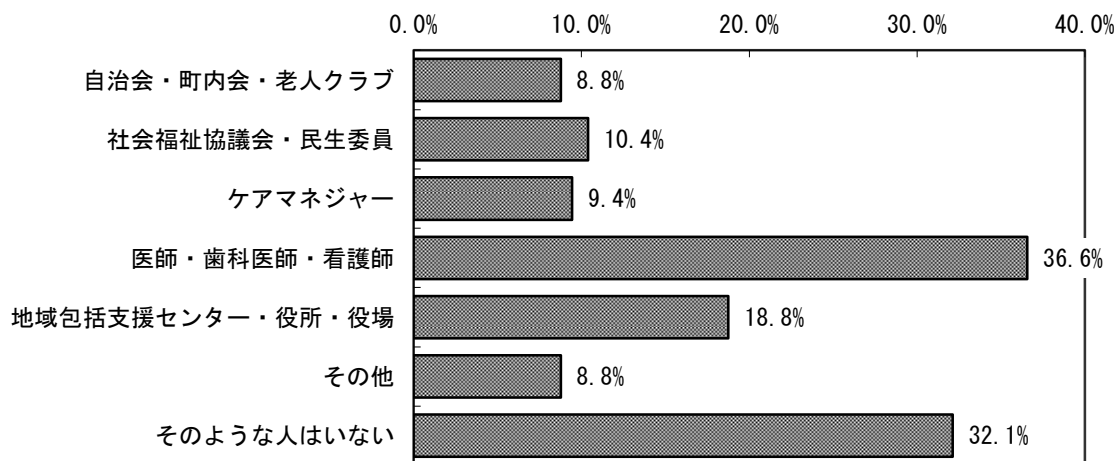


(5) 家族や友人・知人以外の相談相手

家族や友人・知人以外の相談相手についてみると、「医師・歯科医師・看護師」(36.6%)が最も多く、次いで「そのような人はいない」(32.1%)、「地域包括支援センター・役所・役場」(18.8%)となっています。

図 家族や友人・知人以外の相談相手(複数回答)

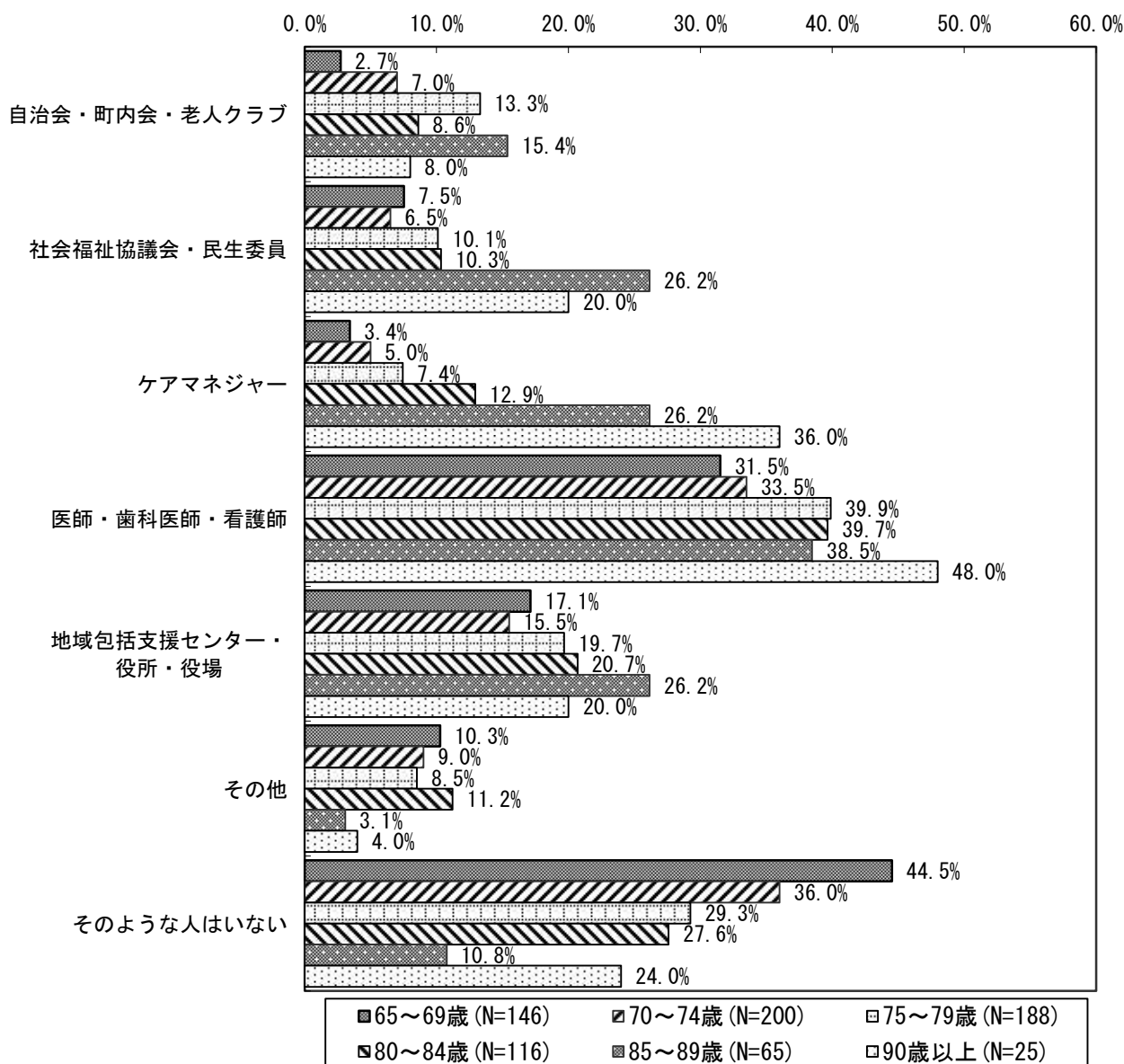
(N=741)



● 年齢別

年齢別にみると、「そのような人はいない」は年齢が低いほど多く、65～69歳では44.5%となっています。一方、「社会福祉協議会・民生委員」や「ケアマネジャー」、「地域包括支援センター・役所・役場」は年齢が上がるにつれて多くなっています。

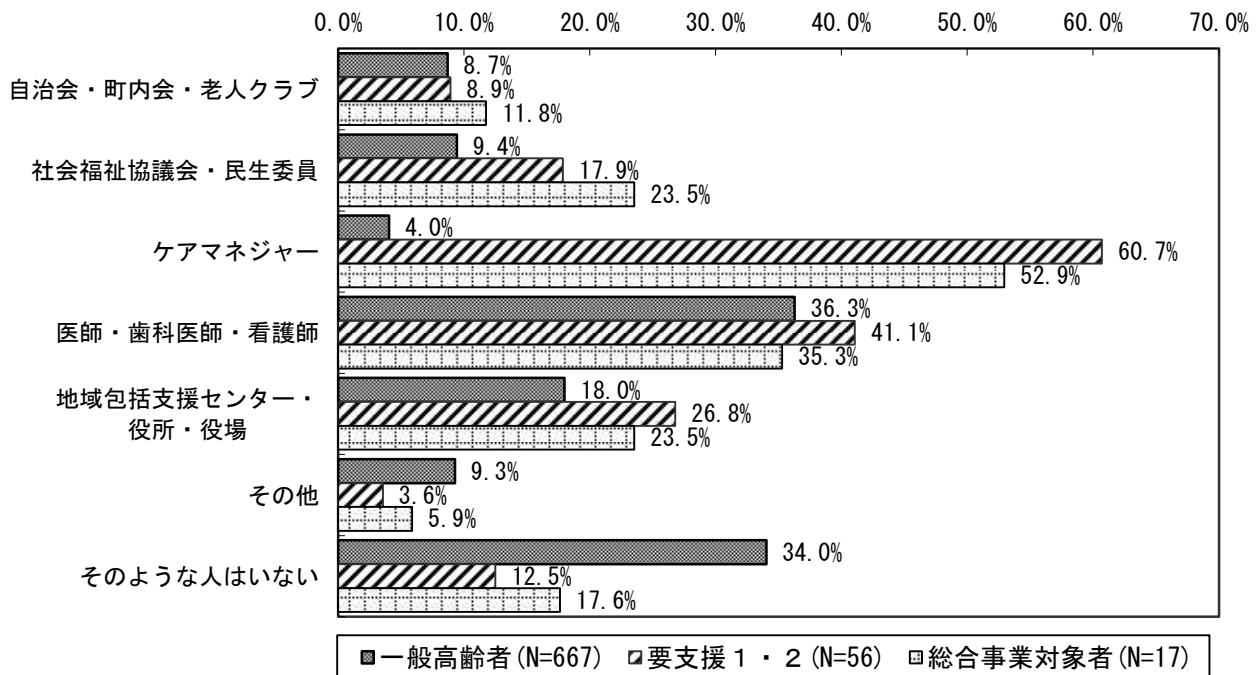
図 年齢別 家族や友人・知人以外の相談相手（複数回答）



● 認定状況別

認定状況別にみると、「そのような人はいない」は一般高齢者が 34.0%となっています。一方、要支援1・2では「ケアマネジャー」が 60.7%となっています。

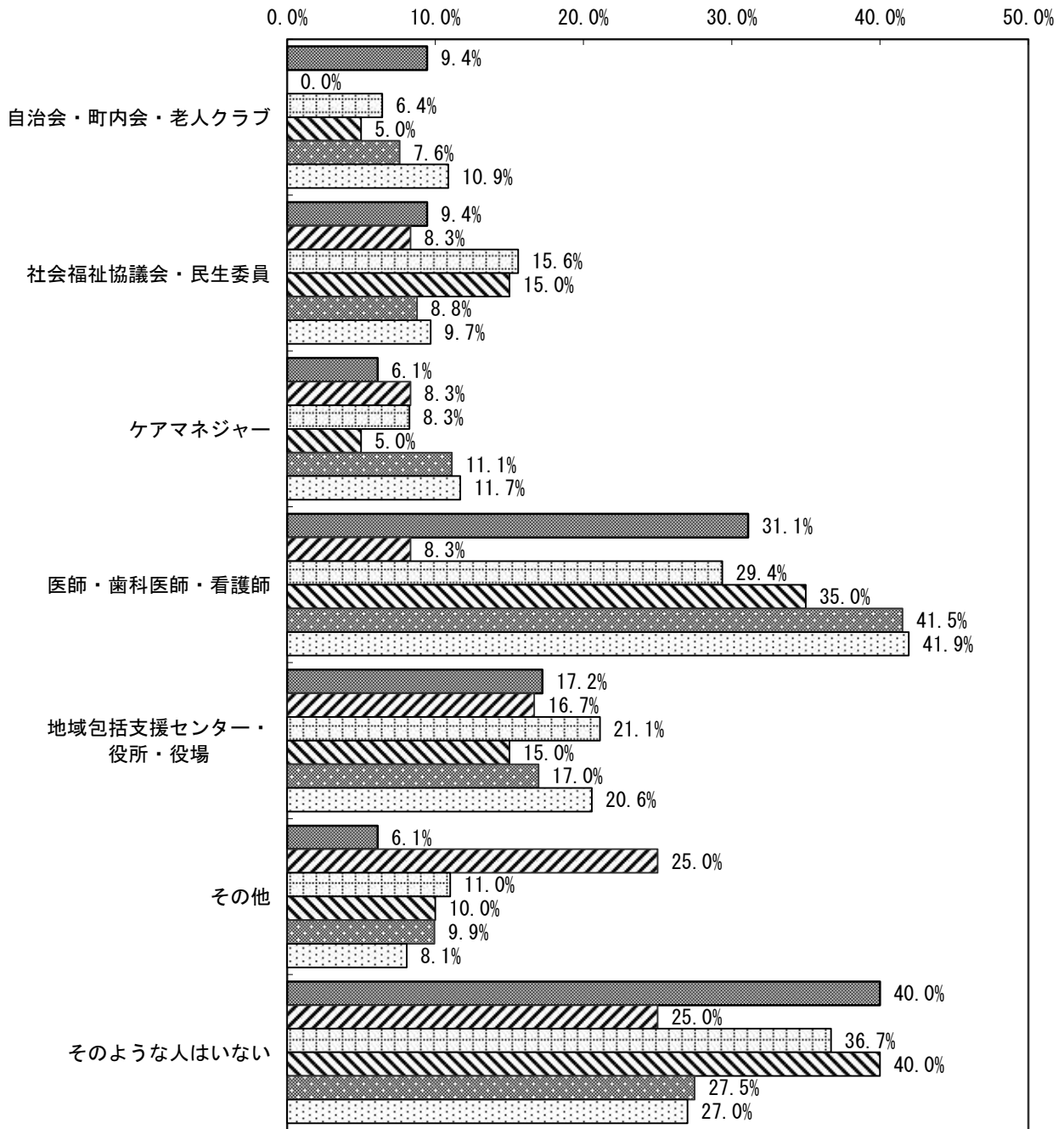
図 認定状況別 家族や友人・知人以外の相談相手（複数回答）



● 居住地域別

居住地域別にみると、「そのような人はいない」は信貴ヶ丘・城山台が40.0%となっています。

図 居住地域別 家族や友人・知人以外の相談相手（複数回答）

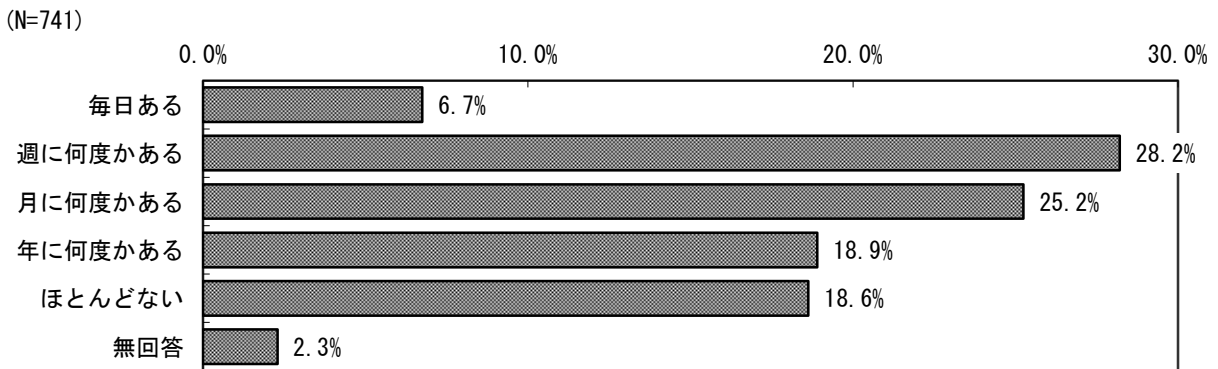


■ 信貴ヶ丘・城山台 (N=180) ▨ 信貴山・信貴南畑 (N=12)
 □ 勢野東・勢野西 (N=109) □ 勢野北 (N=20)
 ▨ 立野南・立野北 (N=171) □ 東信貴ヶ丘・美松ヶ丘・三室・夕陽ヶ丘 (N=248)

(6) 友人・知人と会う頻度

友人・知人と会う頻度についてみると、「週に何度かある」(28.2%)が最も多く、次いで「月に何度かある」(25.2%)、「年に何度かある」(18.9%)となっています。

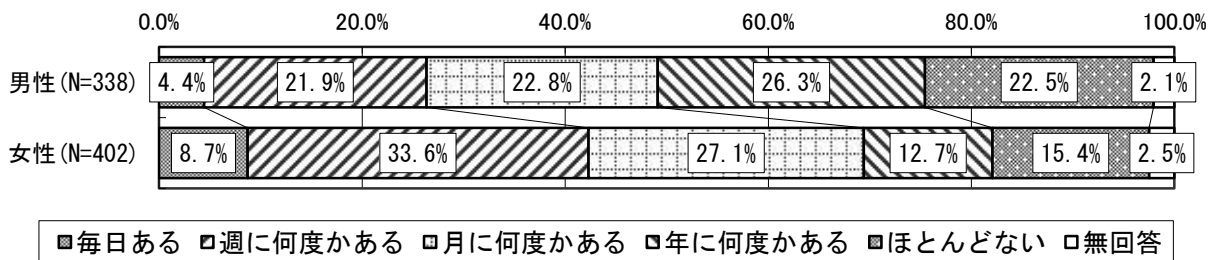
図 友人・知人と会う頻度



● 性別

性別にみると、「ほとんどない」は男性(22.5%)が女性(15.4%)より7.1ポイント多くなっています。

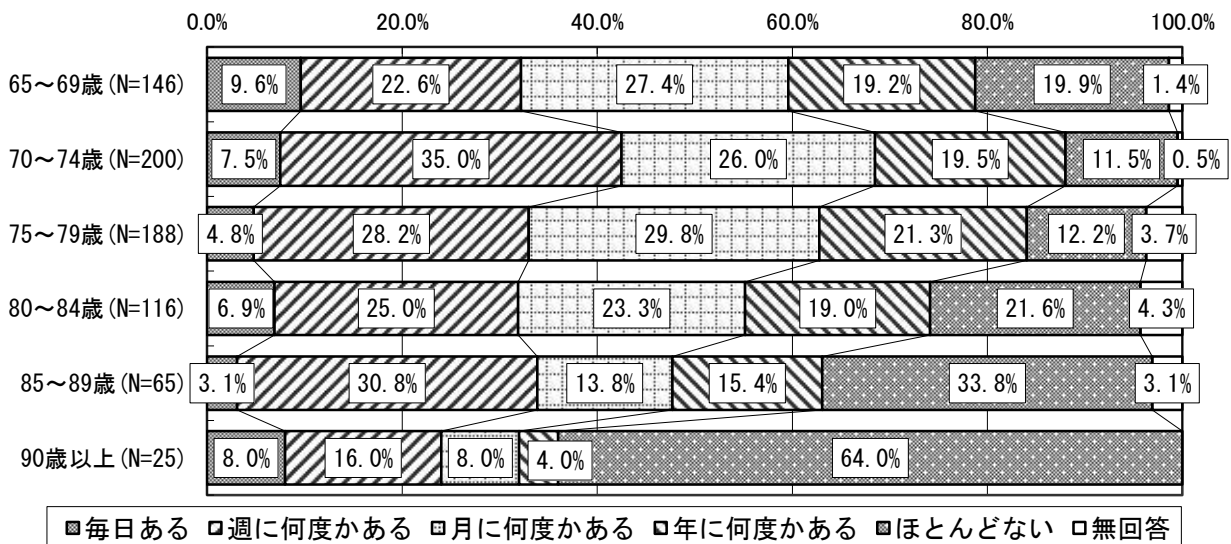
図 性別 友人・知人と会う頻度



● 年齢別

年齢別にみると、「ほとんどない」は80歳以上で多くなっており、85~89歳では33.8%となっています。

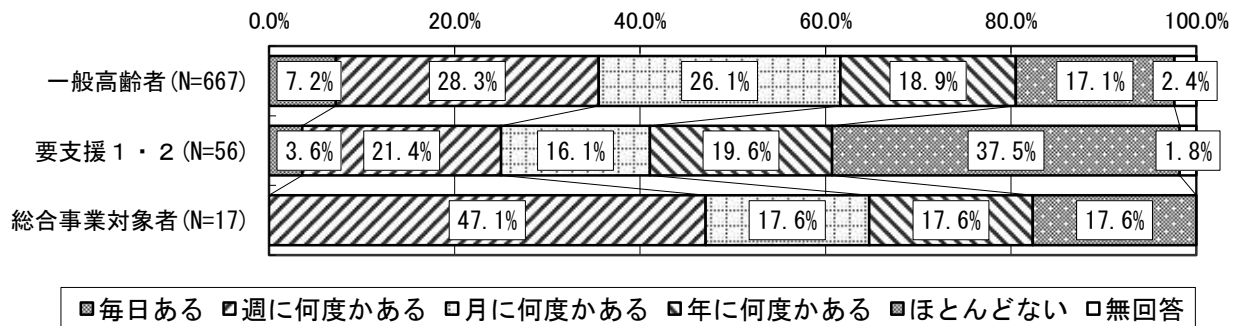
図 年齢別 友人・知人と会う頻度



● 認定状況別

認定状況別にみると、「ほとんどない」は要支援1・2が37.5%となっています。

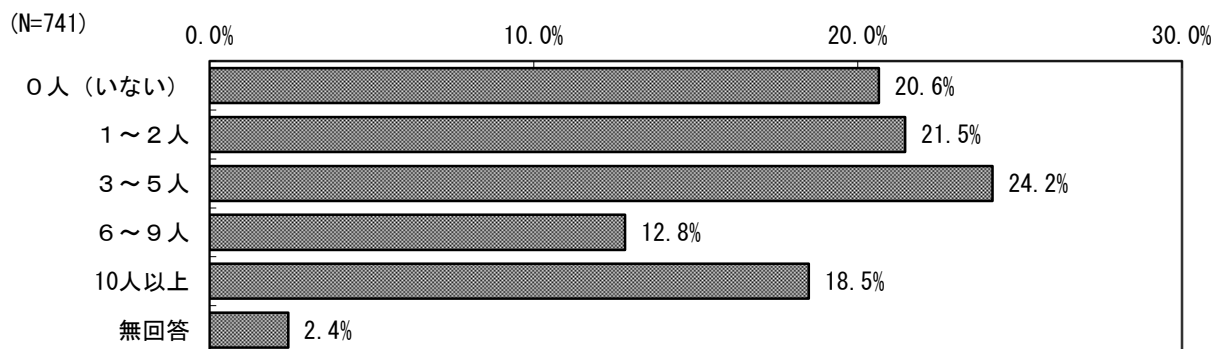
図 認定状況別 友人・知人と会う頻度



(7) 1か月間で会った人数

1か月間で会った人数についてみると、「3～5人」(24.2%)が最も多く、次いで「1～2人」(21.5%)、「0人(いない)」(20.6%)となっています。

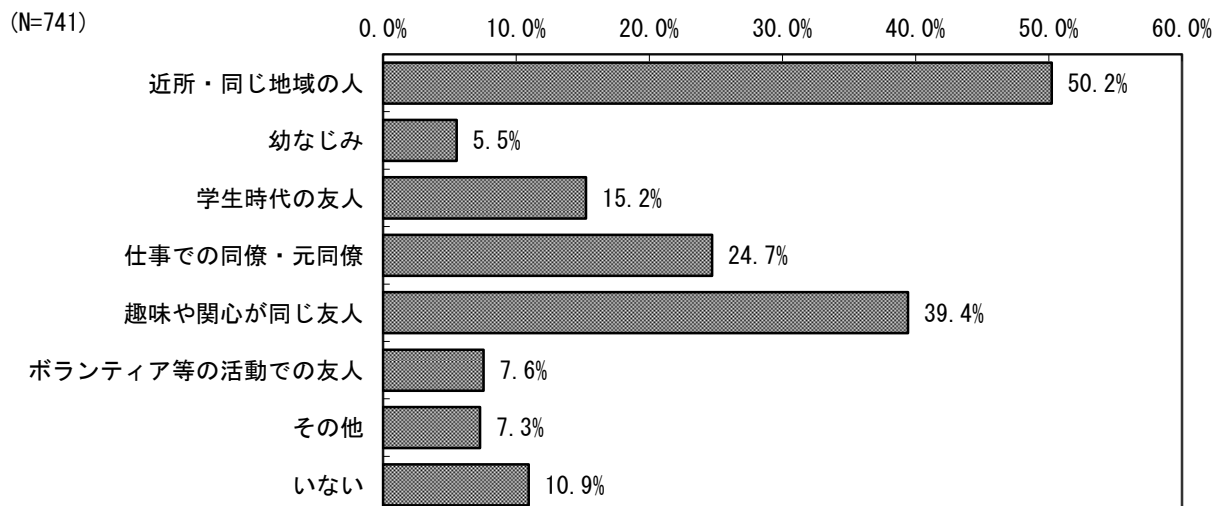
図 1か月間で会った人数



(8) よく会う友人・知人

よく会う友人・知人についてみると、「近所・同じ地域の人」(50.2%)が最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」(39.4%)、「仕事での同僚・元同僚」(24.7%)となっています。

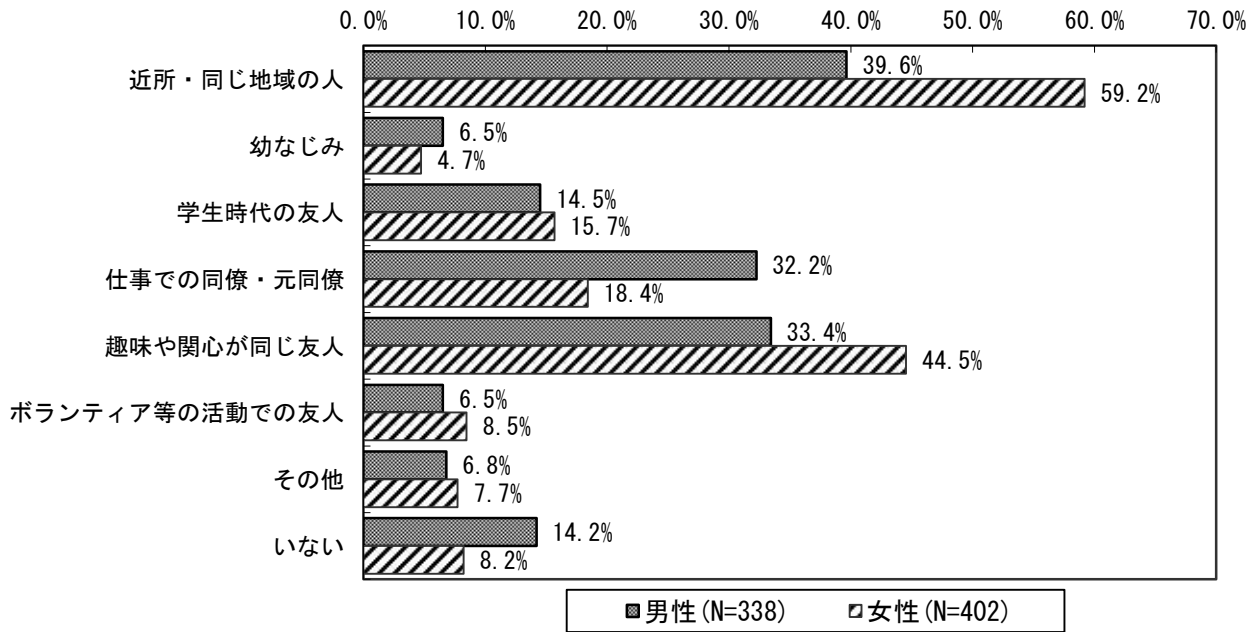
図 よく会う友人・知人(複数回答)



● 性別

性別にみると、「いない」は男性（14.2%）が女性（8.2%）より6ポイント多くなっています。

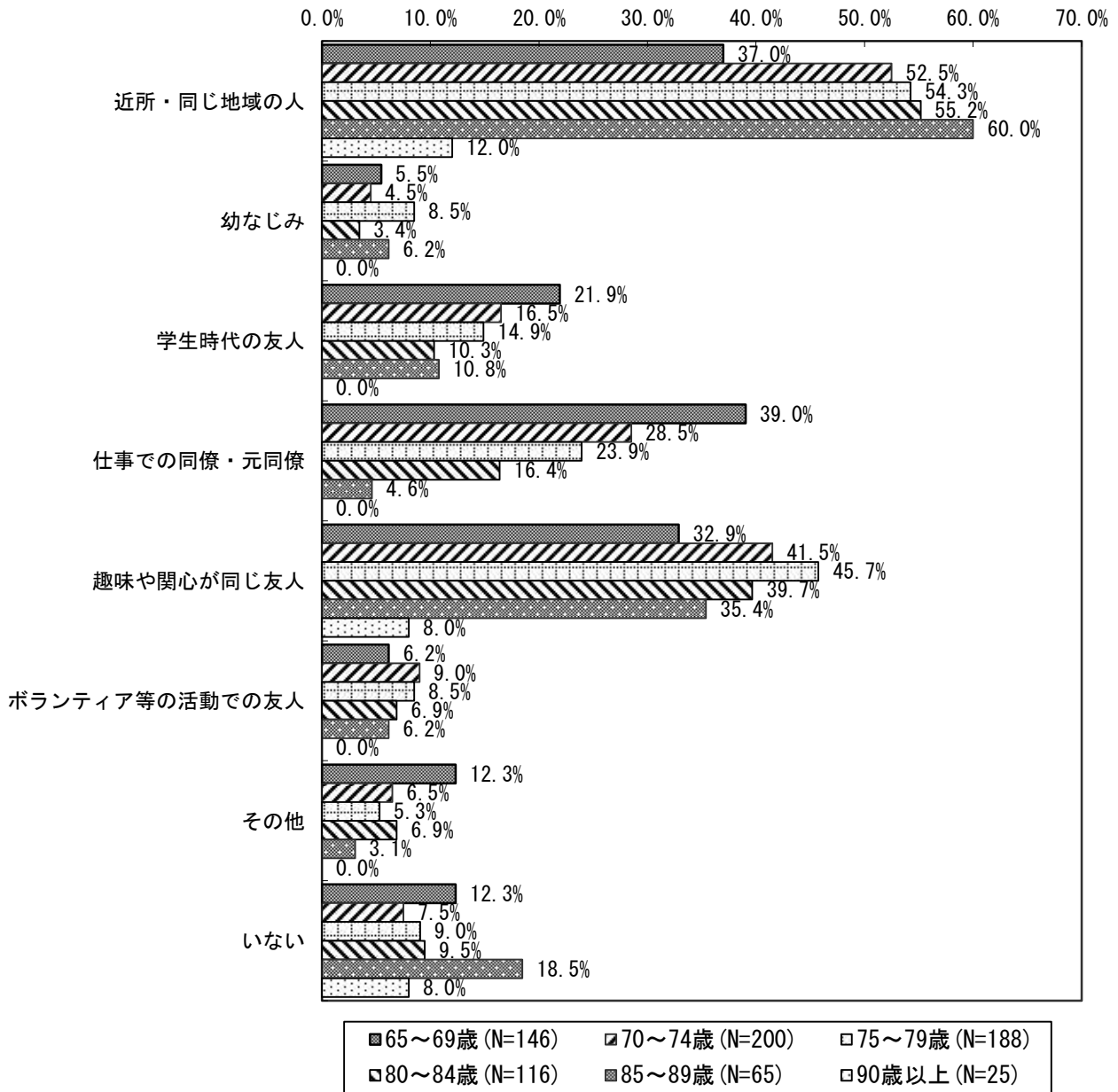
図 性別 よく会う友人・知人（複数回答）



● 年齢別

年齢別にみると、「近所・同じ地域の人」は70歳以上では5割以上となっており、また、年齢が上がるにつれて増加し、85～89歳では60.0%となっています。

図 年齢別 よく会う友人・知人（複数回答）

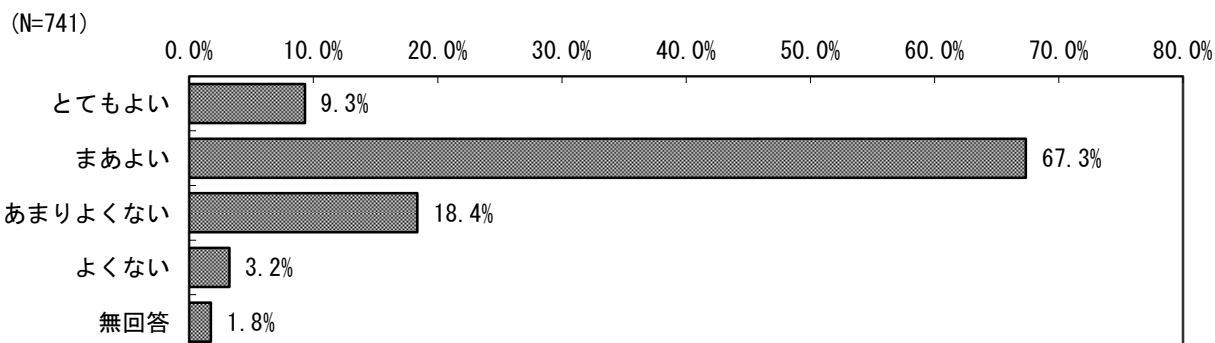


8 健康について

(1) 現在の健康状態

現在の健康状態についてみると、「まあよい」(67.3%)が最も多く、次いで「あまりよくない」(18.4%)、「とてもよい」(9.3%)となっています。現在の健康状態がよい方(「とてもよい」と「あまりよくない」の合計)は76.6%となっています。

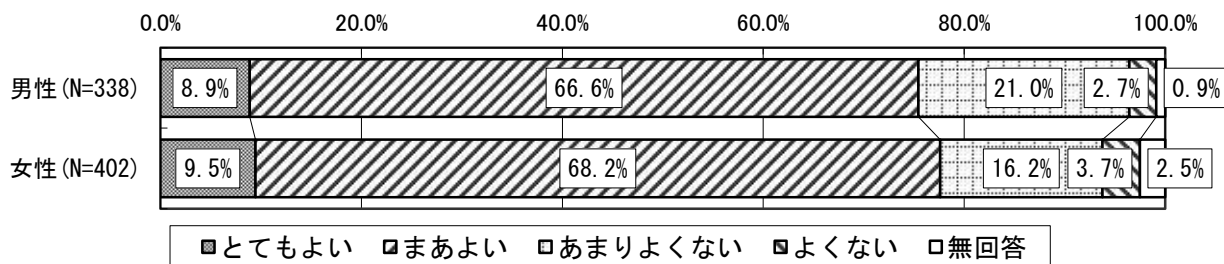
図 現在の健康状態



● 性別

性別にみると、現在の健康状態がよい方は男性が75.5%、女性が77.7%となっており、女性が2.2ポイント多くなっています。

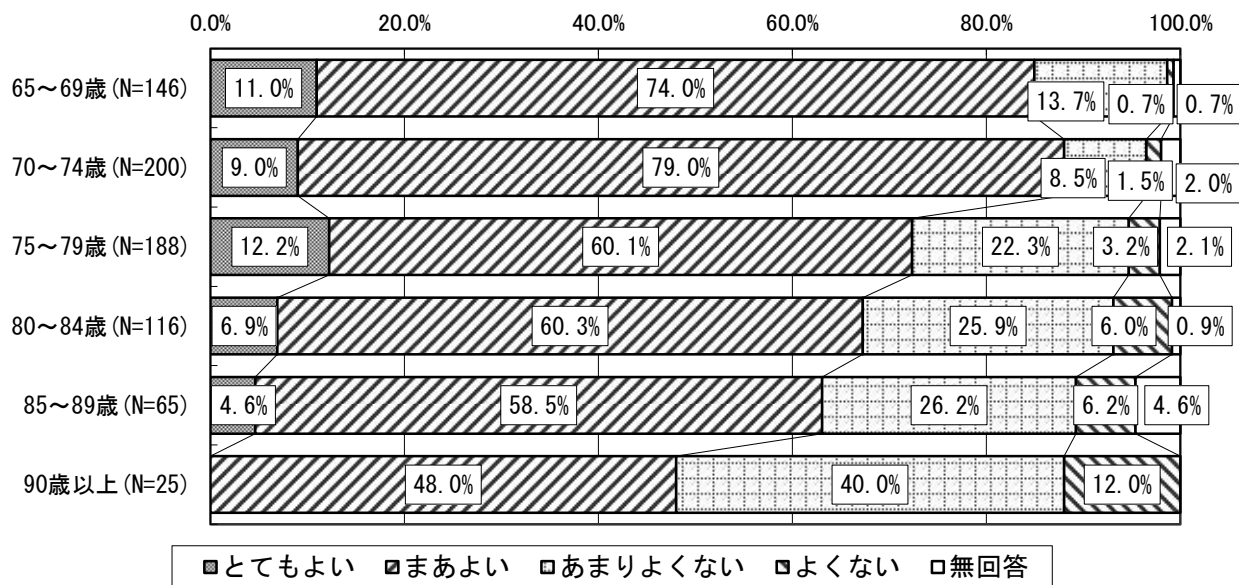
図 性別 現在の健康状態



● 年齢別

年齢別にみると、現在の健康状態がよい方は年齢が低いほど多くなっており、65～69歳が85.0%、70～74歳が88.0%となっています。

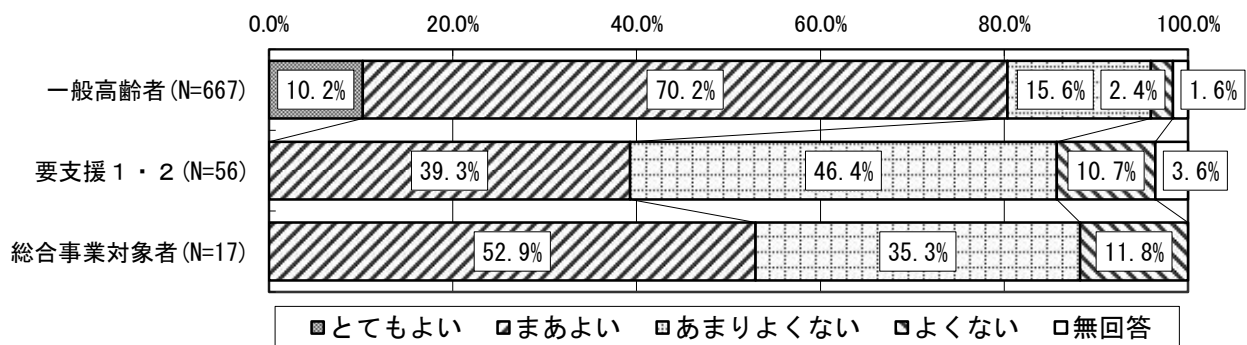
図 年齢別 現在の健康状態



● 認定状況別

認定状況別にみると、現在の健康状態がよい方は一般高齢者が80.4%となっています。

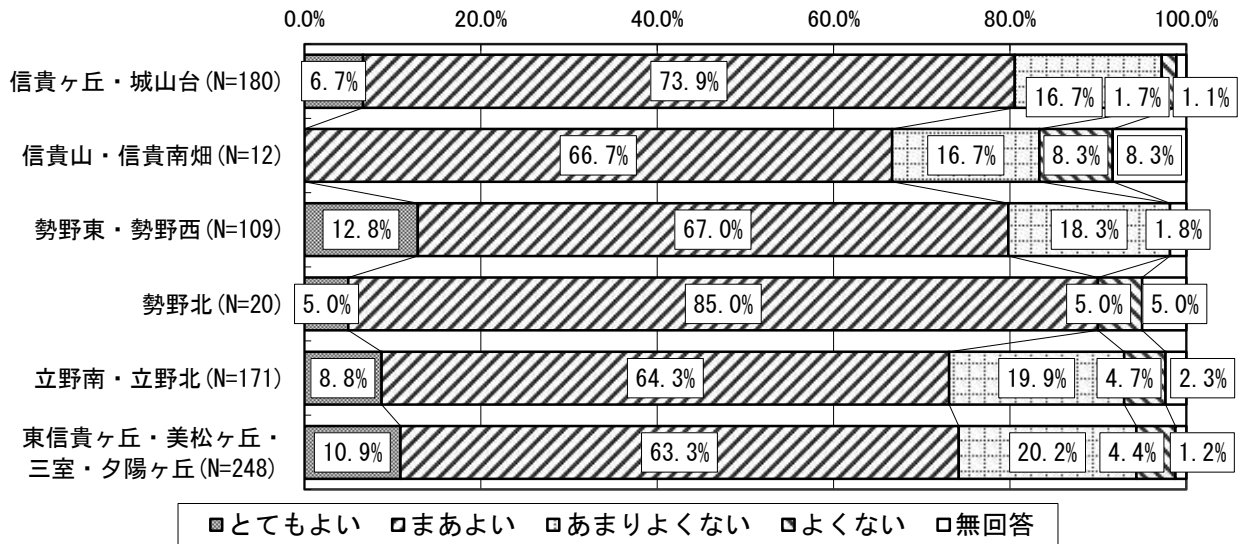
図 認定状況別 現在の健康状態



● 居住地域別

居住地域別にみると、現在の健康状態がよい方は信貴ヶ丘・城山台（80.6%）と勢野東・勢野西（79.8%）では約8割となっています。

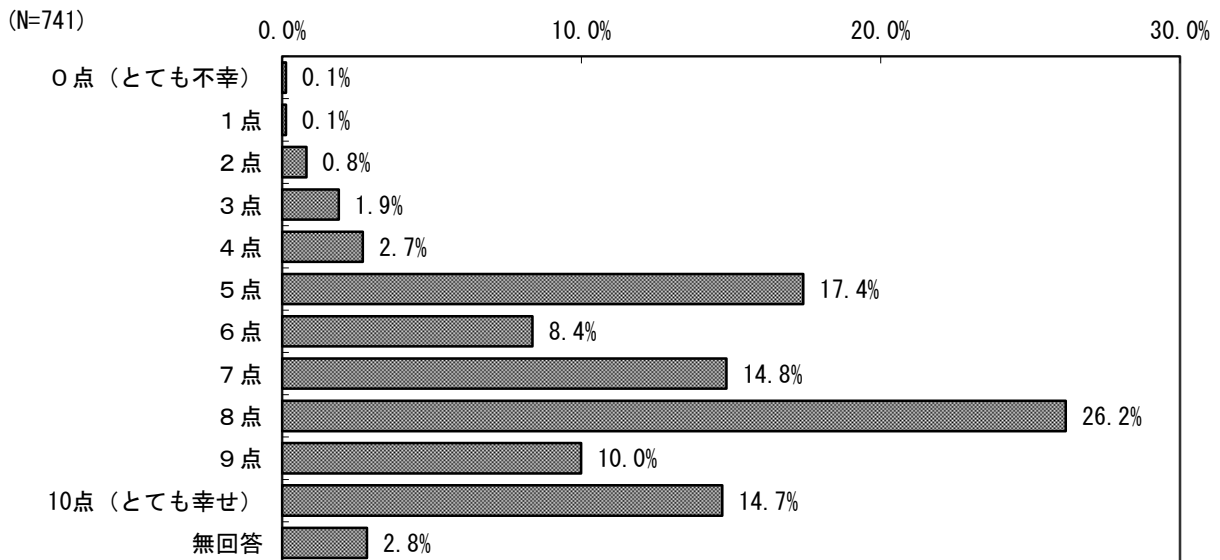
図 居住地域別 現在の健康状態



(2) 現在の幸福度

現在の幸福度についてみると、「8点」（26.2%）が最も多く、次いで「5点」（17.4%）、「7点」（14.8%）となっています。また、8点以上の方が5割以上となっています。

図 現在の幸福度



● 現在の幸福度（平均値）

幸福度の平均値は全体では7.26点となっています。性別では女性（7.46点）が男性（7.02点）より0.44点高く、男性は全体の平均値より0.24点低くなっています。認定状況別では要支援1・2（6.38点）が一般高齢者（7.36点）より0.98点低く、全体の平均値より0.88点低くなっています。居住地域別では、東信貴ヶ丘・美松ヶ丘・三室・夕陽ヶ丘（7.43点）が最も高く、勢野東・勢野西（7.06点）は全体の平均値より低くなっています。

表 現在の幸福度（平均値）

単位：平均値（点）

		件数	平均値
全体		720	7.26
性別	男性	329	7.02
	女性	390	7.46
認定状況	一般高齢者	646	7.36
	要支援1・2	56	6.38
居住地域	信貴ヶ丘・城山台	173	7.22
	信貴山・信貴南畑	11	5.91
	勢野東・勢野西	109	7.06
	勢野北	20	6.90
	立野南・立野北	165	7.33
	東信貴ヶ丘・美松ヶ丘・三室・夕陽ヶ丘	241	7.43

※無回答を除く件数で算出

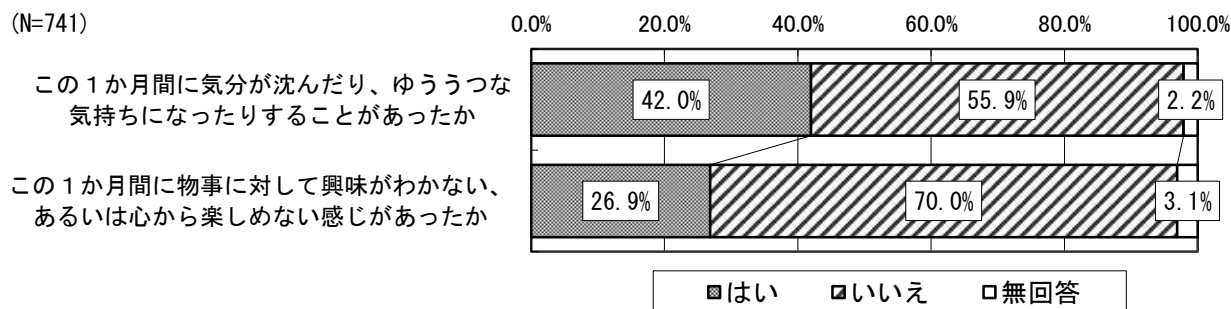
(3) うつ傾向

この1か月間に気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかをみると、「いいえ」が55.9%、「はい」が42.0%となっています。

この1か月間に物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがあったかをみると、「いいえ」が70.0%、「はい」が26.9%となっています。

図 うつ傾向

(N=741)

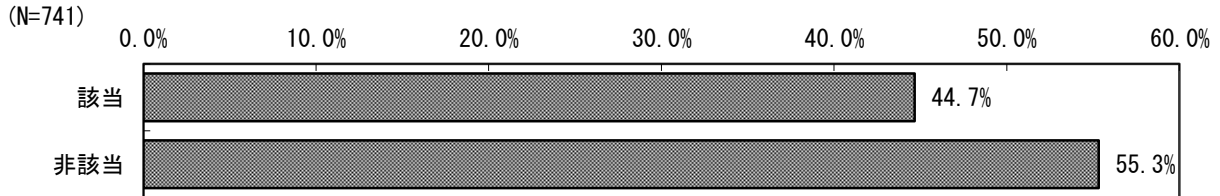


〈うつ傾向〉

・「この1か月に気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか」または「この1か月に物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがあった」かで「はい」と回答した方を、「うつ傾向あり」と判定します。

うつ傾向がある高齢者は44.7%となっています。

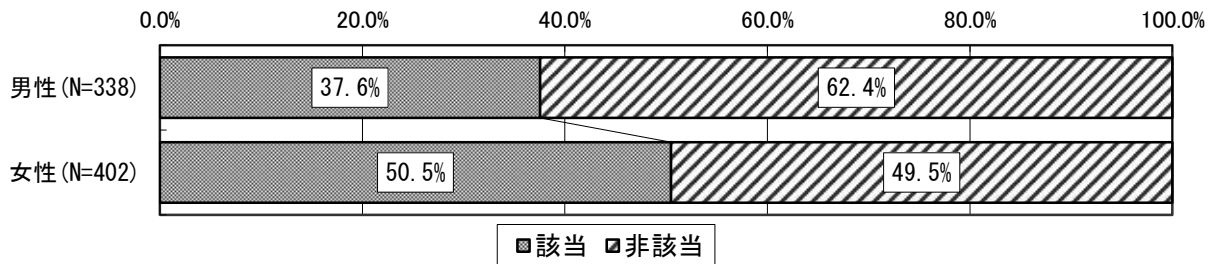
図 うつ傾向



● 性別

性別にみると、うつ傾向がある高齢者は女性（50.5%）が男性（37.6%）より12.9ポイント多くなっています。

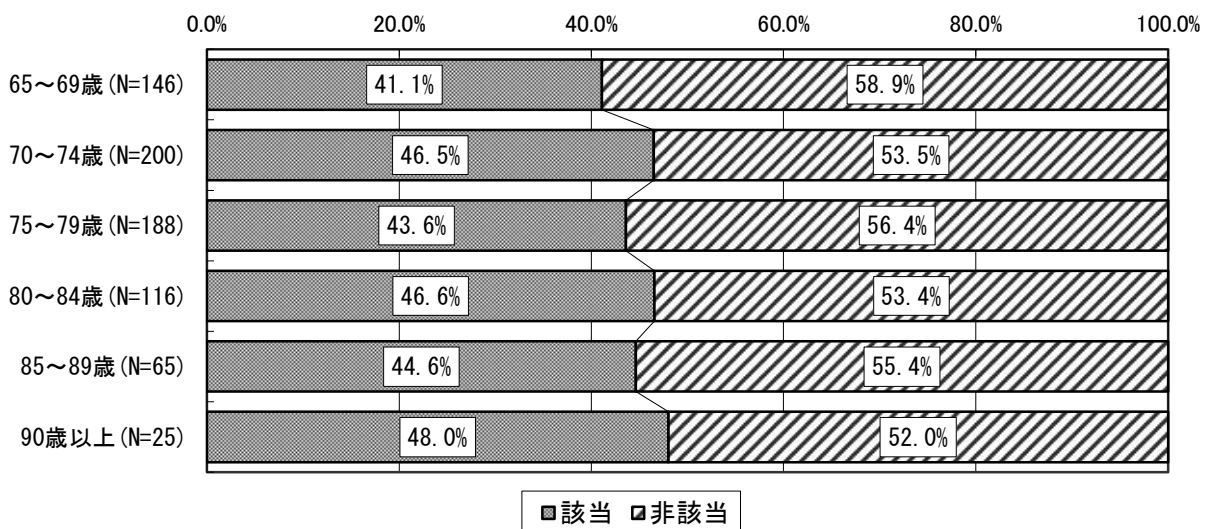
図 性別 うつ傾向



● 年齢別

年齢別にみると、うつ傾向がある高齢者は各年代4割以上となっています。

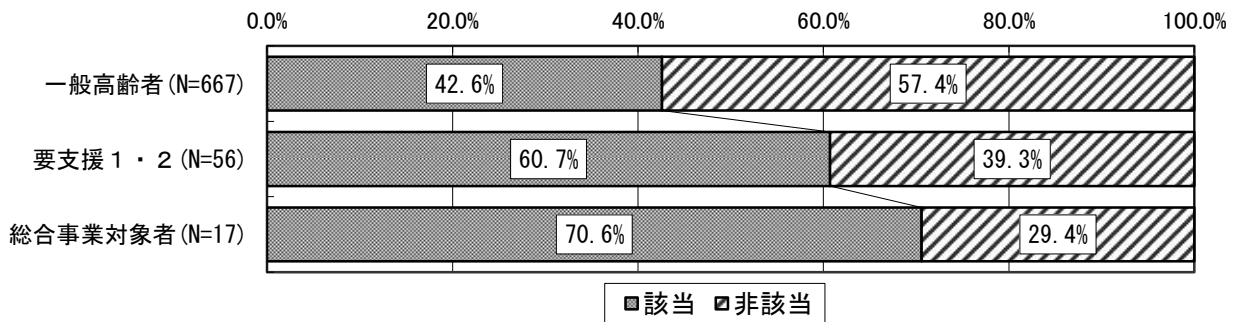
図 年齢別 うつ傾向



● 認定状況別

認定状況別にみると、うつ傾向がある高齢者は要支援1・2が60.7%となっています。

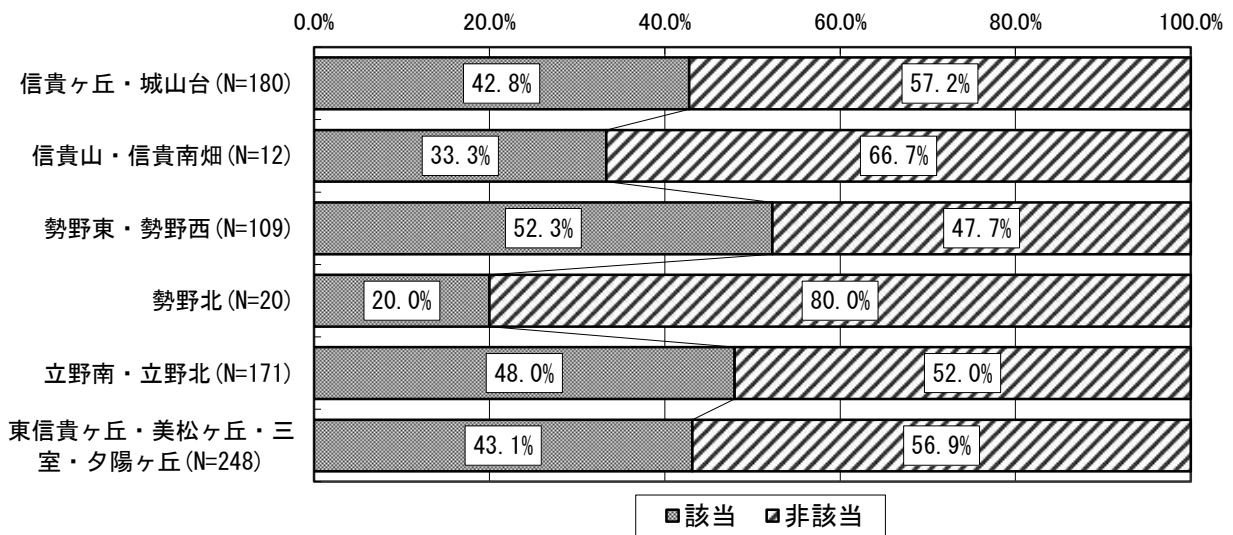
図 認定状況別 うつ傾向



● 居住地域別

居住地域別にみると、うつ傾向がある高齢者は勢野東・勢野西が52.3%となっています。

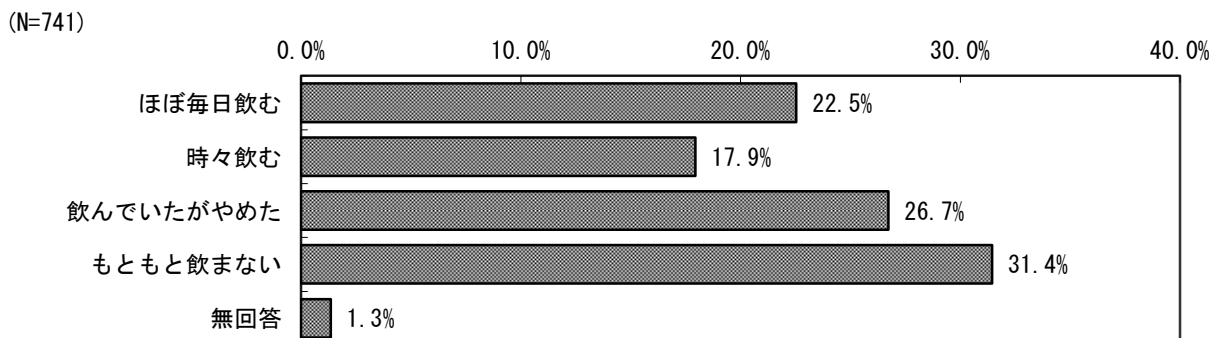
図 居住地域別 うつ傾向



(4) 飲酒の状況

飲酒の状況についてみると、「もともと飲まない」(31.4%)が最も多く、次いで「飲んでいたがやめた」(26.7%)、「ほぼ毎日飲む」(22.5%)となっています。飲酒習慣がある方(「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」の合計)は40.4%となっています。

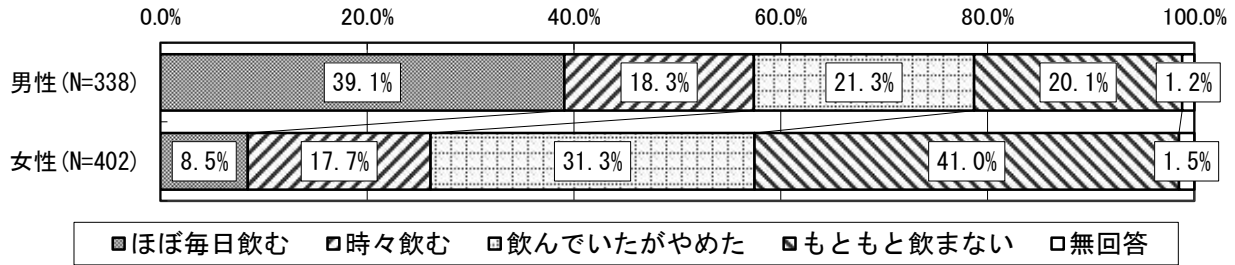
図 飲酒の状況



● 性別

性別にみると、飲酒習慣がある方は男性が 57.4%、女性が 26.2%となっており、男性が女性より 31.2 ポイント多くなっています。

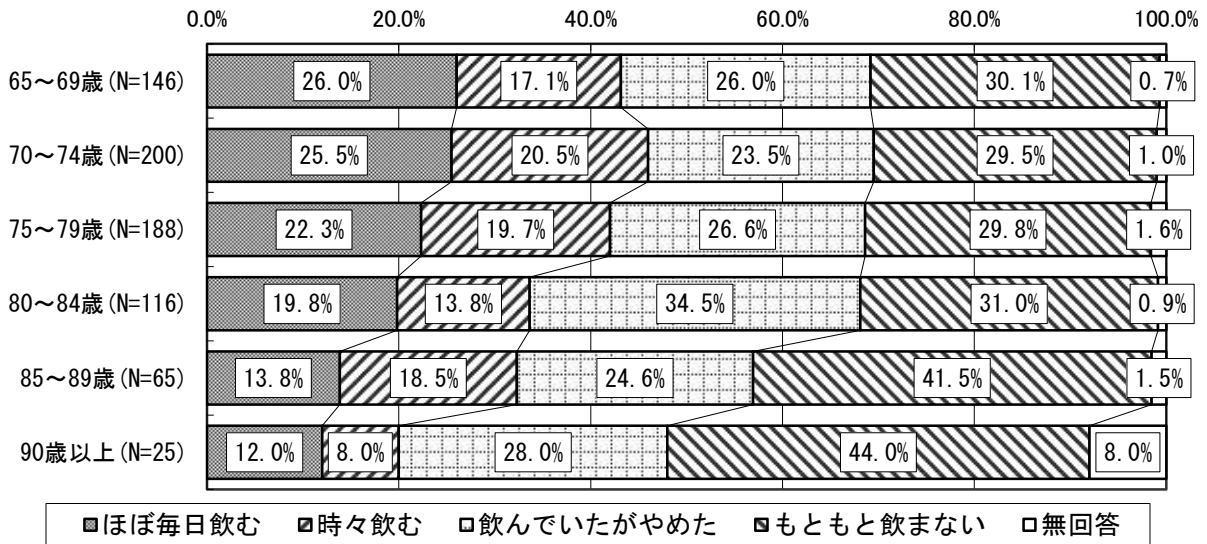
図 性別 飲酒の状況



● 年齢別

年齢別にみると、飲酒習慣がある方は 80 歳未満では 4 割以上となっています。

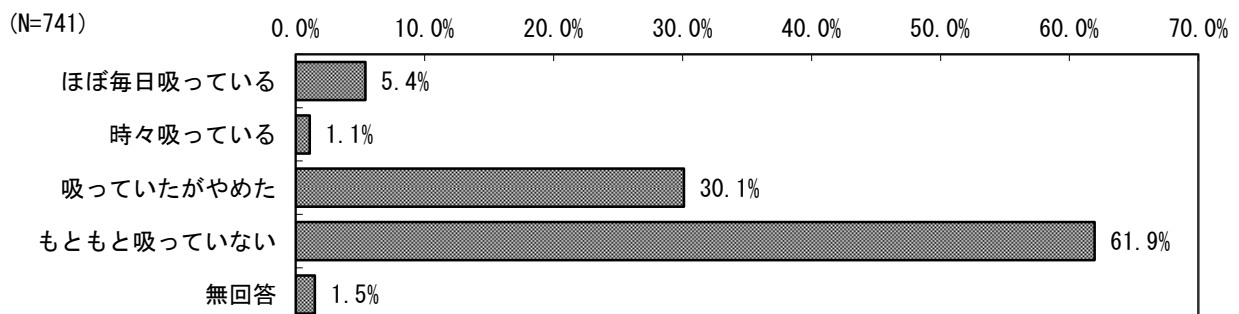
図 年齢別 飲酒の状況



(5) 喫煙の状況

喫煙の状況についてみると、「もともと吸っていない」(61.9%)が最も多く、次いで「吸っていたがやめた」(30.1%)、「ほぼ毎日吸っている」(5.4%)となっています。喫煙習慣がある方(「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」の合計)は6.5%となっています。

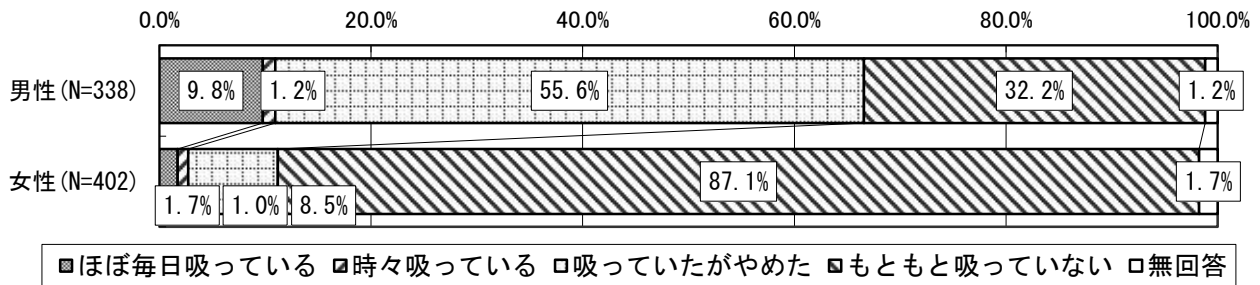
図 喫煙の状況



● 性別

性別にみると、喫煙習慣がある方は男性が 11.0%、女性が 2.7%となっており、男性が女性より 8.3ポイント多くなっています。

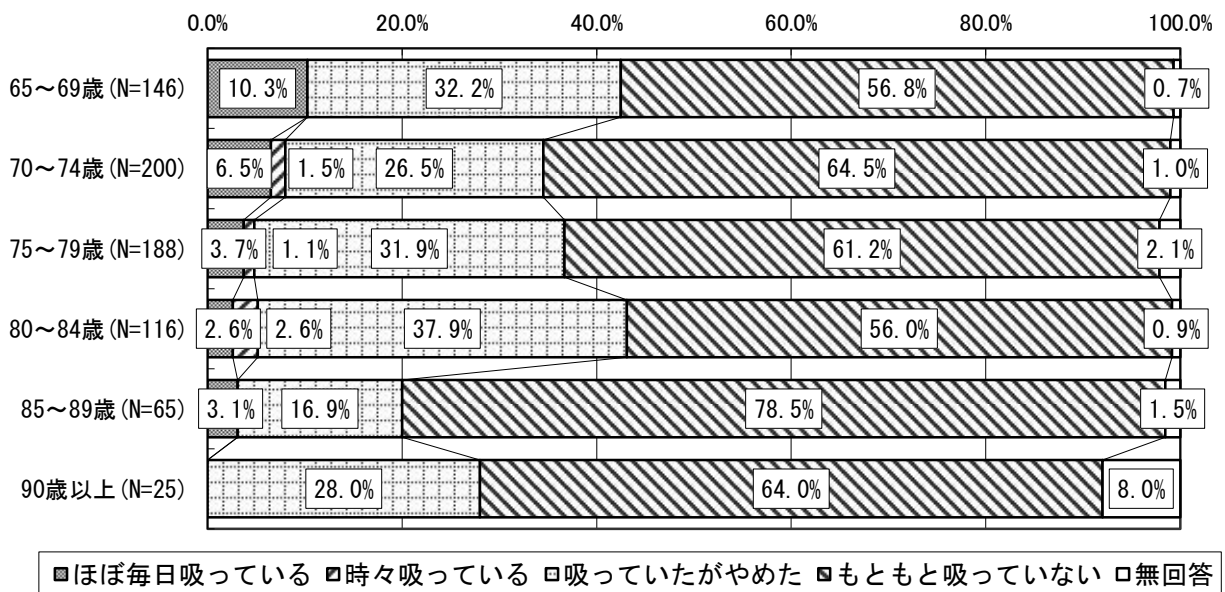
図 性別 喫煙の状況



● 年齢別

年齢別にみると、喫煙習慣がある方は年齢が低いほど多くなっており、65～69 歳では 10.3%となっています。

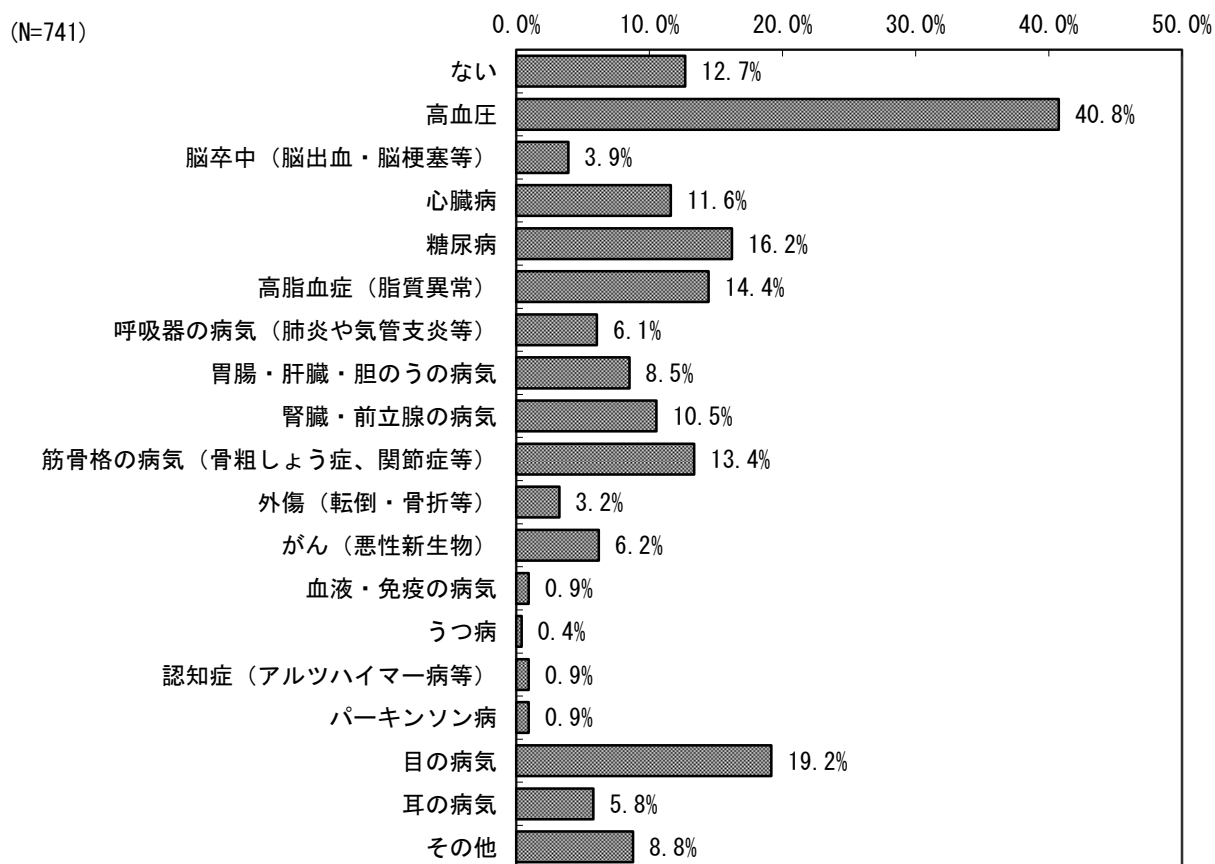
図 年齢別 喫煙の状況



(6) 現在治療中、または後遺症のある病気

現在治療中、または後遺症のある病気についてみると、「高血圧」(40.8%)が最も多く、次いで「目の病気」(19.2%)、「糖尿病」(16.2%)となっています。

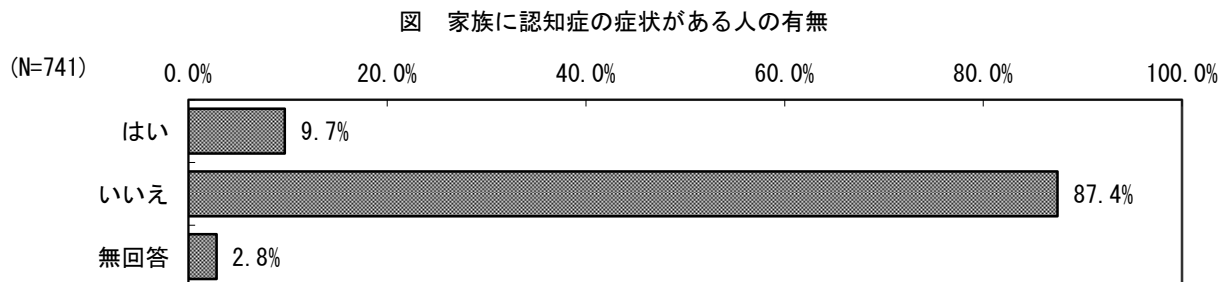
図 現在治療中、または後遺症のある病気(複数回答)



9 認知症にかかる相談窓口等の把握について

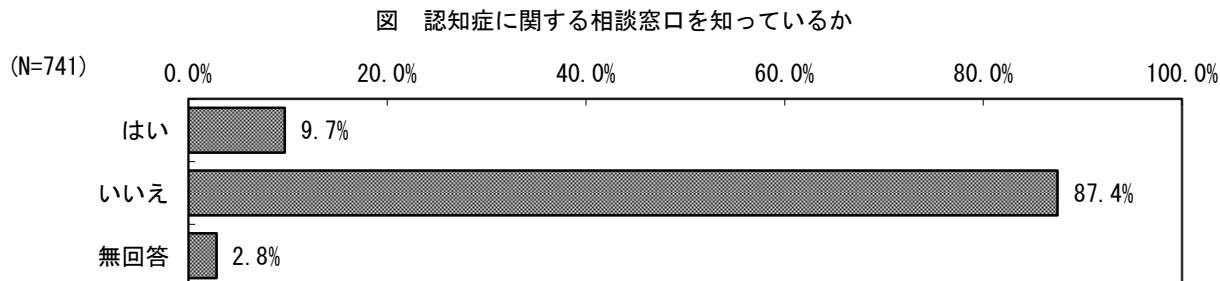
(1) 家族に認知症の症状がある人

家族に認知症の症状がある人の有無についてみると、「いいえ」が87.4%、「はい」が9.7%となっています。



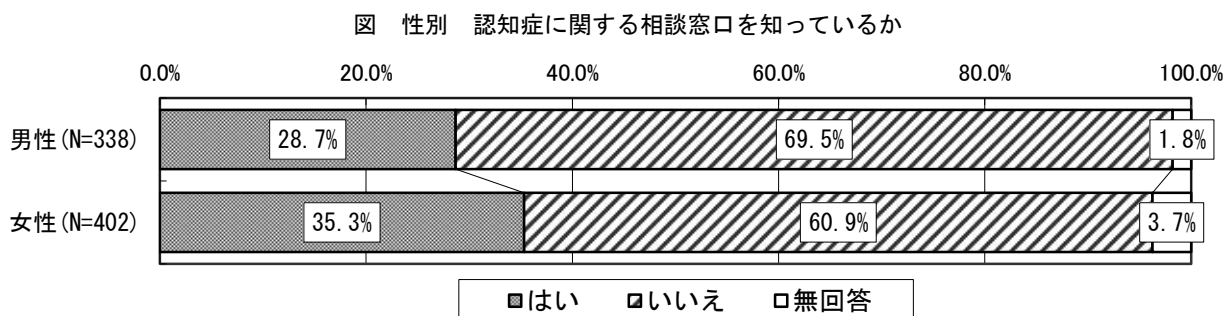
(2) 認知症に関する相談窓口の認知状況

認知症に関する相談窓口を知っているかをみると、「いいえ」が87.4%、「はい」が9.7%となっています。



● 性別

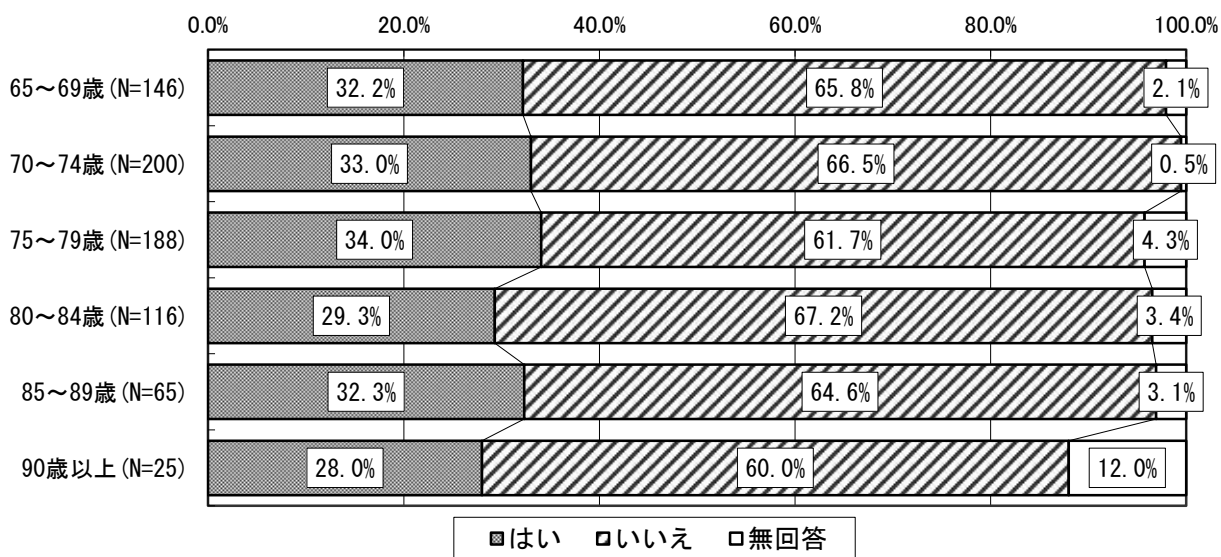
性別にみると、認知症に関する相談窓口を知らない方は男性（69.5%）が女性（60.9%）より8.6ポイント多くなっています。



● 年齢別

年齢別にみると、認知症に関する相談窓口を知らない方は各年代6割以上となっています。

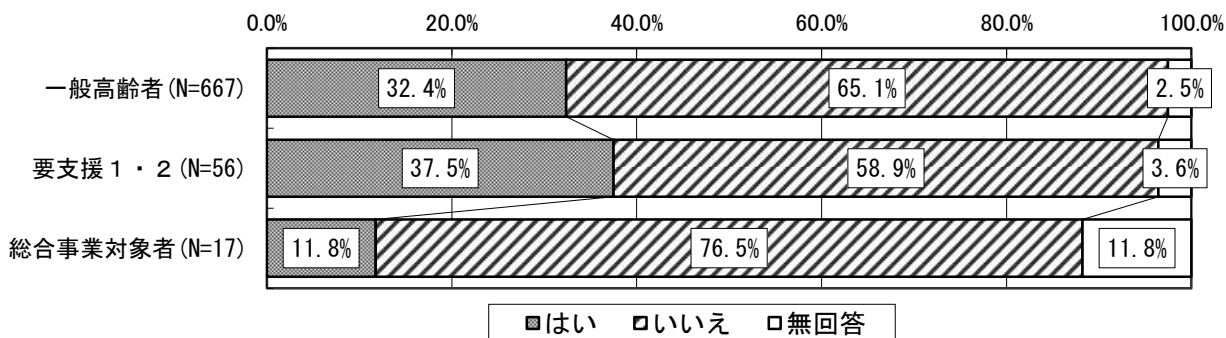
図 年齢別 認知症に関する相談窓口を知っているか



● 認定状況別

認定状況別にみると、認知症に関する相談窓口を知らない方は要支援1・2が58.9%となっています。

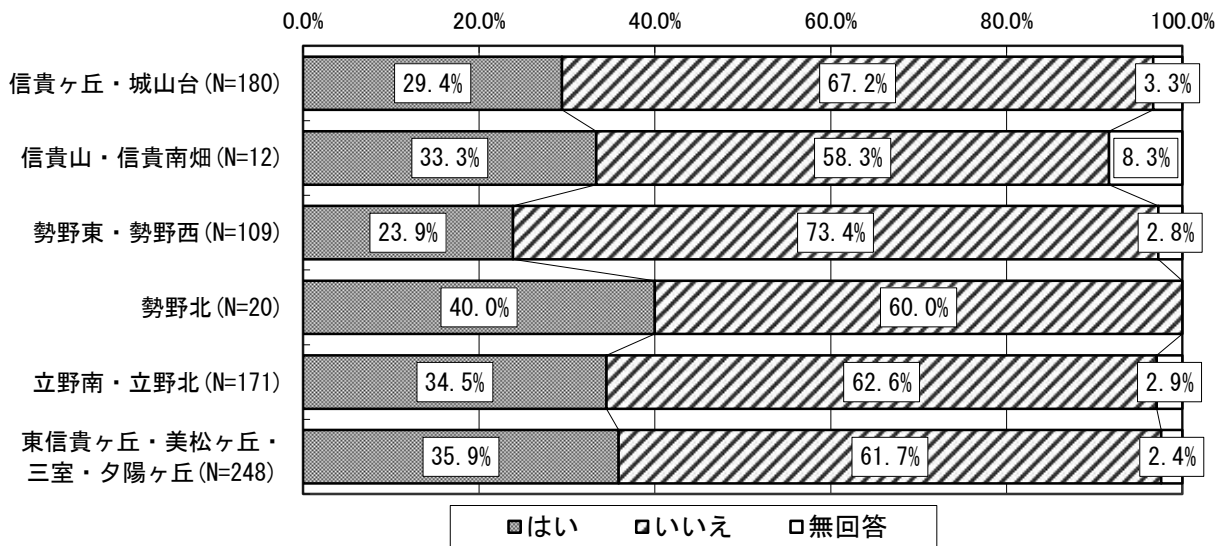
図 認定状況別 認知症に関する相談窓口を知っているか



● 居住地域別

居住地域別にみると、認知症に関する相談窓口を知らない方は、勢野東・勢野西が 73.4% となっています。

図 居住地域別 認知症に関する相談窓口を知っているか

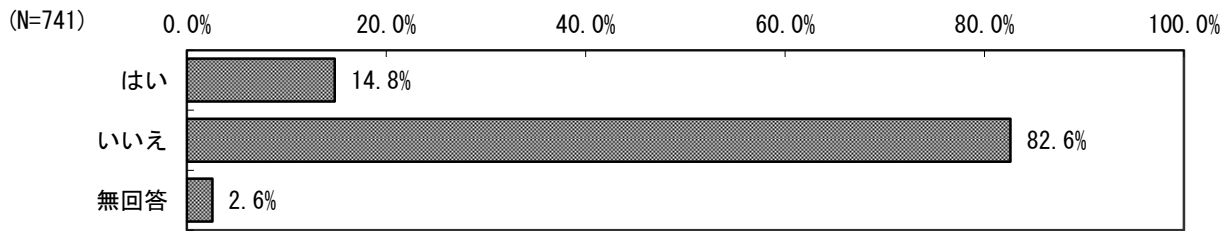


10 その他について

(1) デマンドタクシーの利用

デマンドタクシーの利用についてみると、「いいえ」が82.6%、「はい」が14.8%となっています。

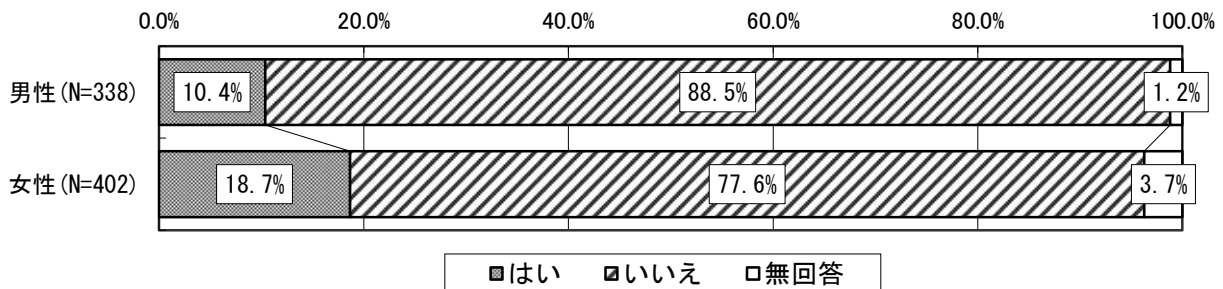
図 デマンドタクシーの利用



● 性別

性別にみると、デマンドタクシーを利用している方は女性（18.7%）が男性（10.4%）より8.3ポイント多くなっています。

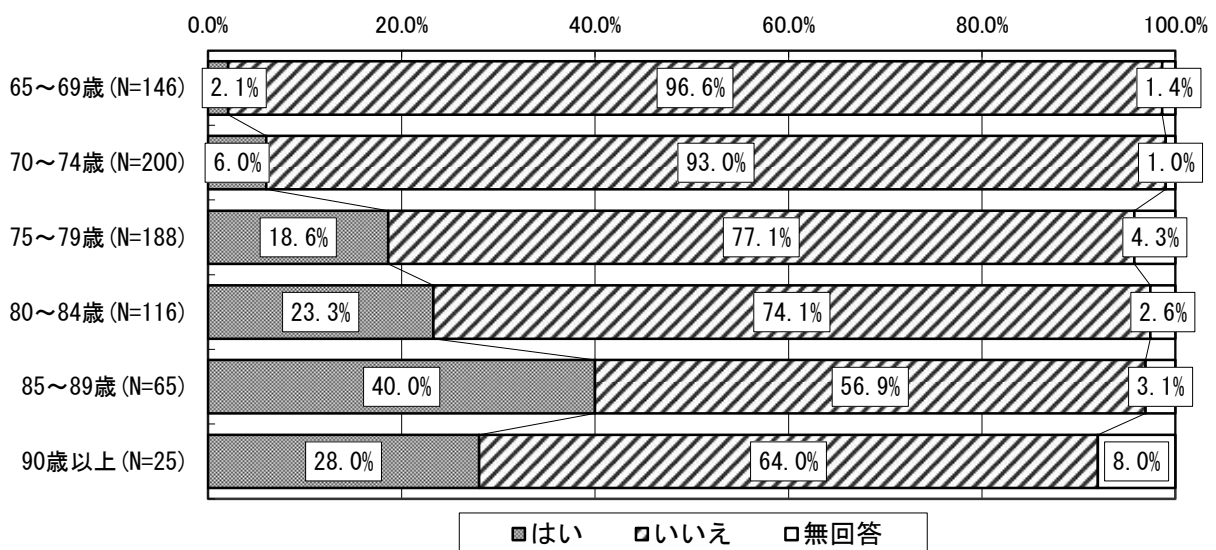
図 性別 デマンドタクシーの利用



● 年齢別

年齢別にみると、デマンドタクシーを利用している方は年齢が上がるにつれて多くなっており、85～89歳では40.0%となっています。

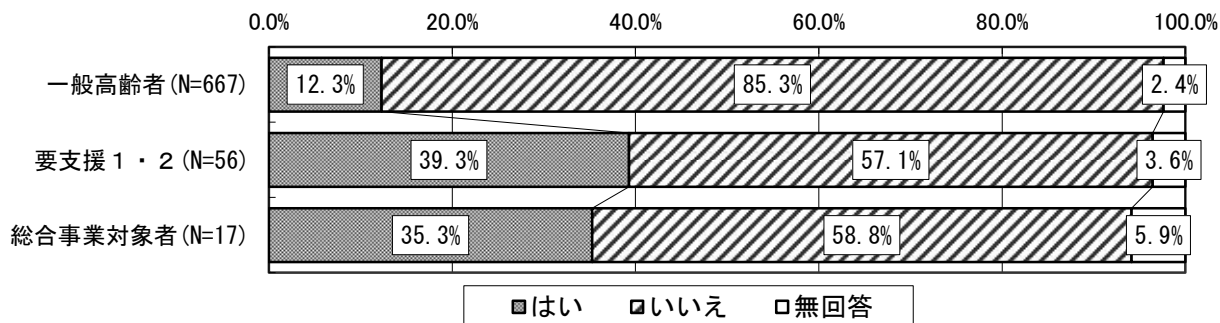
図 年齢別 デマンドタクシーの利用



● 認定状況別

認定状況別にみると、デマンドタクシーを利用している方は要支援1・2で39.3%となっています。

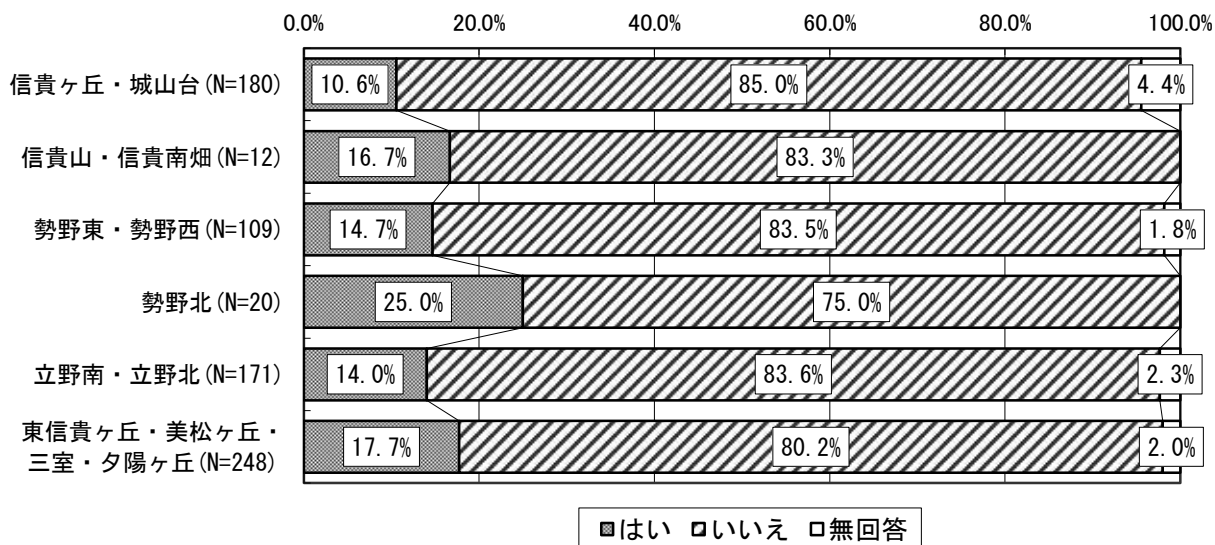
図 認定状況別 デマンドタクシーの利用



● 居住地域別

居住地域別にみると、デマンドタクシーを利用している方は東信貴ヶ丘・美松ヶ丘・三室・夕陽ヶ丘が17.7%、信貴山・信貴南畑が16.7%となっています。

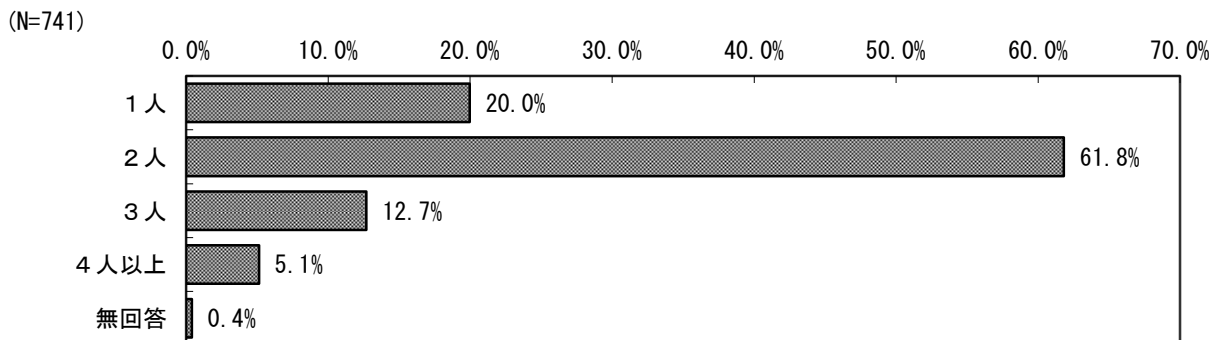
図 居住地域別 デマンドタクシーの利用



(2) 普段の食事の人数

普段の食事の人数についてみると、「2人」(61.8%)が最も多く、次いで「1人」(20.0%)、「3人」(12.7%)となっています。

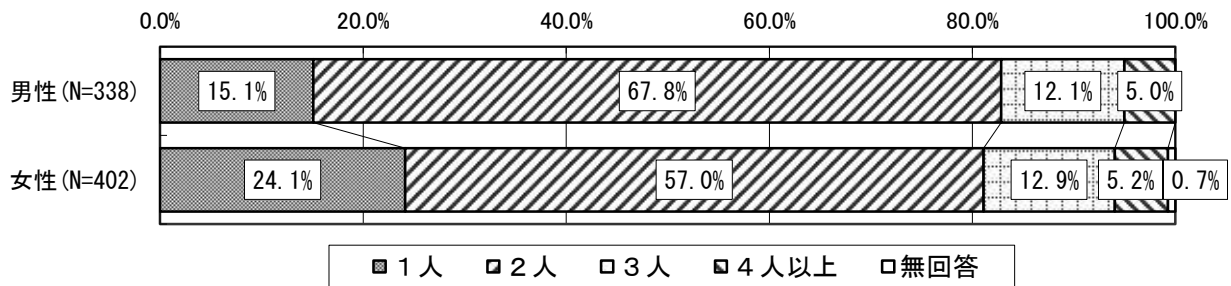
図 普段の食事の人数



● 性別

性別にみると、「1人」は女性（24.1%）が男性（15.1%）より9ポイント多くなっています。

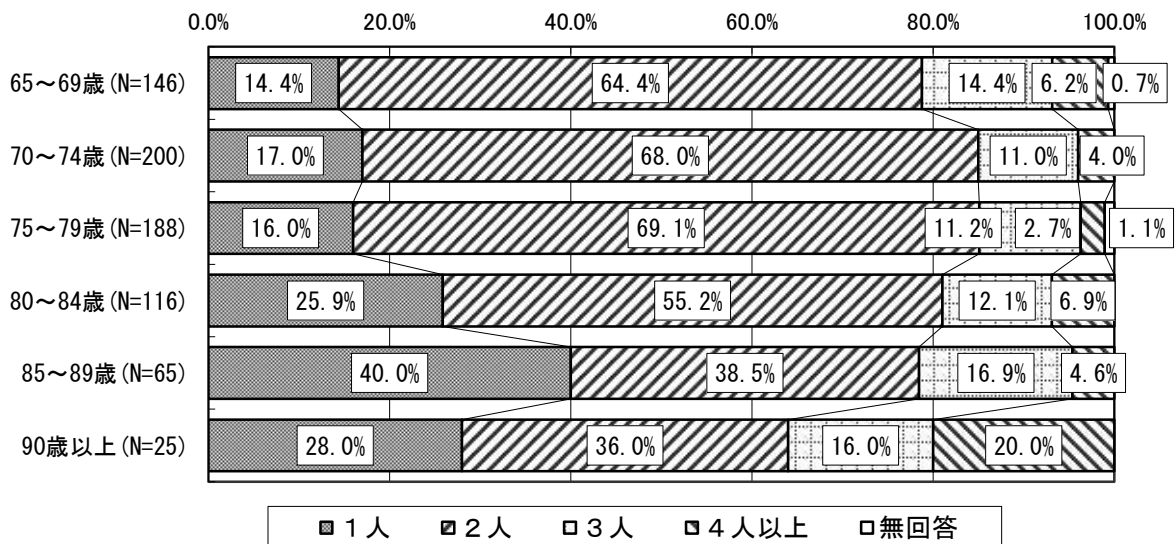
図 性別 普段の食事の人数



● 年齢別

年齢別にみると、「1人」は年齢が上がるにつれて多くなっており、85～89歳では40.0%となっています。

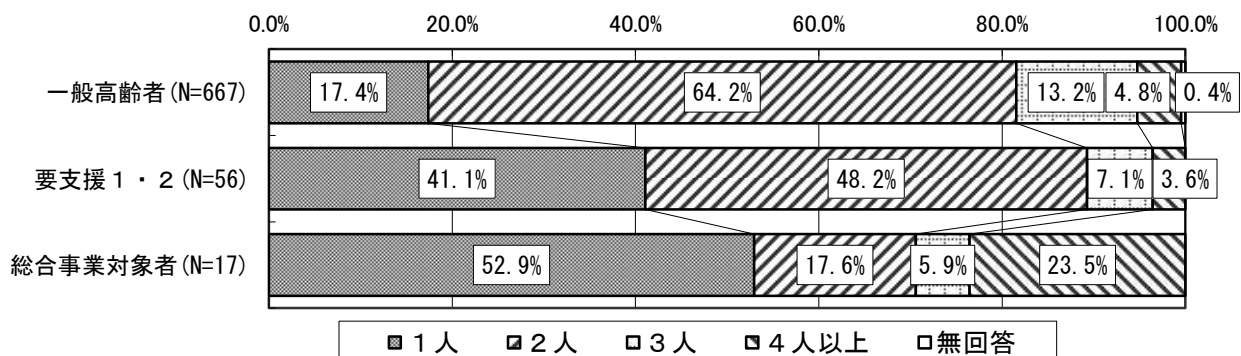
図 年齢別 普段の食事の人数



● 認定状況別

認定状況別にみると、「1人」は要支援1・2が41.1%となっています。

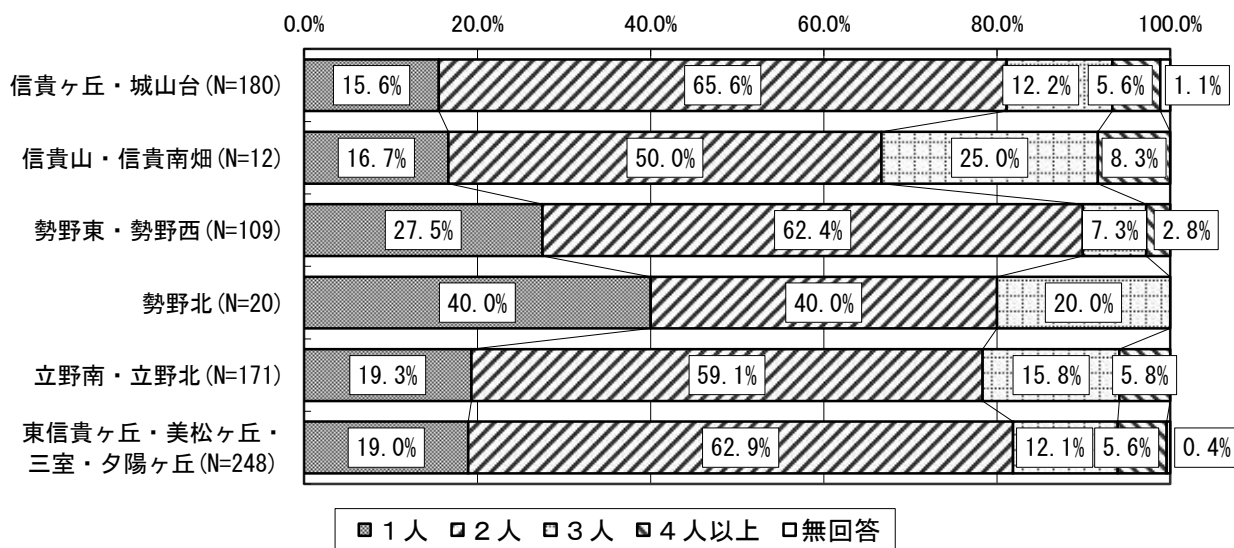
図 認定状況別 普段の食事の人数



● 居住地域別

居住地域別にみると、「1人」は勢野東・勢野西が27.5%となっています。

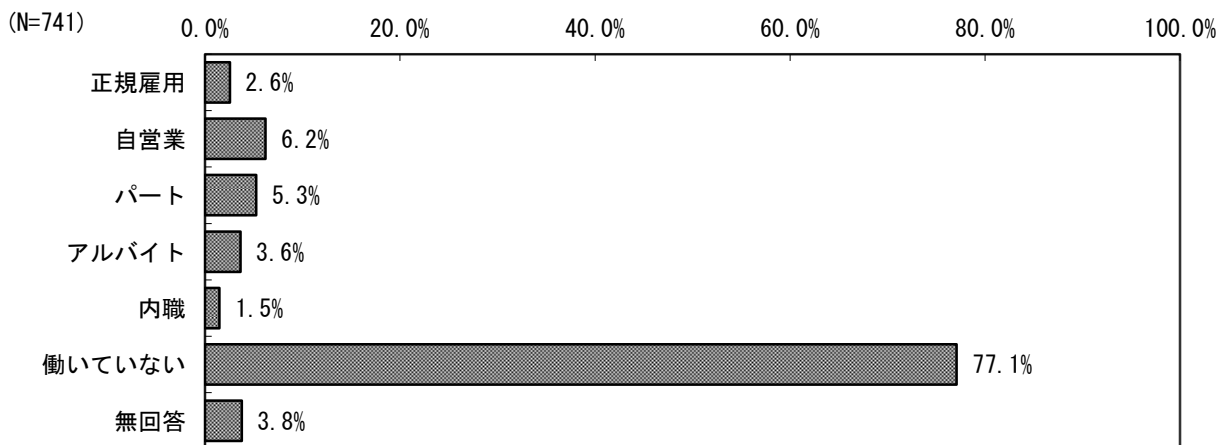
図 居住地域別 普段の食事の人数



(3) 勤務形態

勤務形態についてみると、「働いていない」(77.1%)が最も多く、次いで「自営業」(6.2%)、「パート」(5.3%)となっています。「働いていない」と「無回答」を除くと、現在仕事をしている方は19.2%となっています。

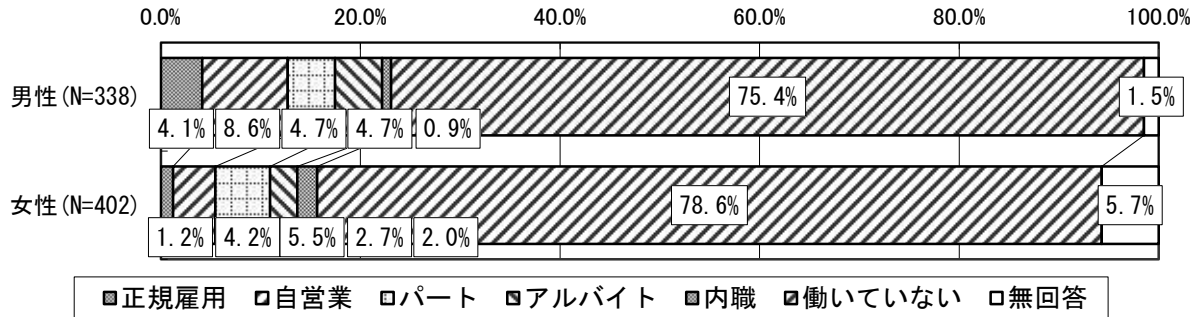
図 勤務形態



● 性別

性別にみると、現在仕事をしている方は男性が 23.1%、女性が 15.6%となっており、男性が女性より 7.5 ポイント多くなっています。

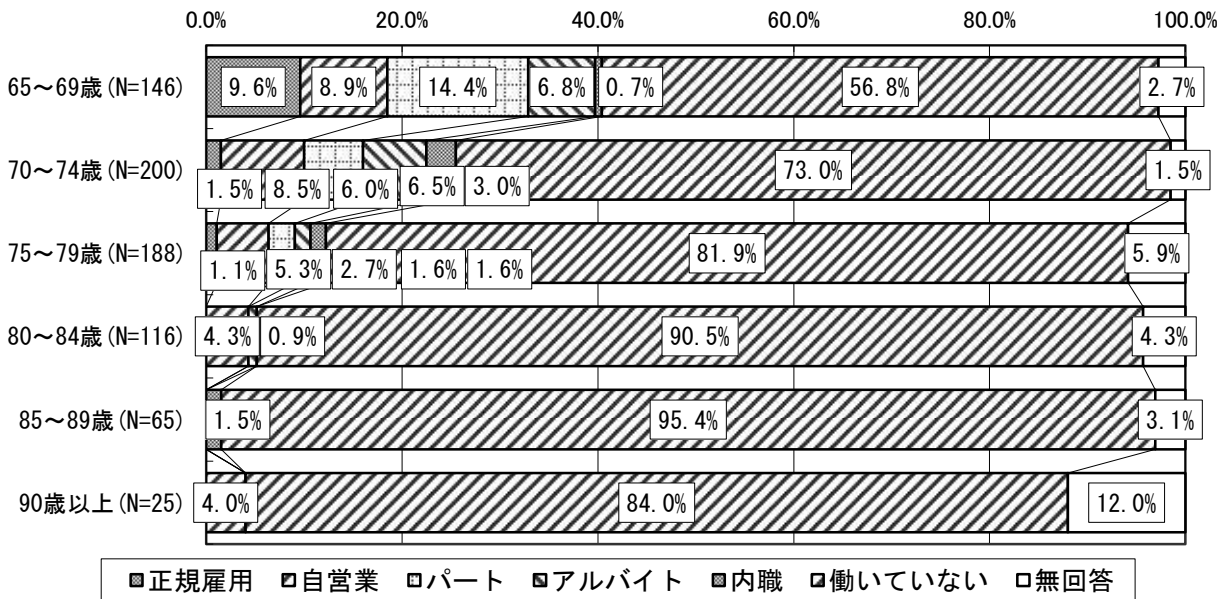
図 勤務形態



● 年齢

年齢別にみると、現在仕事をしている方は年齢が低いほど多くなっており、65～69 歳では 40.4%となっています。

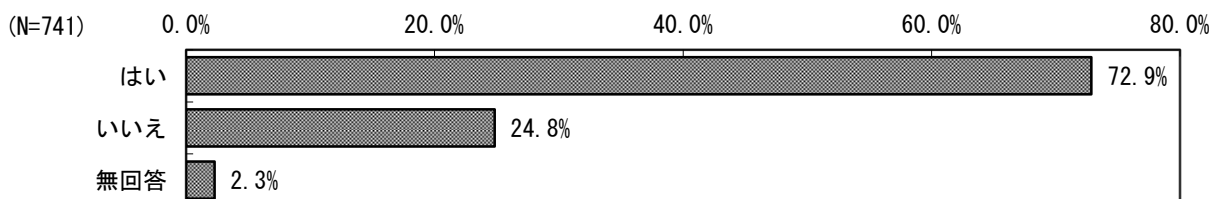
図 年齢別 勤務形態



(4) ここ1ヶ月、平均してよく眠れているか

ここ1ヶ月、平均してよく眠れているかをみると、「はい」(72.9%)、「いいえ」(24.8%)となっています。

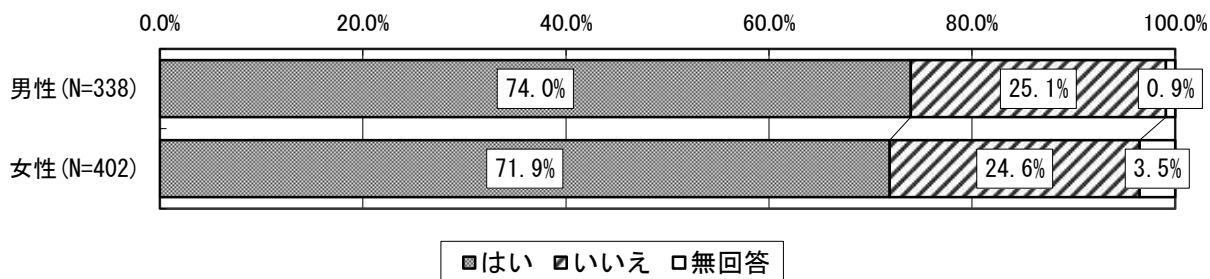
図 ここ1ヶ月、平均してよく眠れているか



● 性別

性別にみると、ここ1ヶ月、平均してよく眠れている方は男性（74.0%）が女性（71.9%）より2.1ポイント多くなっています。

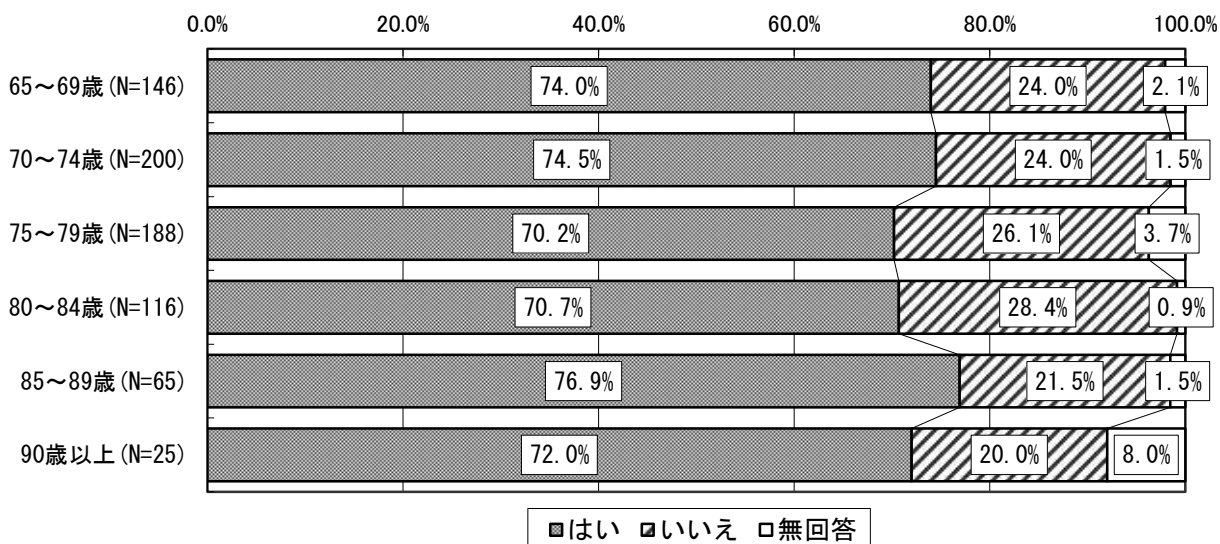
図 性別 ここ1ヶ月、平均してよく眠れているか



● 年齢別

年齢別にみると、ここ1ヶ月、平均してよく眠れている方は各年代で7割以上となっています。

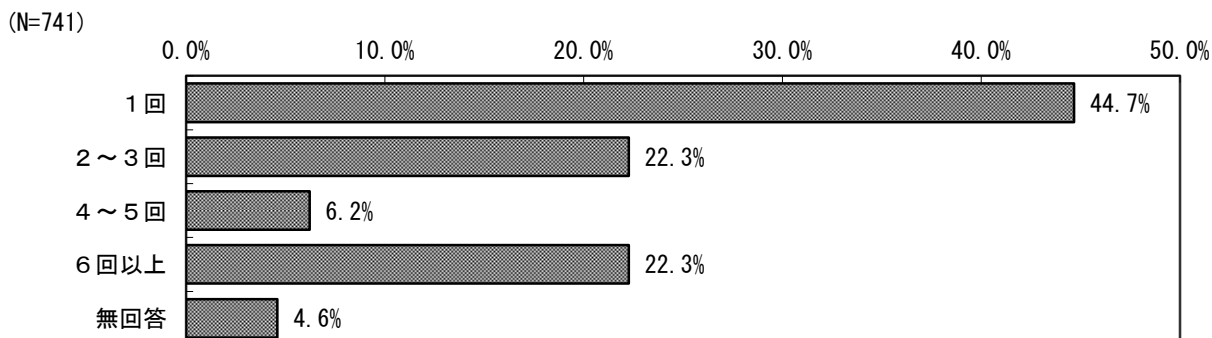
図 年齢別 ここ1ヶ月、平均してよく眠れているか



(5) 1ヶ月の通院回数

1ヶ月の通院回数をみると、「1回」（44.7%）が最も多く、次いで「2～3回」（22.3%）、「6回以上」（22.3%）となっています。

図 1ヶ月の通院回数



11 自由記述

介護保険制度や高齢者福祉について自由に記述してもらったところ、151名の記述がありました。その内容を分類したところ、以下のとおりとなっています。なお、複数にわたる内容の記述があった場合は意見ごとに計上しているため、各意見の合計件数と記述があった件数は一致しません。

表 自由記述

内容	件数
介護保険料に関するご意見・ご要望	40
介護保険制度の運用・サービスの充実に関するご意見・ご要望	25
情報提供に関するご意見・ご要望	18
交通設備・機関等に関するご意見・ご要望	14
自分や家族の現状について（元気である、楽しい等）の内容	12
町の高齢者福祉施策に関するご意見・ご要望	9
自分や家族の現状について（治療中、大変等）の内容	6
自分や家族の現状について（心配、不安等）の内容	5
新型コロナウイルス感染症についてのご意見	5
公共施設の充実に関するご意見・ご要望	4
認知症になった時や介護が必要になった時のご意見・ご要望・不安	4
経済的支援や負担軽減に関するご意見・ご要望	3
ひとり暮らしの高齢者に対する支援のご意見・ご要望	3
役場の手続き・相談体制等に関するご意見・ご要望	3
自分や家族の現状について（その他）の内容	3
外出、買い物、配食サービス等の支援に関するご意見・ご要望	3
公平な福祉サービスの提供に関するご意見・ご要望	3
免許返納後に交通手段に関するご意見・ご要望	2
地域・近隣の助け合いや見守り等に関するご意見・ご要望	2
将来の過ごし方の希望についてのご意見・ご要望	2
医療体制、医療費負担に関するご意見・ご要望	2
介護人材の確保・育成に関するご意見・ご要望	2
謝辞・お世話になった、期待している等のご意見	27
アンケートについてのご意見・ご要望	9
その他のご意見・ご要望	11
合計	217
記述があった件数	151

三郷町介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告書

令和3年3月

発行：奈良県生駒郡三郷町長寿健康課

〒636-0812

奈良県生駒郡三郷町勢野西 1-2-1

TEL (0745) 43-7323
